

2021 年度

日本学生オリエンテーリング選手権大会

ミドル・ディスタンス、リレー競技部門

報告書



期 日	2022年（令和4年） 1月29日（土）、2月4日（金）～6日（日） ・ 1月29日（土） 開会式（WEB） ・ 2月4日（金） モデルイベント、開会式 ・ 2月5日（土） ミドル・ディスタンス競技部門 ・ 2月6日（日） リレー競技部門、閉会式
開 催 地	三重県伊賀市
競技会場	神村学園高等部 伊賀校 グラウンド
主 催	日本学生オリエンテーリング連盟
主 管	2021年度日本学生オリエンテーリング選手権大会 ミドル・ディスタンス、リレー競技部門実行委員会
共 催	一般社団法人大学スポーツ協会（令和3年度スポーツ庁補助事業）
後 援	伊賀市、伊賀市教育委員会、公益社団法人日本オリエンテーリング協会 三重県オリエンテーリング協会
協 賛	株式会社日本旅行、SIGN 株式会社フォルテ 有限会社ヤマカワオーエンタープライズ

目次

ご挨拶

Page 2 - 3

1

公式成績

Page 4 - 15

- 1.1 ミドル・ディスタンス競技部門
- 1.2 リレー競技部門

2

入賞者コメント

Page 16 - 30

- 2.1 ミドル・ディスタンス競技部門 男子選手権の部
- 2.2 ミドル・ディスタンス競技部門 女子選手権の部
- 2.3 リレー競技部門 男子選手権の部
- 2.4 リレー競技部門 女子選手権の部

3

競技結果と解説

Page 31 - 50

- 3.2 ミドル・ディスタンス競技部門
- 3.3 リレー競技部門

4

大会運営報告

Page 51 - 62

- 4.1 大会企画の経緯
- 4.2 活動実績（運営）
- 4.3 活動実績（競技）
- 4.4 会計

5

新型コロナウイルス感染症対策について

Page 63 - 64

- 5.1 基本方針
- 5.2 事前準備
- 5.3 大会期間中の対応
- 5.4 大会後の対応
- 5.5 将来への提言

6

ライブ配信報告

Page 65 - 68

- 6.1 経緯
- 6.2 概要
- 6.3 事前準備
- 6.4 当日の運用
- 6.5 会計
- 6.6 将来への提言

7

イベント・アドバイザー報告

Page 69 - 73

イベント・アドバイザー 木俣 順

- 7.1 はじめに
- 7.2 業務報告
- 7.3 おわりに

8

将来への提言

Page 74

大会実行委員長 藤本 拓也

- 8.1 感染症に関するBCP策定について
- 8.2 宿泊原則の例外（感染症対策）について
- 8.3 実行委員会への問合せについて

9

スタートリスト

Page 75

10

参加者数一覧

Page 76 - 77

- 10.1 ミドル・ディスタンス競技
- 10.2 リレー競技

11

大会役員

Page 78

ご挨拶

日本学生オリエンテーリング連盟会長
河合 利幸



3年ぶりの春のインカレ。新型コロナ第6波の感染拡大を受けて中止になってもおかしくない状況の中、開催できたことをまず喜びたいと思います。今回は何としても開催するのだという実行委員や選手の皆さんの熱意の賜物と言えるでしょう。例年と同じ3月開催だったら、中止せざるを得なかったかもしれません。大学行事を考えると2月開催には問題点もありましたが、結果的にはよい判断でした。一方で、活動規制や大学行事などで参加できなかった大学があったことは、仕方がないとはいえ残念な点でした。

競技の方は、タフでテクニカルなコースで、女子にはやや厳しいものだったようです。大会や練習会が減ったことも影響しているのかもしれませんが、ミドル選手権は例年どおり秒差を争う接戦で、特に女子は同タイム優勝という前例のない勝負で、会場が大いに沸きました。リレー男子選手権では、京大の追い上げをかわして、東大が直近11回中3回目の3連覇を遂げる強さを見せつけました。次回、男子史上初の4連覇がかかります。リレー女子選手権では、地元関西勢の活躍が目立ちました。

コロナ禍も3年目に入り、アブノーマルがノーマルになりつつあります。授業を含めオンラインでの活動もごく普通になってきました。自由に活動できない状況はまだまだ続きそうですが、感染予防を怠らず、新たなツールをうまく活用して新歓を頑張ってください、新しい仲間をなるべく多く獲得していきましょう。そして、この競技の魅力を伝えていきましょう。

最後になりましたが、予測困難な状況の中、多忙な日々の合間を縫って準備に当たっていただいた実行委員会とその関係者の皆さんに改めて感謝いたします。地元関係者の皆様には、様々な面で多大なるご支援ご協力をいただきました。主催者の日本学連を代表して、厚く御礼申し上げます。

日本学生オリエンテーリング連盟幹事長
若月 俊宏



2大会の中止を経て開催された春インカレが幕を閉じてから、早2ヶ月が経過しました。私は今、新卒で入社した会社で日々の研修に追われています。朝出社し、帰ってきたと思ったらいつの間にかベッドの上で朝を迎えている今日この頃です。本原稿の提出も締め切り当日になってしまいました。実際に社会人という立場になって、実行委員会の皆様の凄まじさを改めて感じています。ご自身の活動もある中で、この規模・クオリティの春インカレを「3年ぶり」というプレッシャーも乗った状況下で開催してくださった実行委員会の皆様、また、ご尽力いただいた関係者の皆様には感謝してもしきれません。本当にありがとうございました。

多くの選手にとっては初めての春インカレだったと思います。参加経験がない大会に対して、どれほどの熱量をかけてくれるのか。実は心配していた部分もあったのですが、その不安は当日の戦いを見て吹っ飛びました。ロスジェネ世代の、あるいはそれ以前の先輩方が繋いでくれた春インカレにかけける熱量は、しっかりと選手たちに伝わっていたのだと思います。今度は私たちが次世代に繋いでいく番ですね。ぜひ後輩たちや新しく入ってきた新入生にバトンをつないでいてほしいと思います。

個人的な話になりますが、私はこの春インカレを自宅から配信を通じて観戦していました。大学からの規制で、課外活動が全面禁止となっていたためです。当時は最後まで出場を諦めることができませんでしたが、皆さんの熱い戦いをみて少しずつ事実を受け入れ、前を向くことができました。私も皆さんの走りに火をつけられた一人です。腐らずに頑張ります！

末筆ながら今大会の開催にあたり、ご尽力・ご協力を賜りました、関係者の皆様に御礼申し上げます。特に実行委員長の藤本さんは、2年前の春インカレの中止を決定した場で学連幹事長を務められており、特別な思い入れがあったと思います。改めて大会を開催してくださったことに感謝申し上げるとともに、私もその場に同席していただけて、今大会の成功は喜びもひとしおです。本当にありがとうございました。

2021年度日本学生オリエンテーリング選手権大会
ミドル・ディスタンス、リレー競技部門
実行委員長 藤本 拓也



何とか3年ぶりにインカレミドル・リレーを開催することができました。昨年度に引き続き新型コロナウイルスと社会情勢に翻弄されながらも、3年連続中止とはならず「春インカレを知らない世代」が生まれなかったのは良かったと思っています。

しかし、今回出場できなかった大学にとっては3年連続中止になるのと変わらない結果となりました。日本学連により大会の開催方針を決定した段階で「すべての大学が揃っていないが開催する」という状況は想定していましたが、こうして現実に出場できない大学が出てしまったことは非常に残念なことであり、申し訳なく思っています。

学生の皆さんはこの1年、活動が制限される中で工夫を重ねてオリエンテーリングに取り組まれてきたと思います。インカレの舞台を提供したのは私たち実行委員会でしたが、大会が成功したのは皆さんの熱意があってこそのものでした。また、日本学連幹事の皆さんは今年度も大会の開催に向けて様々な難しい判断をされていました。選手としての立場もあり、実際に出場が出来ない方もいる中での葛藤もあっただろうと思います。先を見通せぬ状況の中でのご尽力に対し、本当に感謝しています。

今回のインカレは、かつての春インカレを取り戻すための第一歩であったと考えています。「全大学が揃い、熱い声援の飛び交う春インカレ」は、3年前までは当たり前のものでした。今回は叶いませんでしたが、次回以降も諦めず目指すべきところだと思います。インカレの火を絶やさぬよう、オリエンテーリング界で一丸となって取り組んでいきましょう。私自身も微力ながら関わっていくつもりです。

最後になりましたが、コロナ禍でまん延防止重点措置も出ているという状況でも開催に漕ぎつけられたのは、地元の方々の多大なご理解・ご支援があってこそのことです。実行委員会を代表して厚く御礼申し上げます。今後ともよろしくお願いいたします。

1 公式成績

DISQは失格、DNSは未出走を意味します。
順位がついておらず、かつ記録があるものは競技時間超過を意味します。

1.1 ミドル・ディスタンス競技部門

ME 出走者数60名			
順位	氏名	学校・学年	記録
1	朝間 玲羽	東京大学4	00:36:52
2	平岡 丈	京都大学3	00:37:20
3	森清 星也	早稲田大学2	00:38:26
4	本庄 祐一	東京大学3	00:38:38
5	伊藤 元春	東京大学4	00:39:03
6	永山 遼真	筑波大学3	00:39:30
7	清水 嘉人	北海道大学4	00:39:38
8	二俣 真	京都大学3	00:39:39
9	平岩 伊武季	筑波大学3	00:39:47
10	鈴木 遼賀	岩手大学3	00:40:19
11	阿部 遼太郎	横浜市立大学4	00:40:27
12	藤井 一樹	名古屋工業大学4	00:42:34
13	栗生 啓介	名古屋大学4	00:43:05
14	金子 隼人	東京大学2	00:43:13
15	名雪 青葉	筑波大学4	00:43:46
16	羽田 拓真	横浜国立大学3	00:43:54
17	森田 邦夫	静岡大学4	00:44:15
18	藤原 悠平	東京大学4	00:44:39
19	根岸 健仁	一橋大学3	00:44:41
20	祖父江 有祐	筑波大学3	00:44:49
21	宮岡 竜也	早稲田大学3	00:44:50
22	和佐田 祥太郎	京都大学4	00:45:18
23	美濃部 駿	横浜市立大学1	00:45:24
24	藤澤 達也	東京大学3	00:45:27
25	岩淵 悠太	新潟大学4	00:45:36
26	伊藤 良介	京都大学4	00:45:45
27	坂本 慧	新潟大学4	00:47:29
28	立松 空	早稲田大学3	00:48:30
29	川崎 拓巴	東京理科大学3	00:48:33
30	折橋 旺	東京大学1	00:49:13
31	伊藤 高真	東京大学4	00:49:28
32	菅波 崇志	筑波大学3	00:49:35
33	和田 佳文	静岡大学4	00:49:54
34	箕浦 皓	京都大学4	00:50:10
35	竹重 拓輝	大阪大学4	00:50:12
36	村田 千真	筑波大学4	00:50:32
37	小林 尚暉	東京大学4	00:50:38
38	衣笠 匠斗	東京大学3	00:50:40
39	原 万尋	京都大学3	00:51:34
40	鈴木 琢也	横浜国立大学4	00:51:44
41	石田 倫啓	京都大学4	00:52:25
42	高木 一人	北海道大学3	00:52:31
43	小森 直人	芝浦工業大学3	00:52:38
44	入江 龍成	早稲田大学3	00:52:57
44	末満 寛太	北海道大学3	00:52:57
46	澤田 直志	早稲田大学3	00:55:10
47	伊地知 淳	千葉大学4	00:55:40
48	森 恒大	筑波大学4	00:55:43
49	竹下 晴山	茨城大学4	00:57:59
50	相馬 哲兵	東京大学3	00:59:12
MEの成績は右上に続く			

左下からの続き			
51	浴本 悠貴	神戸大学3	00:59:19
52	大西 肇	北海道大学3	00:59:58
53	堂垂 悠人	北海道大学3	01:02:45
54	丸山 悠人	北海道大学1	01:07:37
55	小高 敦志	岩手大学4	01:10:46
56	市川 礼偉	横浜市立大学4	01:16:27
57	牧島 滉平	広島大学3	01:29:47
	大野 陽広	岩手大学4	01:56:36
	森 倭渡	北海道大学4	DISQ
	小俣 敦宏	名古屋工業大学4	DISQ

WE 出走者数29名			
順位	氏名	学校・学年	記録
1	大栗 由希	茨城大学4	00:47:44
1	阿部 悠	実践女子大学4	00:47:44
3	松本 萌恵	神戸大学3	00:47:46
4	永山 尚佳	神戸大学4	00:48:22
5	栗山 ももこ	横浜市立大学3	00:49:33
6	上島 じゅ菜	お茶の水女子大学3	00:50:42
7	樋口 佳那	筑波大学1	00:52:44
8	五十嵐 羽奏	名古屋大学4	00:54:00
9	吉田 菜々子	東京理科大学2	00:54:02
10	今井 里奈	椋山女学園大学3	00:54:25
11	藤井 春菜	北海道大学3	00:56:13
12	福田 有紗	国際基督教大学2	00:57:30
13	猪股 紗如	千葉大学3	00:57:56
14	中神 智香	静岡大学4	00:58:08
15	明田 彩里	椋山女学園大学4	00:58:46
16	山崎 璃果	椋山女学園大学4	00:59:02
17	重岡 慧実	京都大学3	00:59:33
18	榎戸 麻衣	日本女子大学3	01:03:10
19	武石 瑞季	岩手大学3	01:03:53
20	大石 遥	新潟大学2	01:05:16
21	長瀬 麻里子	お茶の水女子大学3	01:05:27
22	高野 玲奈	横浜市立大学3	01:06:24
23	佐藤 美那子	横浜国立大学4	01:06:32
24	高野 澄佳	大阪大学2	01:09:31
25	須本 みずほ	椋山女学園大学4	01:11:31
26	佐藤 隆奈	筑波大学3	01:14:59
27	明神 紀子	聖心女子大学4	01:21:23
28	菊池 美結	岩手大学4	01:25:30
29	田切 香帆	北海道大学1	DISQ

MA1 出走者数51名			
順位	氏名	学校・学年	記録
1	西浦 裕	東京大学4	00:33:36
2	武田 信悟	北海道大学3	00:33:37
3	イルマズ 恵明	京都大学3	00:33:45
4	大六野 祐斗	千葉大学2	00:34:15
5	若林 海人	新潟大学3	00:34:47
6	谷口 瞬生	大阪大学3	00:34:55
7	根岸 龍宏	筑波大学3	00:35:07
8	村岡 泰輝	横浜国立大学2	00:36:14
9	満田 壮晴	大阪大学2	00:36:19
10	仲長 航	一橋大学3	00:37:03
11	東條 秀祐	京都大学4	00:37:20
12	櫻井 千尋	名古屋大学3	00:37:51
13	服部 証宏	名古屋工業大学3	00:38:16
14	藤井 悠輝	名古屋大学4	00:38:33
15	谷 遼太郎	大阪大学3	00:38:50
16	井土 宙	静岡大学3	00:39:38
17	山崎 晃一	筑波大学2	00:39:40
18	松嶋 亮弥	東京大学4	00:40:12
19	森田 悠生	名古屋大学4	00:40:14
20	鈴木 海斗	名古屋大学3	00:40:29
21	上田 皓一郎	立命館大学3	00:40:39
22	池ヶ谷 雄太	静岡大学2	00:42:04
23	杉村 天	神戸大学3	00:42:35
24	森 隆志	名古屋工業大学3	00:42:58
25	小丸 幸佑	京都大学4	00:43:12
26	龍溪 優希	京都大学4	00:43:16
27	松原 佑季	一橋大学3	00:44:53
28	市橋 駿	新潟大学2	00:45:12
29	小林 直登	名古屋大学3	00:45:34
30	加賀 萌起	一橋大学2	00:47:10
31	山口 敦也	新潟大学3	00:47:46
32	倉本 輝	静岡大学3	00:48:26
33	平野 良	北海道大学2	00:48:46
34	宮口 祐誠	京都大学3	00:51:15
35	田中 郁也	名古屋大学3	00:54:06
36	鈴木 璃土	筑波大学3	00:54:12
37	真家 遼介	千葉大学2	00:55:11
38	増井 貴登	東京理科大学3	00:55:13
39	川口 綜一郎	法政大学2	00:56:42
40	曲田 貴大	新潟大学4	00:57:50
41	藤村 晋也	新潟大学4	00:59:08
42	今 翔太	新潟大学3	01:00:07
43	井上 拓紀	一橋大学2	01:02:45
44	笹部 龍仁	京都大学4	01:04:50
44	疋田 雅裕	静岡大学3	01:07:45
46	新家 康佑	名古屋大学3	01:11:05
47	中西 悠太	東京大学2	01:13:06
	池田 馨	神戸大学2	01:15:15
	神谷 篤大	新潟大学2	DISQ
	佐藤 宏紀	千葉大学2	DISQ
	菅 悠証	大阪大学2	DISQ

MA2 出走者数53名			
順位	氏名	学校・学年	記録
1	笠井 虹汰	千葉大学4	00:28:12
2	高松 暉	筑波大学3	00:29:10
3	鎌倉 京平	筑波大学2	00:30:45
4	矢田 祐喜	静岡大学4	00:31:23
5	植西 柳太	新潟大学3	00:31:30
MA2の成績は右上へ続く			

左下からの続き			
6	奥村 将大	早稲田大学3	00:32:31
7	岩田 慈樹	京都大学4	00:33:16
8	橋本 遼佑	神戸市立工業高等専	00:34:01
9	西田 直人	茨城大学4	00:34:27
10	向井 悠真	京都大学3	00:35:21
11	堀内 颯介	茨城大学3	00:35:35
12	楊 泓志	横浜国立大学3	00:36:16
13	加賀谷 湧	東京大学2	00:36:44
14	高橋 友徳	岩手医科大学4	00:37:10
15	森下 晃成	静岡大学4	00:37:22
16	丸山 幸太	新潟大学4	00:37:47
17	網 優希	早稲田大学3	00:38:32
18	河野 隼司	東京大学4	00:39:04
19	速水 駿	名古屋大学4	00:40:29
20	岡本 哲史	京都大学4	00:40:41
21	吉仲 瑞貴	京都大学3	00:41:09
22	脇田 晃秀	名古屋大学4	00:44:04
23	河野 駿介	静岡大学3	00:45:28
24	京屋 陽介	名古屋大学4	00:45:31
25	中谷 駿介	神戸大学3	00:45:32
26	徳力 雅哉	立命館大学2	00:47:04
27	椿原 暖人	名古屋大学3	00:47:21
28	内藤 駿	名古屋工業大学3	00:48:04
29	阿部 冬星	東京大学4	00:48:35
30	松井 俊樹	静岡大学3	00:48:49
31	綾野 拓全	東京大学2	00:50:49
32	渡辺 陽太	東京大学2	00:52:30
33	杉浦 青空	新潟大学3	00:53:18
34	野中 亮吾	新潟大学3	00:53:31
35	藤井 宣之	一橋大学2	00:54:10
36	吉川 辰也	名古屋大学3	00:54:34
37	松本 皐佑	名古屋大学3	00:55:09
38	長井 翔太郎	京都大学3	00:55:24
39	塚田 一希	京都大学3	00:55:38
40	大西 諒哉	千葉大学3	00:55:40
41	金澤 晴樹	京都大学4	00:56:29
42	嶋崎 彰人	関東学院大学3	00:58:40
43	市川 竣介	筑波大学2	01:03:09
44	中村 亮佑	名古屋大学4	01:04:32
45	川端 将也	大阪大学3	01:06:16
46	小柳 俊介	新潟大学2	01:06:57
47	伊藤 滉太	新潟大学2	01:08:14
48	土屋 輝	関東学院大学4	01:09:55
49	浅井 蓮	静岡大学2	01:10:17
50	岡田 航大	新潟大学2	01:11:37
	中野 佑太郎	新潟大学3	01:17:12
	小林 諒真	大阪大学3	01:27:20
	鳥屋尾 太樹	大阪大学3	01:36:25

MB 出走者数9名			
順位	氏名	学校・学年	記録
1	前川 泰吉	名古屋大学4	00:28:19
2	飯田 健太	神戸大学2	00:38:26
3	濱中 俊太郎	神戸大学2	00:41:49
4	坂野 公紀	静岡大学3	00:46:48
5	塩谷 光希	神戸大学2	00:50:10
6	鯉江 岳	神戸大学2	00:54:17
7	小川 誠人	静岡大学3	00:55:15
8	岩瀬 晴生	京都大学2	01:07:39
	中村 昂陽	京都大学2	02:10:34

MF1 出走者数54名			
順位	氏名	学校・学年	記録
1	根本 浩平	東京理科大学1	00:18:30
2	中盛 雷也	神戸大学1	00:20:03
3	川崎 陽暉	茨城大学1	00:22:37
4	澤野 祐希	新潟大学1	00:23:07
5	久保木 航	東京大学1	00:23:33
6	市川 優人	早稲田大学1	00:23:40
7	福田 雅弥	新潟大学1	00:23:56
8	島田 智也	名古屋大学1	00:24:15
9	伊藤 凜太郎	名古屋大学1	00:25:07
10	浜口 祐至	京都大学1	00:25:23
11	小野 健未	筑波大学1	00:25:54
12	稲邊 拓哉	筑波大学1	00:26:20
13	三田村 和樹	名古屋大学1	00:27:31
14	大塚 誠也	東京理科大学1	00:28:25
15	内潟 風翔	北海道大学1	00:29:16
16	大平 昂典	大阪大学1	00:29:57
17	井崎 竜之介	横浜国立大学1	00:30:04
18	田中 優	京都大学1	00:30:12
19	廉林 仁寿	東京大学1	00:30:25
20	齋藤 航世	千葉大学1	00:30:29
21	波多野 直人	大阪大学1	00:31:27
22	延嶋 星那	茨城大学1	00:31:56
23	北原 隆明	千葉大学1	00:32:37
24	三井 健世	東京大学1	00:33:08
25	小野 慶真	法政大学1	00:33:20
26	山本 彩人	静岡大学1	00:33:56
27	尾木 真之介	名古屋大学1	00:33:57
28	植田 博真	京都大学1	00:34:11
29	水谷 悠人	静岡大学1	00:34:49
30	御子 裕治	名古屋大学1	00:35:07
31	近藤 悠真	大阪大学1	00:35:30
32	森 旭陽	千葉大学1	00:36:07
33	武田 翔	立命館大学1	00:36:55
34	高橋 祐太	大阪大学1	00:41:32
35	高田 滉平	千葉大学1	00:42:00
36	小林 聖矢	明治大学1	00:42:28
37	神田 悠希	名古屋大学1	00:43:23
38	毛利 智紀	京都大学1	00:48:47
39	井上 太陽	静岡大学1	00:50:35
40	知久 純也	立命館大学1	00:55:02
41	対馬 立也	静岡大学1	00:56:08
42	鈴木 応輔	名古屋大学1	00:57:43
43	清水 侃太	名古屋大学1	00:57:47
44	中村 和弘	神戸大学1	00:59:09
45	吉岡 奨悟	大阪大学1	01:04:18
46	林 洸樹	京都大学1	01:08:18
47	加茂 滉基	東京大学1	01:12:27
48	門 瑞起	大阪大学1	01:12:32
	井上 颯	広島大学1	01:38:19
	草野 伊武紀	大阪大学1	DISQ
	高尾 笙甫	京都大学1	DISQ
	小柳 幸仁	一橋大学1	DISQ
	梶原 玲央	立命館大学1	DISQ
	新井 悠仁	明治大学1	DISQ

MF2 出走者数52名			
順位	氏名	学校・学年	記録
1	野口 遊瑚	横浜国立大学1	00:18:22
2	石原 潮人	京都大学1	00:18:57
3	谷口 瑞樹	筑波大学1	00:19:11
4	上妻 慶太	横浜国立大学1	00:19:15
5	小野 旭陽	名古屋大学1	00:19:26
6	高塚 碩己	千葉大学1	00:20:13
7	丸田 祐大	大阪大学1	00:22:23
8	高辻 乃輔	名古屋大学1	00:22:38
9	玉木 林哉	京都大学1	00:23:33
10	佐藤 諒平	東京大学1	00:23:59
11	竹川 貴教	名古屋大学1	00:27:18
12	雲尾 岳宗	筑波大学1	00:27:19
13	酒川 卓登	新潟大学1	00:27:32
14	小野寺 悠太	一橋大学1	00:28:01
15	千葉 奨太郎	横浜国立大学1	00:28:23
16	織田 暁斗	神戸大学1	00:28:59
17	藤掛 凜大	早稲田大学1	00:30:41
18	八房 穰	千葉大学1	00:30:50
18	四宮 裕一朗	京都大学1	00:30:50
20	加用 直也	京都大学1	00:31:05
21	寺町 俊輝	千葉大学1	00:31:55
22	弓田 和生	法政大学1	00:32:24
23	竹田 涼馬	京都大学1	00:32:40
24	熊田 大晃	北海道大学1	00:33:03
25	左藤 礼司	法政大学1	00:34:51
26	横井 晃太	名古屋大学1	00:35:09
27	本多 哲大	北海道大学1	00:36:14
28	吉岡 春樹	京都大学1	00:37:15
29	宮本 颯太郎	神戸大学1	00:37:16
30	鈴木 悠馬	静岡大学1	00:37:38
31	原 総吾	早稲田大学1	00:38:08
32	中谷 太陽	立命館大学1	00:39:28
33	伊藤 崇仁	一橋大学1	00:39:46
34	岸 隼平	東京大学1	00:39:48
35	加藤 光馬	新潟大学1	00:41:01
36	佐藤 優太郎	東京大学1	00:41:09
37	角田 和貴	京都大学1	00:42:40
38	力丸 航	横浜市立大学1	00:43:15
39	飯島 浩平	静岡大学1	00:43:26
40	大道 樹	京都大学1	00:43:42
41	鈴江 晃人	大阪大学1	00:43:52
42	浅川 竣風	横浜国立大学1	00:44:38
43	山根 直樹	筑波大学1	00:45:06
44	徳田 風人	大阪大学1	00:46:30
45	山本 敬太	大阪大学1	00:47:09
46	谷口 直弥	京都大学1	00:47:34
47	京井 亮太	東京理科大学1	00:47:48
48	本多 快	静岡大学1	00:52:38
49	舘 直輝	名古屋大学1	00:55:46
50	高木 慎之介	名古屋大学1	00:59:33
51	半沢 航大	新潟大学1	01:05:43
	村田 悠	京都大学1	DISQ

WA 出走者数36名			
順位	氏名	学校・学年	記録
1	池ヶ谷 みの	一橋大学4	00:27:12
2	松本 芽依	横浜市立大学3	00:29:00
3	坂巻 朱里	十文字女子大学3	00:29:37
4	高橋 茉莉奈	大阪大学3	00:32:08
5	駒崎 成美	神戸大学3	00:32:40
6	土田 千聖	名古屋大学4	00:33:35
7	藤井 明日香	関東学院大学4	00:35:03
8	山賀 千尋	大阪大学4	00:35:13
9	羽鳥 汐音	新潟大学2	00:35:29
10	住谷 遥夏	日本女子大学3	00:36:05
11	鶴岡 涼	東京理科大学2	00:38:21
12	小久保 茉優	立命館大学3	00:38:27
13	佐藤 頌子	大阪大学2	00:40:59
14	坂東 愉楽	京都女子大学4	00:42:41
15	宮澤 海帆	横浜市立大学2	00:44:09
16	村上 彩乃	京都大学4	00:44:52
17	林 里美	大阪大学2	00:45:59
18	溝渕 賀子	神戸大学3	00:46:23
19	藤田 奈津美	奈良女子大学4	00:47:32
20	小橋 唯華	京都女子大学4	00:49:29
21	市野 夢衣	奈良女子大学4	00:49:48
22	正山 阿智	横浜市立大学3	00:51:23
23	高橋 志穂	岩手大学4	00:51:25
24	滝澤 伊織	新潟大学4	00:52:15
25	佐々木 花衣	茨城大学3	00:54:07
26	崎原 美咲紀	千葉大学3	00:56:26
27	森下 遥	千葉大学2	00:59:33
28	越智 純香	京都大学4	01:04:55
29	澤木 彩	大阪大学2	01:05:23
30	矢倉 美励	千葉大学3	01:06:16
31	酒井 舞子	京都女子大学4	01:10:41
	柴崎 愛有	新潟大学2	DISQ
	吉田 茉莉枝	茨城大学4	DISQ
	鈴木 春音	名古屋大学4	DISQ
	杉浦 野乃子	椋山女学園大学3	DISQ
	森本 雛子	京都女子大学3	DISQ

WB 出走者数8名			
順位	氏名	学校・学年	記録
1	大羽 育美	立命館大学2	00:46:40
2	森江 菜々子	京都女子大学3	01:02:42
	押川 比奈	奈良女子大学2	01:17:57
	中井 愛実	奈良女子大学3	01:25:11
	齋藤 遥	十文字女子大学2	02:08:23
	久米 明日香	神戸大学3	DISQ
	寺本 遊林	京都女子大学2	DISQ
	中村 優那	京都女子大学3	DISQ

WF 出走者数42名			
順位	氏名	学校・学年	記録
1	桑原 唯歩	横浜国立大学1	00:14:41
2	宮川 葵衣	東京理科大学1	00:18:02
3	和田 真由子	筑波大学1	00:18:20
4	浦中 美里	東京理科大学1	00:18:49
5	平澤 葵	横浜国立大学1	00:20:05
5	藤澤 ゆい	神戸大学1	00:20:05
7	中嶋 智桃	京都大学1	00:20:06
8	小島 優唯	一橋大学1	00:20:14
9	吉田 菜里	椋山女学園大学1	00:21:04
10	河内 絵里香	法政大学1	00:21:54
11	村井 涼香	京都女子大学1	00:22:04
12	西川 真由	日本女子大学1	00:22:38
13	細野 泉	津田塾大学1	00:23:12
14	間正 百香	立命館大学1	00:23:31
15	箕浦 夕紀	立命館大学1	00:24:19
16	小野 希美	椋山女学園大学1	00:24:38
17	坂池 なつほ	筑波大学1	00:25:29
18	天田 鈴	横浜国立大学1	00:25:30
19	牧 花音	椋山女学園大学1	00:25:51
20	相葉 莉子	横浜市立大学1	00:26:21
21	角本 柚香	京都大学1	00:26:24
22	小林 真結	京都大学1	00:27:14
23	秋元 珠羽	実践女子大学1	00:27:51
24	溝端 昭子	明治大学1	00:28:22
25	岡本 佑希	椋山女学園大学1	00:29:14
26	林 牧穂	奈良女子大学1	00:29:45
27	安部 紗也佳	横浜市立大学1	00:29:46
28	眞田 莉花	東京理科大学1	00:30:43
29	羽岡 美紀	京都大学1	00:31:18
30	浅野 瑞妃	京都大学1	00:31:45
31	高見 綾花	広島大学1	00:32:49
32	野崎 琴乃	椋山女学園大学1	00:32:54
33	井岡 亜優	京都大学1	00:33:54
34	平井 寿々乃	実践女子大学1	00:34:11
35	橋村 ひな	実践女子大学1	00:37:56
36	穴田 小都	奈良女子大学1	00:38:40
37	堀内 愛優里	椋山女学園大学1	00:41:27
38	伊東 京香	早稲田大学1	00:44:51
39	安井 優花	京都女子大学1	00:46:10
40	日高 綾音	京都大学1	00:47:02
41	永田 結琳	京都女子大学1	00:53:00
	平田 千畝	津田塾大学1	DISQ

MER 出走チーム数 20

順位	チーム	1 走	2 走	3 走
1	東京大学	本庄 祐一	伊藤 元春	朝間 玲羽
	2:39:35 (101)	MER_CP 00:53:01 00:53:01	2 MER_AR 00:55:15 01:48:16	2 MER_BQ 00:51:19 02:39:35
2	京都大学	伊藤 良介	二俣 真	平岡 丈
	2:43:44 (106)	MER_CR 01:03:12 01:03:12	1 MER_AP 00:51:15 01:54:27	1 MER_BQ 00:49:17 02:43:44
3	早稲田大学	立松 空	森清 星也	入江 龍成
	2:57:12 (123)	MER_AR 01:06:29 01:06:29	4 MER_BP 00:52:11 01:58:40	1 MER_CQ 00:58:32 02:57:12
4	筑波大学	菅波 崇志	祖父江 有祐	永山 遼真
	2:59:36 (108)	MER_BP 01:01:00 01:01:00	2 MER_CQ 01:03:44 02:04:44	2 MER_AR 00:54:52 02:59:36
5	北海道大学	高木 一人	清水 嘉人	森 倭渡
	3:02:06 (114)	MER_CP 00:52:14 00:52:14	1 MER_BQ 01:02:37 01:54:51	3 MER_AR 01:07:15 03:02:06
6	新潟大学	岩淵 悠太	坂本 慧	若林 海人
	3:11:47 (107)	MER_AR 00:59:50 00:59:50	3 MER_CP 00:59:58 01:59:48	3 MER_BQ 01:11:59 03:11:47
7	茨城大学	堀内 颯介	竹下 晴山	西田 直人
	3:40:53 (112)	MER_BQ 01:18:06 01:18:06	6 MER_CP 01:08:37 02:26:43	5 MER_AR 01:14:10 03:40:53
8	横浜市立大学	美濃部 駿	市川 礼偉	阿部 遼太郎
	3:43:16 (117)	MER_CR 01:04:10 01:04:10	2 MER_AQ 01:36:56 02:41:06	3 MER_BP 01:02:10 03:43:16
9	千葉大学	大六野 祐斗	笠井 虹汰	伊地知 淳
	3:45:08 (121)	MER_CP 01:36:51 01:36:51	7 MER_AQ 01:06:57 02:43:48	1 MER_BR 01:01:20 03:45:08
10	横浜国立大学	鈴木 琢也	楊 泓志	羽田 拓真
	3:52:08 (103)	MER_AP 01:01:15 01:01:15	2 MER_BQ 01:44:06 02:45:21	8 MER_CR 01:06:47 03:52:08
11	大阪大学	竹重 拓輝	谷口 瞬生	満田 壮晴
	3:57:06 (113)	MER_CQ 01:10:32 01:10:32	3 MER_AR 01:28:03 02:38:35	7 MER_BP 01:18:31 03:57:06
12	名古屋大学	櫻井 千尋	京屋 陽介	粟生 啓介
	4:10:17 (105)	MER_CQ 01:25:16 01:25:16	5 MER_AP 01:39:22 03:04:38	4 MER_BR 01:05:39 04:10:17
	芝浦工業大学・岩手医科大学 ・神戸市立工業高等専門学校混成	小森 直人	高橋 友徳	橋本 遼佑
	4:12:50 (126) 特例措置	MER_BQ 01:07:32 01:07:32	4 MER_CR 01:29:26 02:36:58	5 MER_AP 01:35:52 04:12:50
13	岩手大学	小高 敦志	鈴木 遼賀	原 柊斗
	4:44:33 (118)	MER_CQ 01:16:27 01:16:27	4 MER_BR 01:02:24 02:18:51	2 MER_AP 02:25:42 04:44:33
14	一橋大学	仲長 航	根岸 健仁	加賀 萌起
	4:47:21 (111)	MER_BP 01:54:25 01:54:25	7 MER_CR 01:05:10 02:59:35	3 MER_AQ 01:47:46 04:47:21
15	東京理科大学	川崎 拓巴	大塚 誠也	根本 浩平
	4:49:04 (122)	MER_CR 01:32:57 01:32:57	6 MER_BP 01:38:10 03:11:07	6 MER_AQ 01:37:57 04:49:04
16	神戸大学	浴本 悠貴	中谷 駿介	杉村 天
	4:56:39 (119)	MER_BP 01:06:26 01:06:26	4 MER_AQ 01:52:56 02:59:22	6 MER_CR 01:57:17 04:56:39

名古屋工業大学	森 隆志	藤井 一樹	小俣 敦宏
DISQ (124)	MER_BR 01:25:07 4 01:25:07	MER_CP 01:01:53 4 02:27:00	MER_AQ DISQ
静岡大学	森田 邦夫	矢田 祐喜	和田 佳丈
DISQ (116)	MER_AQ 01:09:47 2 01:09:47	MER_BR DISQ	MER_CP 01:09:22 6
立命館大学	徳力 雅哉	上田 皓一朗	知久 純也
DISQ (125)	MER_AR DISQ	MER_BQ 01:22:19 7	MER_CP DISQ

WER 出走チーム数 19										
順位	チーム	1 走			2 走			3 走		
	お茶の水女子大学 ・国際基督教大学混成	福田 有紗			上島 じゅ菜			長瀬 麻里子		
	2:43:09 (223) 特例措置	WER_BQ 01:00:03 2 01:00:03			WER_CR 00:55:07 1 01:55:10			WER_AP 00:47:59 1 02:43:09		
1	横浜市立大学	松本 芽依			高野 玲奈			栗山 ももこ		
	3:05:43 (205)	WER_CP 01:02:49 1 01:02:49 3			WER_BQ 01:11:58 7 02:14:47 3			WER_AR 00:50:56 1 03:05:43 1		
2	椙山女学園大学	須本 みずほ			明田 彩里			今井 里奈		
	3:05:48 (218)	WER_BP 01:01:38 2 01:01:38 2			WER_CQ 01:08:02 3 02:09:40 2			WER_AR 00:56:08 3 03:05:48 2		
3	岩手大学	高橋 志穂			武石 瑞季			菊池 美結		
	3:48:21 (209)	WER_BQ 01:46:45 8 01:46:45 8			WER_CP 01:06:44 3 02:53:29 6			WER_AR 00:54:52 2 03:48:21 3		
	十文字学園女子大学・早稲 田大学・聖心女子大学混成	坂巻 朱里			伊東 京香			明神 紀子		
	3:53:31 (222) 特例措置	WER_CR 01:07:29 4 01:07:29			WER_AQ 01:31:03 3 02:38:32			WER_BP 01:14:59 3 03:53:31		
4	大阪大学	高野 澄佳			高橋 茉莉奈			佐藤 頌子		
	4:02:06 (210)	WER_AQ 01:37:50 5 01:37:50 7			WER_BR 00:59:39 1 02:37:29 5			WER_CP 01:24:37 5 04:02:06 4		
5	日本女子大学	住谷 遥夏			西川 真由			榎戸 麻衣		
	4:08:25 (207)	WER_CR 01:03:33 2 01:03:33 4			WER_AP 01:53:04 3 02:56:37 8			WER_BQ 01:11:48 6 04:08:25 5		
6	京都大学	羽岡 美紀			重岡 慧実			村上 彩乃		
	4:08:34 (220)	WER_AR 01:25:13 4 01:25:13 5			WER_BQ 01:07:18 5 02:32:31 4			WER_CP 01:36:03 6 04:08:34 6		
7	東京理科大学	宮川 葵衣			吉田 菜々子			鶴岡 涼		
	4:13:11 (219)	WER_BP 01:00:12 1 01:00:12 1			WER_AQ 00:54:52 1 01:55:04 1			WER_CR 02:18:07 7 04:13:11 7		
8	横浜国立大学	佐藤 美那子			平澤 葵			桑原 唯歩		
	4:42:25 (214)	WER_BR 01:34:34 2 01:34:34 6			WER_CP 01:19:23 4 02:53:57 7			WER_AQ 01:48:28 6 04:42:25 8		
9	新潟大学	羽鳥 汐音			大石 遥			柴崎 愛有		
	4:49:20 (215)	WER_AP 01:56:42 4 01:56:42 9			WER_BQ 01:03:22 3 03:00:04 9			WER_CR 01:49:16 6 04:49:20 9		
	名古屋大学	土田 千聖			鈴木 春音			五十嵐 羽奏		
	4:43:51 (208)	WER_CP 01:03:25 2 01:03:25			WER_AR 02:49:04 7 03:52:29			WER_BQ 00:51:22 1 04:43:51		
	茨城大学	佐々木 花衣			吉田 茉莉枝			大栗 由希		
	5:14:18 (204)	WER_CR 01:43:18 5 01:43:18			WER_BP 01:59:28 4 03:42:46			WER_AQ 01:31:32 4 05:14:18		
	筑波大学	佐藤 隆奈			樋口 佳那			坂池 なつほ		
	DISQ (201)	WER_AQ 01:09:15 2 01:09:15			WER_CR 01:07:25 3 02:16:40			WER_BP DISQ		
	神戸大学	永山 尚佳			駒崎 成美			松本 萌恵		
	DISQ (221)	WER_BQ 01:03:23 4 01:03:23			WER_AR 01:47:38 6 02:51:01			WER_CP DISQ		

	奈良女子大学	藤田 奈津美			市野 夢衣			小早川 瑛子		
	DISQ (212)	WER_AR	01:30:57	5	WER_BP	02:09:15	5	WER_CQ	DISQ	
			01:30:57			03:40:12				
	京都女子大学	小橋 唯華			上原 珠美			坂東 愉楽		
	DISQ (211)	WER_CQ	01:49:47	4	WER_AP	01:58:38	5	WER_BR	DISQ	
			01:49:47			03:48:25				
	実践女子大学	富山 詩央里			坂根 歩実			阿部 悠		
	DISQ (206)	WER_BR	DISQ		WER_AP	01:44:16	2	WER_CQ	00:43:37	1
	千葉大学	矢倉 美励			猪股 紗如			崎原 美咲紀		
	DISQ (203)	WER_AP	DISQ		WER_CQ	01:01:20	2	WER_BR	01:36:11	3

MAR 出走チーム数 51										
順位	チーム	1 走			2 走			3 走		
1	東京大学 MA	藤原 悠平			藤澤 達也			金子 隼人		
	1:35:19 (1132)	MAR/ORL_A	00:31:18	6	MAR/ORL_B	00:33:43	11	MAR/ORL_C	00:30:18	5
		/MAS	00:31:18	1	/OSL	01:05:01	1		01:35:19	1
2	筑波大学 MA	平岩 伊武季			村田 千真			名雪 青葉		
	1:41:59 (1128)	MAR/ORL_A/	00:32:49	9	MAR/ORL_C	00:36:01	13	MAR/ORL_B	00:33:09	9
		/MAS	00:32:49	2		01:08:50	2	/OSL	01:41:59	2
3	京都大学 MA	石田 倫啓			箕浦 皓			和佐田 祥太朗		
	1:43:40 (1169)	MAR/ORL_C	00:36:22	14	MAR/ORL_B	00:34:13	12	MAR/ORL_A	00:33:05	10
			00:36:22	4	/OSL	01:10:35	3	/MAS	01:43:40	3
4	北海道大学 MA	堂垂 悠人			武田 信悟			末満 寛太		
	1:51:53 (1114)	MAR/ORL_C	00:36:59	15	MAR/ORL_A	00:37:17	21	MAR/ORL_B	00:37:37	27
			00:36:59	5	/MAS	01:14:16	4	/OSL	01:51:53	4
5	筑波大学 MB	森 恒大			根岸 龍宏			高松 暉		
	1:52:51 (1129)	MAR/ORL_B	00:41:15	42	MAR/ORL_A	00:36:39	19	MAR/ORL_C	00:34:57	9
		/OSL	00:41:15	13	/MAS	01:17:54	7		01:52:51	5
6	東京大学 MF	久保木 航			佐藤 諒平			折橋 旺		
	1:53:58 (1137) 新人	MAR/ORL_B	00:34:43	14	MAR/ORL_A	00:42:04	31	MAR/ORL_C	00:37:11	17
		/OSL	00:34:43	3	/MAS	01:16:47	5		01:53:58	6
7	東京大学 MB	伊藤 嵩真			衣笠 匠斗			小林 尚暉		
	1:58:24 (1133)	MAR/ORL_B	00:38:37	30	MAR/ORL_A	00:43:48	38	MAR/ORL_C	00:35:59	12
		/OSL	00:38:37	7	/MAS	01:22:25	10		01:58:24	7
8	横浜国立大学 MA	上妻 慶太			千葉 奨太郎			野口 遊瑚		
	2:00:39 (1145) 新人	MAR/ORL_C	00:37:26	18	MAR/ORL_A	00:46:05	43	MAR/ORL_B	00:37:08	25
			00:37:26	6	/MAS	01:23:31	13	/OSL	02:00:39	8
9	名古屋大学 MA	森田 悠生			小林 直登			藤井 悠輝		
	2:00:57 (1159)	MAR/ORL_B	00:41:09	41	MAR/ORL_A	00:36:53	20	MAR/ORL_C	00:42:55	31
		/OSL	00:41:09	12	/MAS	01:18:02	8		02:00:57	9
10	筑波大学 MD	山崎 晃一			網 優希			鎌倉 京平		
	2:02:08 (1131)	MAR/ORL_A	00:38:54	25	MAR/ORL_B	00:47:21	67	MAR/ORL_C	00:35:53	11
		/MAS	00:38:54	9	/OSL	01:26:15	15		02:02:08	10
11	東京大学 MC	相馬 哲兵			中西 悠太			加賀谷 湧		
	2:03:47 (1134)	MAR/ORL_B	00:43:38	53	MAR/ORL_C	00:43:39	33	MAR/ORL_A	00:36:30	18
		/OSL	00:43:38	16		01:27:17	16	/MAS	02:03:47	11
12	名古屋工業大学 MA	島田 智也			内藤 駿			服部 証宏		
	2:04:06 (1166)	MAR/ORL_A	00:45:17	41	MAR/ORL_C	00:37:06	16	MAR/ORL_B	00:41:43	48
		/MAS	00:45:17	20		01:22:23	9	/OSL	02:04:06	12
13	京都大学 MD	東條 秀祐			岩田 慈樹			イルマズ 恵明		
	2:05:26 (1172)	MAR/ORL_B	00:44:55	59	MAR/ORL_A	00:38:31	24	MAR/ORL_C	00:42:00	26
		/OSL	00:44:55	19	/MAS	01:23:26	11		02:05:26	13

	新潟大学 MA	植西 柳太	福田 雅弥			丸山 幸太				
14	2:08:46	MAR/ORL_A	00:39:15	26	MAR/ORL_C	00:48:40	40	MAR/ORL_B	00:40:51	40
	(1117)	/MAS	00:39:15	10		01:27:55	17	/OSL	02:08:46	14
	京都大学 MB	岡本 哲史	向井 悠真			原 万尋				
15	2:10:21	MAR/ORL_B	00:40:32	37	MAR/ORL_C	00:47:56	39	MAR/ORL_A	00:41:53	30
	(1170)	/OSL	00:40:32	11		01:28:28	18	/MAS	02:10:21	15
	大阪大学 MA	谷 遼太郎	丸田 祐大			川端 将也				
16	2:16:32	MAR/ORL_B	00:46:21	65	MAR/ORL_C	00:38:25	21	MAR/ORL_A	00:51:46	56
	(1167)	/OSL	00:46:21	23		01:24:46	14	/MAS	02:16:32	16
	早稲田大学 MA	奥村 将大	澤田 直志			宮岡 竜也				
17	2:19:52	MAR/ORL_C	00:49:15	42	MAR/ORL_B	00:56:24	84	MAR/ORL_A	00:34:13	11
	(1147)		00:49:15	24	/OSL	01:45:39	20	/MAS	02:19:52	17
	京都大学 MC	角田 和貴	石原 潮人			四宮 裕一朗				
18	2:20:11	MAR/ORL_B	00:38:47	31	MAR/ORL_C	00:38:04	20	MAR/ORL_A	01:03:20	72
	(1171) 新人	/OSL	00:38:47	8		01:16:51	6	/MAS	02:20:11	18
	東京大学 ME	西浦 裕	松嶋 亮弥			綾野 拓全				
19	2:22:06	MAR/ORL_A	00:44:04	39	MAR/ORL_B	00:39:24	34	MAR/ORL_C	00:58:38	53
	(1136)	/MAS	00:44:04	17	/OSL	01:23:28	12		02:22:06	19
	京都大学 MF	笹部 龍仁	吉仲 瑞貴			龍溪 優希				
20	2:27:34	MAR/ORL_C	00:52:46	45	MAR/ORL_B	00:46:41	66	MAR/ORL_A	00:48:07	47
	(1174)		00:52:46	30	/OSL	01:39:27	19	/MAS	02:27:34	20
	名古屋大学 MB	三田村 和樹	鈴木 応輔			小野 旭陽				
21	2:29:42	MAR/ORL_C	00:53:15	47	MAR/ORL_B	00:53:27	79	MAR/ORL_A	00:43:00	36
	(1160) 新人		00:53:15	31	/OSL	01:46:42	22	/MAS	02:29:42	21
	千葉大学 MA	高塚 碩己	森 旭陽			八房 穰				
22	2:32:42	MAR/ORL_A	00:51:50	57	MAR/ORL_B	00:53:58	81	MAR/ORL_C	00:46:54	37
	(1126) 新人	/MAS	00:51:50	28	/OSL	01:45:48	21		02:32:42	22
	東京大学 MG	三井 健世	廉林 仁寿			佐藤 優太郎				
23	2:48:05	MAR/ORL_C	00:42:53	30	MAR/ORL_B	01:08:57	94	MAR/ORL_A	00:56:15	64
	(1138) 新人		00:42:53	15	/OSL	01:51:50	27	/MAS	02:48:05	23
	法政大学 MA	小野 慶真	左藤 礼司			弓田 和生				
24	2:48:56	MAR/ORL_B	01:15:18	99	MAR/ORL_C	00:58:27	52	MAR/ORL_A	00:35:11	13
	(1141) 新人	/OSL	01:15:18	36		02:13:45	35	/MAS	02:48:56	24
	法政大学 MB	松井 俊樹	川口 綜一朗			井土 宙				
25	2:52:57	MAR/ORL_C	00:58:38	53	MAR/ORL_A	01:08:46	77	MAR/ORL_B	00:45:33	63
	(1144)		00:58:38	33	/MAS	02:07:24	34	/OSL	02:52:57	25
	横浜国立大学 MB	井崎 竜之介	浅川 竣風			村岡 泰輝				
26	2:53:23	MAR/ORL_B	01:19:21	101	MAR/ORL_A	00:46:46	44	MAR/ORL_C	00:47:16	38
	(1146)	/OSL	01:19:21	37	/MAS	02:06:07	33		02:53:23	26
	名古屋大学 MC	中村 亮佑	御子 裕治			松本 皐佑				
27	2:56:11	MAR/ORL_B	00:56:55	85	MAR/ORL_C	01:05:42	60	MAR/ORL_A	00:53:34	62
	(1161)	/OSL	00:56:55	32		02:02:37	32	/MAS	02:56:11	27
	新潟大学 MD	伊藤 滉太	神谷 篤大			野中 亮吾				
28	2:56:21	MAR/ORL_B	01:07:45	92	MAR/ORL_A	00:44:52	40	MAR/ORL_C	01:03:44	58
	(1120)	/OSL	01:07:45	35	/MAS	01:52:37	29		02:56:21	28
	早稲田大学 MB	市川 優人	原 総吾			藤掛 凜大				
29	3:00:34	MAR/ORL_C	00:42:27	29	MAR/ORL_A	01:04:19	73	MAR/ORL_B	01:13:48	97
	(1148) 新人		00:42:27	14	/MAS	01:46:46	23	/OSL	03:00:34	29
	静岡大学 MA	森下 晃成	河野 駿介			池ヶ谷 雄太				
30	3:02:01	MAR/ORL_B	00:44:10	56	MAR/ORL_A	01:08:12	76	MAR/ORL_C	01:09:39	67
	(1154)	/OSL	00:44:10	18	/MAS	01:52:22	28		03:02:01	30
	京都大学 MI	田中 優	谷口 直弥			浜口 祐至				
31	3:04:01	MAR/ORL_A	00:52:09	59	MAR/ORL_B	00:58:36	88	MAR/ORL_C	01:13:16	69
	(1177) 新人	/MAS	00:52:09	29	/OSL	01:50:45	25		03:04:01	31

32	北海道大学 MC	丸山 悠人			熊田 大晃			内潟 風翔		
	3:04:14	MAR/ORL_B	00:45:24	61	MAR/ORL_C	01:03:16	57	MAR/ORL_A	01:15:34	78
	(1116) 新人	/OSL	00:45:24	21		01:48:40	24	/MAS	03:04:14	32
33	京都大学 ME	小丸 幸佑			金澤 晴樹			中村 昂陽		
	3:11:52	MAR/ORL_A	00:50:59	51	MAR/ORL_C	01:06:16	62	MAR/ORL_B	01:14:37	98
	(1173)	/MAS	00:50:59	25		01:57:15	30	/OSL	03:11:52	33
34	東京大学 MD	河野 隼司			阿部 冬星			伊藤 颯		
	3:20:41	MAR/ORL_B	00:51:13	77	MAR/ORL_C	01:00:34	56	MAR/ORL_A	01:28:54	83
	(1135)	/OSL	00:51:13	27		01:51:47	26	/MAS	03:20:41	34
35	京都大学 MH	竹田 涼馬			吉岡 春樹			毛利 智紀		
	3:24:37	MAR/ORL_C	01:22:40	73	MAR/ORL_A	00:59:44	70	MAR/ORL_B	01:02:13	91
	(1176) 新人		01:22:40	39	/MAS	02:22:24	37	/OSL	03:24:37	35
36	新潟大学 MB	小柳 俊介			山口 敦也			市橋 駿		
	3:24:47	MAR/ORL_C	01:25:42	75	MAR/ORL_A	01:05:38	74	MAR/ORL_B	00:53:27	79
	(1118)		01:25:42	40	/MAS	02:31:20	38	/OSL	03:24:47	36
37	京都大学 MJ	加用 直也			植田 博貴			玉木 林哉		
	3:27:59	MAR/ORL_C	01:20:13	71	MAR/ORL_A	01:19:58	80	MAR/ORL_B	00:47:48	70
	(1178) 新人		01:20:13	38	/MAS	02:40:11	39	/OSL	03:27:59	37
38	名古屋大学 MF	高木 慎之介			前川 泰吉			鈴木 海斗		
	3:32:56	MAR/ORL_C	01:46:31	78	MAR/ORL_B	00:58:31	87	MAR/ORL_A	00:47:54	46
	(1164)		01:46:31	41	/OSL	02:45:02	40	/MAS	03:32:56	38
39	新潟大学 MC	今 翔太			岡田 航大			中野 佑太朗		
	3:33:27	MAR/ORL_A	00:45:28	42	MAR/ORL_B	01:31:02	103	MAR/ORL_C	01:16:57	70
	(1119)	/MAS	00:45:28	22	/OSL	02:16:30	36		03:33:27	39
40	京都大学 MG	塚田 一希			宮口 祐誠			長井 翔太郎		
	3:55:46	MAR/ORL_A	00:59:30	69	MAR/ORL_B	01:56:47	105	MAR/ORL_C	00:59:29	55
	(1175)	/MAS	00:59:30	34	/OSL	02:56:17	41		03:55:46	40
41	静岡大学 MB	倉本 輝			疋田 雅裕			小川 誠人		
	4:15:50	MAR/ORL_A	00:51:11	53	MAR/ORL_C	01:07:47	64	MAR/ORL_B	02:16:52	106
	(1155)	/MAS	00:51:11	26		01:58:58	31	/OSL	04:15:50	41
	静岡大学 ME	山本 彩人			対馬 立也			飯島 浩平		
	4:49:34	MAR/ORL_B	01:27:27	102	MAR/ORL_A	01:58:04	86	MAR/ORL_C	01:24:03	74
	(1158) 新人	/OSL	01:27:27		/MAS	03:25:31			04:49:34	
	北海道大学 MB	平野 良			本多 哲大			大西 肇		
	DISQ	MAR/ORL_A	00:51:39	55	MAR/ORL_C	01:05:41	59	MAR/ORL_B	DISQ	
	(1115)	/MAS	00:51:39			01:57:20		/OSL		
	静岡大学 MC	浅井 蓮			本多 快			坂野 公紀		
	DISQ	MAR/ORL_A	01:27:55	82	MAR/ORL_C	01:29:41	76	MAR/ORL_B	DISQ	
	(1156)	/MAS	01:27:55			02:57:36		/OSL		
	名古屋大学 ME	脇田 晃秀			伊藤 凜太郎			吉川 辰也		
	DISQ	MAR/ORL_C	00:45:06	36	MAR/ORL_A	DISQ		MAR/ORL_B	DISQ	
	(1163)		00:45:06		/MAS			/OSL		
	筑波大学 MC	稲邊 拓哉			小野 健未			谷口 瑞樹		
	DISQ	MAR/ORL_A	00:52:51	60	MAR/ORL_C	DISQ		MAR/ORL_B	00:36:00	22
	(1130) 新人	/MAS	00:52:51					/OSL		
	千葉大学 MB	齋藤 航世			北原 隆明			高田 滉平		
	DISQ	MAR/ORL_C	01:09:06	66	MAR/ORL_A	DISQ		MAR/ORL_B	01:00:44	90
	(1127) 新人		01:09:06		/MAS			/OSL		
	静岡大学 MD	井上 太陽			鈴木 悠馬			水谷 悠人		
	DISQ	MAR/ORL_C	01:12:53	68	MAR/ORL_A	DISQ		MAR/ORL_B	DISQ	
	(1157) 新人		01:12:53		/MAS			/OSL		
	名古屋大学 MD	田中 郁也			速水 駿			高辻 乃輔		
	DISQ	MAR/ORL_C	DISQ		MAR/ORL_B	00:40:33	38	MAR/ORL_A	00:48:48	48
	(1162)				/OSL			/MAS		

	東京大学 MH	加茂 滉基		岸 隼平		渡辺 陽太	
	DISQ (1139)	MAR/ORL_A /MAS	DISQ	MAR/ORL_C	01:31:07	77	MAR/ORL_B /OSL
	新潟大学 ME	加藤 光馬		酒川 卓登		澤野 祐希	
	DISQ (1121) 新人	MAR/ORL_C	DISQ	MAR/ORL_B /OSL	01:08:26	93	MAR/ORL_A /MAS

WAR 出走チーム数 6										
順位	チーム	1 走			2 走			3 走		
1	京都女子大学 WA	酒井 舞子			中嶋 智桃			森本 雛子		
	2:44:06 (2108)	WAR/XAR /ORS_A/WAS	00:50:49 00:50:49	11 3	WAR/XAR /ORS_C	00:50:28 01:41:17	7 1	WAR/XAR /ORS_B/OSS	01:02:49 02:44:06	19 1
2	大阪大学 WA	山賀 千尋			林 里美			澤木 彩		
	2:45:51 (2107)	WAR/XAR /ORS_C	00:47:33 00:47:33	6 1	WAR/XAR /ORS_A/WAS	01:00:07 01:47:40	13 3	WAR/XAR /ORS_B/OSS	00:58:11 02:45:51	14 2
3	津田塾大学 WA	平田 千畝			河内 絵里香			細野 泉		
	3:23:30 (2104) 新人	WAR/XAR /ORS_B/OSS	00:49:35 00:49:35	8 2	WAR/XAR /ORS_A/WAS	00:52:11 01:41:46	12 2	WAR/XAR /ORS_C	01:41:44 03:23:30	10 3
	奈良女子大学 WA	久米 明日香			中井 愛実			藤本 光		
	DISQ (2109)	WAR/XAR /ORS_C	01:12:28 01:12:28	8	WAR/XAR /ORS_B/OSS	DISQ		WAR/XAR /ORS_A/WAS	DISQ	
	椋山女学園大学 WB	吉田 菜里			野崎 琴乃			小野 希美		
	DISQ (2106) 新人	WAR/XAR /ORS_B/OSS	DISQ		WAR/XAR /ORS_C	DISQ		WAR/XAR /ORS_A/WAS	01:05:05	14
	椋山女学園大学 WA	杉浦 野乃子			牧 花音			堀内 愛優里		
	DISQ (2105)	WAR/XAR /ORS_A/WAS	DISQ		WAR/XAR /ORS_C	01:27:12	9	WAR/XAR /ORS_B/OSS	01:55:14	23

XAR 出走チーム数 4										
順位	チーム	1 走			2 走			3 走		
1	千葉大学 XA	真家 遼介			森下 遥			佐藤 宏紀		
	1:46:59 (3105)	WAR/XAR/ /ORS_B/OSS	00:35:41 00:35:41	4 2	WAR/XAR /ORS_C	00:39:48 01:15:29	5 1	WAR/XAR/ /ORS_A/WAS	00:31:30 01:46:59	4 1
2	一橋大学 XA	藤井 宣之			小島 優唯			池ヶ谷 みのり		
	1:52:31 (3107)	WAR/XAR/ /ORS_A/WAS	00:40:09 00:40:09	6 4	WAR/XAR/ /ORS_B/OSS	00:45:19 01:25:28	7 2	WAR/XAR /ORS_C	00:27:03 01:52:31	1 2
3	横浜市立大学 XA	力丸 航			浦中 美里			藤井 明日香		
	2:01:52 (3109)	WAR/XAR /ORS_C	00:36:36 00:36:36	4 3	WAR/XAR/ /ORS_A/WAS	00:49:25 01:26:01	8 3	WAR/XAR/ /ORS_B/OSS	00:35:51 02:01:52	5 3
4	新潟大学 XA	藤村 晋也			滝澤 伊織			曲田 貴大		
	2:03:58 (3103)	WAR/XAR/ /ORS_A/WAS	00:28:51 00:28:51	3 1	WAR/XAR/ /ORS_B/OSS	01:01:35 01:30:26	17 4	WAR/XAR /ORS_C	00:33:32 02:03:58	2 4

BR 出走チーム数 19									
順位	チーム	1 走			2 走			3 走	
1	神戸大学 BA	織田 暁斗			中盛 雷也			濱中 俊太郎	
	1:09:02	BR_A/BS	00:24:38	2	BR_C	00:17:59	1	BR_B	00:26:25
	(3219)		00:24:38	2		00:42:37	1		01:09:02
2	名古屋大学 BA	舘 直輝			横井 晃太			竹川 貴教	
	1:24:26	BR_B	00:27:00	4	BR_A/BS	00:26:50	4	BR_C	00:30:36
	(3212) 新人		00:27:00	4		00:53:50	2		01:24:26
3	筑波大学 BA	鈴木 璃土			山根 直樹			市川 竣介	
	1:29:33	BR_A/BS	00:25:06	3	BR_B	00:40:04	9	BR_C	00:24:23
	(3201)		00:25:06	3		01:05:10	3		01:29:33
4	筑波大学 BB	雲尾 岳宗			眞田 莉花			和田 真由子	
	1:37:01	BR_C	00:24:30	4	BR_A/BS	00:47:00	13	BR_B	00:25:31
	(3202) 新人		00:24:30	1		01:11:30	6		01:37:01
5	名古屋大学 BB	尾木 真之介			神田 悠希			新家 康佑	
	1:52:53	BR_A/BS	00:32:29	9	BR_B	00:37:09	7	BR_C	00:43:15
	(3213)		00:32:29	7		01:09:38	4		01:52:53
6	京都大学 BB	林 洸樹			大道 樹			岩瀬 晴生	
	2:07:02	BR_A/BS	00:30:27	7	BR_B	01:00:21	15	BR_C	00:36:14
	(3217)		00:30:27	5		01:30:48	9		02:07:02
7	一橋大学 BA	伊藤 崇仁			小野寺 悠太			小柳 幸仁	
	2:09:05	BR_C	00:42:35	8	BR_A/BS	00:27:03	5	BR_B	00:59:27
	(3208) 新人		00:42:35	8		01:09:38	4		02:09:05
8	神戸大学 BB	藤澤 ゆい			飯田 健太			中村 和弘	
	2:12:34	BR_A/BS	00:49:06	14	BR_C	00:24:06	2	BR_B	00:59:22
	(3220)		00:49:06	10		01:13:12	7		02:12:34
9	実践女子大学 BA	秋元 珠羽			平井 寿々乃			橋村 ひな	
	2:12:42	BR_C	00:44:22	10	BR_A/BS	00:46:33	12	BR_B	00:41:47
	(3206) 新人		00:44:22	9		01:30:55	10		02:12:42
10	京都大学 BC	中谷 太陽			高尾 笙甫			小久保 茉優	
	2:14:06	BR_A/BS	00:30:35	8	BR_B	01:15:30	18	BR_C	00:28:01
	(3218)		00:30:35	6		01:46:05	12		02:14:06
11	明治大学 BA	溝端 昭子			小林 聖矢			新井 悠仁	
	2:44:31	BR_C	00:50:42	13	BR_B	00:37:08	6	BR_A/BS	01:16:41
	(3211) 新人		00:50:42	12		01:27:50	8		02:44:31
12	横浜市立大学 BA	正山 阿智			相葉 莉子			安部 紗也佳	
	2:45:52	BR_B	00:49:12	11	BR_C	00:47:55	11	BR_A/BS	01:08:45
	(3210)		00:49:12	11		01:37:07	11		02:45:52
13	奈良女子大学 BA	穴田 小都			林 牧穂			押川 比奈	
	3:15:16	BR_B	01:11:28	17	BR_C	01:17:42	14	BR_A/BS	00:46:06
	(3225)		01:11:28	14		02:29:10	14		03:15:16
14	立命館大学 BA	梶原 玲央			箕浦 夕紀			大羽 育美	
	3:23:40	BR_C	01:36:42	16	BR_B	00:33:24	5	BR_A/BS	01:13:34
	(3221)		01:36:42	15		02:10:06	13		03:23:40
15	京都大学 BA	浅野 瑞妃			角本 柚香			日高 綾音	
	3:35:42	BR_A/BS	01:00:57	16	BR_C	01:41:54	17	BR_B	00:52:51
	(3216) 新人		01:00:57	13		02:42:51	15		03:35:42
	京都女子大学 BA	村井 涼香			永田 結琳			森江 菜々子	
	DISQ	BR_A/BS	00:49:44	15	BR_B	01:08:00	16	BR_C	DISQ
	(3223)		00:49:44			01:57:44			
	京都女子大学 BB	寺本 遊林			武田 翔			安井 優花	
	DISQ	BR_C	01:31:33	15	BR_A/BS	00:33:37	10	BR_B	DISQ
	(3224)		01:31:33			02:05:10			
	大阪大学 BB	波多野 直人			吉岡 奨悟			高橋 祐太	
	DISQ	BR_B	00:22:11	1	BR_A/BS	DISQ		BR_C	00:48:03
	(3215) 新人		00:22:11						
	大阪大学 BA	徳田 風人			山本 敬太			門 瑞起	
	DISQ	BR_A/BS	00:23:27	1	BR_C	DISQ		BR_B	00:38:36
	(3214) 新人		00:23:27						

MAS 出走者数13名			
順位	氏名	学校・学年	記録
1	延嶋 星那	茨城大学1	00:40:58
2	大野 陽広	岩手大学4	00:42:19
3	松原 佑季	一橋大学3	00:51:01
4	川崎 陽暉	茨城大学1	00:51:21
5	嶋崎 彰人	関東学院大学3	00:54:06
6	増井 真登	東京理科大学3	01:05:55
7	井上 拓紀	一橋大学2	01:17:38
8	大西 諒哉	千葉大学3	01:20:03
9	小林 諒真	大阪大学3	01:30:40
10	寺町 俊輝	千葉大学1	01:36:40
11	椿原 暖人	名古屋大学3	DISQ
12	清水 侃太	名古屋大学1	DISQ
13	土屋 輝	関東学院大学4	DISQ

WAS 出走者数8名			
順位	氏名	学校・学年	記録
1	中神 智香	静岡大学4	00:28:05
2	藤井 春菜	北海道大学3	00:28:38
3	山崎 璃果	椋山女学園大学4	00:31:51
4	田切 香帆	北海道大学1	00:49:16
5	宮澤 海帆	横浜市立大学2	00:50:21
6	越智 純香	京都大学4	02:19:54
7	中村 優那	京都女子大学3	02:19:57
	岡本 佑希	椋山女学園大学1	DISQ

BS 出走者数4名			
順位	氏名	学校・学年	記録
1	杉浦 青空	新潟大学3	00:27:47
2	天田 鈴	横浜国立大学1	01:11:23
3	齋藤 遙	十文字学園女子大学	01:26:26
	半沢 航大	新潟大学1	DISQ

2 入賞者コメント

2.1 ミドル・ディスタンス競技部門 男子選手権の部

優勝 朝間 玲羽（東京大学4）



大学生活の集大成となるレースで最高の結果を残すことができました。ここに至るまでの4年間を振り返ると、人に頼ることが少しはできるようになったということが大きかったと思います。

今まで、実に多くのことを人に助けを乞うことなくこなしてきました。人に頼ると借りを作って素性を暴かれるような気分になるからでしょうか。とにかく人に自分の内面を見せるようなことは苦手でした。だからこそオリエンテーリングも自分で考え自分で対策して自分で反省をするのが基本でした。それで勝手に上手くなれたし支障はありませんでした。けれども、ケガだけははどうすることもできませんでした。初めて自

分の力だけではどうしようもできないことに会い、苦しめられ続けました。そんな闇の中にいた時に手を差し伸べてくれた方がいました。その方は私にもっと人に頼るべきだということを教えてくださいました。以来、ちょっとだけ自分をさらけ出す勇気を出して、人に助けを求めるようにしています。

人に助けを求めると、自分にはない視点や知識を獲得することができます。私は、4年生の間は一度も故障をしませんでした。これは己の力だけでなんとかしようとしていた頃の自分のままであったらきっと成し遂げられていないことだったと思います。

みなさんも人にたくさん頼ってみてください。何かしらの助けを差し伸べてくれる人はきっと想像よりずっと多いはずです。こんなことを書いている僕ですが、実は人から頼られるのはむしろけっこう好きで得意です。誰でも頼ってくれていいですよ(笑)。

第2位 平岡 丈（京都大学3）

インカレロングで優勝することができ、それに引き続きミドル・リレーでも優勝を目指してこの4か月間準備を続けてきました。優勝することはできませんでしたが、2位を取ることができてとてもうれしかったです。

レースは気持ち的には落ち着いて入ることができ、前半は特に大きなミスをしていませんでしたが、ルートチョイスで外したかなと思ったり、細かいミスがあったりなどして少し不安な気持ちでレースを進めていました。後半は大きなミスが一つあって焦りましたが、ある程度で立て直すことができました。良い意味でも悪い意味でも普段通りのレースになりました。完璧なレースではないまでも、今の実力を出し切ることができてよかったのかなと思います。

より良いレースを目指してこれからも一つずつレースの中で課題の設定をして、解決することを繰り返しながら1年間頑張ってまた来年出直して来たいと思います。

とても楽しいレースでした。運営してくださった方々、応援してくださった方々ありがとうございました。



第3位 森清 星也（早稲田大学2）



まず、自身の成績に関して。今年でジュニアが終わり、より高いレベルで戦うようになりました。ジュニアの時は勝つのが当然でしたが、シニアやユニバーの世界に入るとそう簡単にはいきませんでした。ジュニア時代にやっていたトレーニングや技術練習をやっているだけではダメで、やり方を変えたりトレーニングの絶対量を増やしたりしなければ、勝てないと痛感しました。ジュニアからオリエンをやっていて、ユニバーやシニアになってもオリエンを続ける人の多くは、数度壁にぶつかると思います。そうなった時は、覚悟を決めて今までのやり方を変えてみてください。

次にインカレ開催について。コロナ禍を通して、オリエンテーリングができることは当たり前ではないことをオリエンティア全員が実感したと思います。大会前に感染者が急増する中でICMR2021が開催できたのは、情熱を持って開催のために尽力くださった運営者の皆様のおかげに他なりません。この場をお借りして感謝申し上げます。

第4位 本庄 祐一（東京大学3）

ミドルが好きになりました。

ミドルはインカレの中で最難易度を誇るコースセッティングがなされ、ナビゲーション力が求められる中でもフィジカルを要求され、一つのミスが大きな順位変動に繋がります。

多くの大学で、新歓の時オリエンテーリングの紹介で頭も使う競技であることを全面に押し出すと思います。フィジカルで負けても勝つことができるのだと。本当にそうかなあって思っていましたし、ロングでは今でもやっぱりフィジカルだよねって思います。ただ、ミドルのコースレベルになるとこれが現実のものとなってくるんだなと実感しました。初めオリエンテーリングに惹かれたこの気持ちをインカレで実感できたのは初めてかもしれません。だからミドルが好きになりました。

ミドルのセレに初めて通過してから二年と二ヶ月も経ってしまいましたが、やっとインカレミドルを走ることができました。楽しかったです。ありがとうございました。

来年も走りたいです。よろしくお願いします。



第5位 伊藤 元春（東京大学4）



この春インカレは、私にとって特別なインカレでした。私はミドルが最も好きです。オリエンテーリングにおける最も好きな点である、「難易度の高いナビゲーションをこなしていくこと」が詰まっているからです。その大好きなミドルで、インカレで優勝することが4年間の目標でした。そしてそのチャンスは、今回が最初で最後でした。一生に一本しかないレースで勝つにはどうしたら良いか考え、練習してきました。その成果が出たのか、インカレ前の練習での出来は非常に良かったです。しかし、インカレ本番は練習とは全く違いました。インカレのプレッシャーは自分を客観視する冷静さを奪っていき、僅かなナビゲーションの綻びが焦りに変わり、大きくミスをしてしまいました。

ミスに気づいたときに思っていました、「もう優勝はない」と。そう思ったが最後、フィニッシュするまで冷静さを取り戻すことはなく、ミスを重ねてしまいました。一生に一度のレースで、ここまで散々な結果になってしまったことをただひたすらに悔しく思います。ですが、これだけミスをしてでも僅差で入賞に滑り込めたことは、前半上手く走っていたことや、インカレまでの取り組みを肯定する結果だと思っています。これまで努力して来てよかったです。

もうインカレを走ることはできません。そのことの重さを今ひしひしと感じています。大学生の間ずっとインカレ優勝が目標で、インカレがあるだけで何事も頑張れました。ずっと私の夢であり続けてくれたインカレに、そのインカレを作り上げてくれた運営者、競技者、観戦者の皆様に心から感謝しています。

そして、インカレは終わりましたが、オリエンテーリングはまだ続きます。大学生のうちには手の届かなかった、もっと高いところからの、見たことのない景色が見てみたいです。

第6位 永山 遼真（筑波大学3）

インカレミドルでの自分の走りに点数をつけると50点です。今年1年間、インカレでの優勝を目標にトレーニングや技術向上に努めてきたつもりです。レース中は自分を信じて目の前の1レグ1レグをただこなすということを心がけました。それなりに調子よく進んでいたことで中盤に気持ちが緩んでしまい、大きなミスをしてしまいました。結果6位。1年間取り組んできたことを出し切ることができず、悔しい気持ちでいっぱいです。ただ、この1年はここぞというときに全く結果を出せずに苦しいこと時期が多かったので、入賞という結果を何とか残すことが出来て少しほっとしました。



この春インカレでは、オリエンテーリングを楽しむ、森の中を走る楽しさを味わう、インカレの空気を全身で感じるということができました。普段走っている日光矢板と異なる植生や尾根沢を感じながら走り始め、会場に帰ってきて声援を受けながら駆け抜けたラスポゴールまで、インカレっていいな、オリエンってやっぱり楽しいなという気持ちがとても強く残りました。学生生活はあと1年。オリエンテーリングアスリートの一人として、誰よりもオリエンテーリングを楽しみ、さらに速くさらに強くなるために精進していきたいと思っています。

また、今回残念ながら出場することの叶わなかったライバル達とまたいつかどこかで戦える日を楽しみにしています。応援・サポートをしていただいた皆様、ありがとうございました。

最後に、この様なご時勢に難しい判断もたくさんあった中で春インカレ開催のために尽力してくださった実行委員会の皆様や、開催を受け入れてくださった地元自治体の皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

2.2 ミドル・ディスタンス競技部門 女子選手権の部

優勝 大栗 由紀（茨城大学4）



インカレミドルでは自分が優勝できるとは思っていませんでしたので、本当に嬉しかったです。これまで支えてくださった沢山の方に心から感謝しています。また、このようなご時世の中でインカレミドルリレーを開催にむけて尽力して下さった運営者の皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

春インカレに向けて、私の一番の課題であったメンタル面で対策をしてきたので、いつも通り平常心でレースをすることができました。しかし、途中で足首を負傷してしまい、とても痛くてだめかも、入賞できないかもしれない、最後のインカレだったのに、と諦めそうになりました。それでも、絶対に優勝したいという気持ちだけで痛みをこらえて最後まで走り切りました。

フィニッシュしたときは自分が暫定一位だとは知らず、30分後くらいに優勝ということ伝えられ、諦めないで走ってよかったなと改めて思いました。

ミドルの日の夜に4年間の色々な思いがこみあげてきて、悔しい思いも沢山したけど自分なりに努力してきた結果がでて本当によかったなと勝利の実感が湧きました。

インカレでの怪我が思いのほかひどく現在も治療中ですが、今後のWUOCや全日本大会に向けて頑張っていこうと思います。4年間私を支えて下さった皆様、応援してくれた友人や家族にも感謝しています。ありがとうございました。

優勝 阿部 悠（実践女子大学4）

はじめに、2年ぶりのインカレミドルを開催してくださりありがとうございます。

今年度インカレミドルが開催され、最初で最後のインカレミドル選手権を走ることができました。私はオリエンテーリングの中でもフォレストのミドルが一番好きな種目です。なので、インカレでミドル競技を走れるというだけでとてもワクワクしていました。いつもは成績を気にしてしまい緊張しやすいのですが、今回は優勝したいという気持ちよりもインカレミドルを走れる気持ちの方が勝っていました。それくらい楽しみでした。

最後のインカレ選手権だったのでそれに向けてトレをしてきました。有難いことにインカレまでの間に合宿がいくつかあったので積極的に参加しました。また、普段は苦手で頼むことのなかったランオブをしてもらい、課題を見つけ練習に取り組みました。いつも以上にインカレに対して準備をしてきたつもりでしたが、本番のレースはボロボロでした。大きなミスをするとは普段からあったので最初のミスは焦ることはありませんでしたが、集中することができませんでした。2回目のミスをした瞬間、一気に焦燥感に駆られました。もう無理かもしれないと思いました。優勝することはできましたが、最後のインカレで上手くレース展開することができず悔しいです。このままでは終わることができないので、これからも選手として精進します。最後になりましたが、応援して下さった皆様ありがとうございました。また、ここまでこられたのは一緒に切磋琢磨してきた同期や後輩、目標であり超えたい壁でもあった先輩達の存在のおかげです。4年間ありがとうございました。



第3位 松本 萌恵（神戸大学3）



モデルイベントの日にOBさん達がプレゼントしてくださった真っ赤な部旗。これを、OB築地さんが組んでくださったコースを走って、永山尚佳先輩と一緒に表彰式で掲げられたことを大変大変嬉しく思います。

スプリントでは優勝したものの、ロングでは1レグでスプリント2本走れるくらいの大ミスをした秋インカレ。フォレストに対してはあまり自信がなく、今回の春インカレでは、とにかく大ミスをせずに戻ってくることを目標にして挑みました。実行のための具体的なプランと現在地把握をとにかく丁寧に。その結果、細かなミスはあったものの比較的まとまった、目標の達成のレースができました。

今回いただいた3位という結果はとても嬉しいことは間違いありませんが、その一方で、本当に私がもらってもよかったのだろうかと思うこともあります。まだまだ実力不足で、今回は目標に掲げることもできなかったけれど、本当はもっともっと速いオリエンテーリングをしたいです。体力の限界と戦うような速いオリエンテーリングをして、仲間やライバルたちと競いたい。

我々2019年同期にとって、インカレは、泣いても笑っても残り2回です。あと1年、同期みんなで強い学年になって、後輩たちと共にもう1段階レベルアップした、熱くて楽しいレースをしたいです。そのために私も練習を頑張ります。

最後になりましたが、このような素晴らしい春インカレを復活させてくださった運営者の皆様、日頃からあたたかく支え、応援してくださった全ての方々に心の底から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

第4位 永山 尚佳（神戸大学4）

最後のインカレとして走ったこの大会は、いろいろな意味で思い出深い大会となりました。インカレへ向けては怪我もあり最高の準備ができていたというわけではありませんでしたが、2年ぶりのインカレミドルを卒業する前に走れたことはとても幸せなことでした。

そして思うことは、インカレはやはり数ある大会の中でも特別楽しい大会ということです。あのインカレにしかない熱気や感動の中にいるだけで、競技に必死になれる理由ができます。私にとって楽しいものであるオリエンテーリングを、真剣な競技として向き合わせてくれたのはインカレだったなと今になって感じています。

この大会は私にとって最後のインカレでした。多くの人の応援と支えがあって、4年間頑張ることができました。応援してくれた阪神奈の皆さん、4年間ともに頑張ってきた全国の同期の皆さん、支えてくれたオフィシャルの方、2年ぶりのミドルを開催してくださった運営者の皆さん、本当にありがとうございました。



第5位 栗山 ももこ（横浜市立大学3）



まずは、大変な情勢下にも関わらずこのような素晴らしい大会を開催していただき、誠にありがとうございます。

ずっと憧れていたインカレで入賞できたことはとても嬉しいです。しかし、入賞できるとは考えてもいなかったため、驚きの気持ちも大きいです。今回のインカレは個人的な理由により、大会に出場する前から入賞を諦めていました。しかし、日ごろから一緒に練習をしている慶應義塾大学や相模女子大学が参加できなくなってしまったことをきっかけに「こんな情けない気持ちで走っていいのか」と考えを改めました。気持ちを切り替えてから対策を行えた期間は短く、不安を抱えたまま大会本

番を迎えました。走る前に多くの方から応援の言葉をいただいたおかげで、レース本番にいつもなら怠ってしまう動作を行えたり、ミスをした後も冷静に対処できたりして、実力以上の力を発揮できたことが入賞に繋がったと考えています。

日ごろから切磋琢磨してくださるKOLCの仲間やアドバイスをくださるオフィシャルさんには大変感謝しております。本当にありがとうございました。

第6位 上島 じゅ菜（お茶の水女子大学3）

今の自分にできるベストを尽くそう。初めて心からただそれだけを思い、初めて自分に大きな期待を抱かずに走りきった私の春インカレは6位でした。インカレロングより二つ下の順位、いつか超えたいと思っていた4年生たちに全く手が届かなかった順位ではあったけれど、この6位入賞は間違いなく今の私にできる最高の結果でした。

遡ること2ヶ月前、惨敗した秋インカレを終えて次の春インカレこそはと意気込んでいた私を待っていたのは、自分には無縁のものだと思ってきた怪我との戦いでした。怪我への認識の甘さからオリエンテーリングばかりかジョグすらできなくなり、どんどん体力が低下していく中で、虚しさや不安、焦りだけが残りました。それでも、話を親身に聞いて励ましや怪我へのアドバイスをくださる先輩方・仲間達の存在があったからこそ、確固たる実力とその自信を持ってレースに挑むことはできなくても、せめて今できる自分のベストを尽くそうと思えたのだと思います。登りだけは負けたくないと思って筋トレに励み、過去のレースのアナリシスを書き、zoomを開いてお絵描きOをしました。自分が行けなかった大会の地図を持ってきて復習をしてくれた後輩や、一緒に体幹をして報告しあう仲間もいました。入賞が決まりおめでとうという言葉がたくさんもらって、自分のことをこんなにも理解し、見守り、支えてくださった人がいたことに改めて気づき、心から嬉しく、幸せな気持ちを味わうことができた春インカレでした。

これから再出発し、自分にとって最高のオリエンテーリングをするために、そしてこれまで応援してくださった方への恩返しができるような走りをするために、更なる成長を遂げてインカレの舞台にまた戻ってきます。



優勝 東京大学



<1走 本庄 祐一>

スタートラインに立った時、二走・三走に学生トップレベルの二人がいて、自分自身も一走の中では唯一の入賞者ということで余裕だろう、という甘い考えが吹き飛びました。正直オリエンテーリングをしてきた中で一番緊張しました。レースの記憶がかなり曖昧でぼやけています。もう一走はやりたくないですね。

結果は一走の中で二位でしたが、ライバルとしてみていた大学とはかなりの差をつけることができたので、結果だけ見ればこの上ない出来でした。

東大が強かった点としてお互いの信頼感の強さが挙げられます。普通にやれば大丈夫という信頼感を三人全員が持てたことが、優勝という結果を手繰り寄せるのに大きな寄与をしたのだと思います。

来年はより強くなって、他大のエースも圧倒できるレベルになって帰ってきます。

支えてくれた皆様、運営してくれた皆様、そして頼れるチームメイトに感謝したいと思います。ありがとうございました。

<2走 伊藤 元春>

東大には前人未達の4連覇という目標があります。その目標に向けて、2017年度と2018年度に続いて3連覇を果たすことができ、素直に嬉しく思います。

本番の展開としては、1走の本庄選手がほぼトップで繋いでくれました。その後、トップの北大と並走になりましたが、北大の選手が見えなくなりました。自分の走りには自信があったので、自然と1位であると思えました。選択とナビゲーションに集中し、トップで森を駆ける気分は最高でした。ウィニングランを待っていて朝間選手が現れ、計センで記録が確定した瞬間の感動はいつまでも忘れることはないでしょう。

望郷の森の優勝を目にしている世代である私達が後輩へ連覇を繋ぐことができ、嬉しく思います。それも、春インカレという舞台を用意してくださった運営者の皆様のおかげであると思っています。ありがとうございました。

<3走 朝間 玲羽>

2走の伊藤元春選手が、2位以下を大差で引き離しチェンジオーバーしてくれた時から、プレッシャーとは無縁でした。リレーに関してはありとあらゆる状況を想定し、その時々に応じた戦略を練っていましたが、その中でも最も良い展開であったことは疑いようもあ

りません。私自身のレースとしては、インカレリレーという場にはふさわしくないかもしれませんが、勝ちにこだわるため「最速」を目指さない余裕を持った走りを徹底しました。そのおかげで、レース中は現在地を失う瞬間も無く、楽しく笑顔でウイニングランまで走りきることができました。

「強い東大」の伝統は示しました。実に3年ぶり、現役では私たちの世代しか経験していなかった春インカレですが、後輩のみなさんに私たちが1年生の時に味わった思いを届けることはできたでしょうか？ インカレが私のオリエンテーリングへの熱意の原点となったように、今回のインカレも誰かにとっての原点となっていれば嬉しいです。

第2位 京都大学

<1走 伊藤 良介>

自らのミスによって優勝の可能性を潰してしまったことに対し、言い表せない悔しさと、クラブの皆様や先輩方に対する申し訳なさを感じています。1回生の頃に憧れた選手権は、全国の選手と競える素晴らしい舞台であると同時に、私にとっては残酷な舞台でした。

改めて新型コロナウイルス感染症による厳しい情勢の中、大会の開催に尽力してくださった運営者の皆様に感謝申し上げるとともに、来年度以降の ICMRの発展を祈っております。

<2走 二俣 真>

初めての選手権リレーでしたが、選手権リレーで走るということの重さを知ることが出来ました。このレースを通して技術面、精神面共に成長出来たと感じています。来年度も優勝を目指して頑張っていきます。応援よろしくお願いします。

<3走 平岡 丈>

想定していた追いかける展開となったこともあり、無理に力まずに自分の実力を出すだけと考えて落ち着いて望むことができました。レース中はほぼ一人でナビゲーションを行っていて、前後との位置関係がわからないまま進んでいたのが不安でしたが、2位という結果でとても嬉しかったです。この3人でリレーに出られてとても良かったです。来年は優勝できるよう、1年間練習して強くなってまたインカレリレーに臨みたいと思います。

第3位 早稲田大学

<2走 森清 星也>

東大京大二強と言われる中、挑戦者として臨んだリレーでした。

大会前には大石洋輔監督と共に、走順の話し合いやレース展開の予想をしていました。また、OBOGやクラブ員が予想コースを作ってくれました。

大会当日は、大石監督のレース展開予想やコース予想が的中し、安心してレースを進めることができました。一走が襷を繋ぎ、二走が追い上げ、三走がリードを保つという、それぞれが自身の役目を果たしたと言えるレースだったと感じています。

目標は優勝に設定していたものの、現実的に見ると3位という結果は上手くいった結果だと思っています。また、早稲田大学として2013年以来の好成績で嬉しく思います。その一方でコロナの影響で参加できなかった大学があり、その大学が出ていたらと思うと素直に喜べない気持ちもあります。早くコロナ禍が収まり、普通に競技ができる日が来ることを一同願っています。

最後になりますが、応援してくださった皆さん、厳しい情勢の中で大会を開催してくださった運営者の方々に、心より感謝いたします。

第4位 筑波大学

<1走 菅波 崇志>

まず初めに、春インカレという素晴らしい舞台で、筑波大男子14年ぶりの入賞を果たすことができ嬉しいです。ですが、個人のレースとしては反省すべき点が多く、もっと高い順位で次走者に繋げたなあという後悔の残る結果となりました。今回のレースで自分が技術的にもフィジカル的にもまだまだ未熟だということを再確認すると同時に、来年リベンジしたいと強く思いました。来年は最後のインカレとなるのでこの1年精進して、チームの目標である優勝を目指して頑張りたいです。

<2走 祖父江 有祐>

今回のインカレリレーに向けては、皆で体力トレーニングを行ったり対策の地図読みを行ったりしていました。レースに向けて淡々と準備を重ねていましたが、結果として自分のレースは満足できる内容ではありませんでした。2走としてもっと良い走りができたはずであり、最後のインカレとなる来年の春インカレではリベンジできるよう研鑽を積んでいきたいです。

<3走 永山 遼真>

今年はリレー立候補者11人を中心にチーム筑波としてリレーに向けて取り組みました。予想コース組みやトレの共有、集団での練習をすることで、チームとしての団結力を感じる事が出来ました。筑波のエースとして臨みましたが、エースという名にそぐわない散々なレースをしてしまいました。あと1年、筑波大優勝に向けて自分の出来ることを全力で行い、チーム筑波としてさらに強くなっていきたいと思います。応援ありがとうございました。

第5位 北海道大学

<1走 高木 一人>

僕が入部した時に最初に仲良くなった森さん、入部した時からエースで速かった清水さん、この2人とリレーを走ることができ、メダルと一緒にもらうことができたことを僕は一生忘れないと思います。

今回の入賞は、もう引退してしまった先輩方、インカレに來れなかった部員、僕を支えてくださった多くの方々のおかげです。今まで本当にありがとうございました。

<2走 清水 嘉人>

全ての大学が参加していたわけではありませんが、目標としていた「リレーで入賞」を達成でき、大変うれしく思っています。トップでたすきを受け取ったことや、その後これまでの出走した中で最悪と言っても良いレースをしてしまったこと、すべて良い思い出になっていくのだと思います。北大OLCでオリエンテーリングに取り組むことが出来て幸せでした。皆様、本当にありがとうございました。

<3走 森 倭渡>

21年ぶりに入賞を果たしたこと、大変喜ばしく思います。結果を見てわかるように、私は大した選手ではありません。高木、清水、OBOG、櫻本さん、関わってくださったすべての方々の支援あってこそその入賞だと考えています。本当にありがとうございました。

また、残念ながらインカレに参加することが出来なかった選手のインカレへの想いが、何らかの形で昇華されることを心より願っております。

第6位 新潟大学

<1走 岩渕 悠太>

現役生みんなの想いはもちろんですが、自分達よりも遥かに強いのに春インカレに参加できず悔しい思いを抱えて卒業して行った先輩達や、今回のインカレに参加できなかった他大の選手達の想いも背負って臨んだインカレでした。自分達が健闘することでみんなの無念を少しでも晴らせたらいなという思いで、結果にもこだわって頑張るぞ！と考えていました。

<2走 坂本 慧>

入賞を目指して走った選手権リレー。1走の岩渕が3位で帰ってくる好走をして繋いでくれたため、2走の自分は大ミスさえしなければ入賞は堅いと思い、終始丁寧なナビゲーションを意識して走りました。3走の若林も粘りの走りをしてくれ、目標であったリレー入賞を果たすことができ、とても嬉しく思います。4年間の最後を笑顔で終わることができて幸せでした。関わってくださった全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

<3走 若林 海人>

インカレリレーのためにそれぞれがたくさん練習を重ねて挑んだので、6位入賞できたことは、とても嬉しいです。切り替えて、来年のインカレスプリントロングでは、新大はやっぱり速いなど全国に思ってもらえるようなレースになるよう、日ごろの練習を一生懸命に行い精進していこうと思いました。

2.4 リレー競技部門 女子選手権の部

優勝 横浜市立大学



<1走 松本 芽依>

厳しい情勢のなか大会を運営してくださった実行委員の皆様、ありがとうございました。春インカレを経験していなかった私にとって今大会は特別なものに感じました。来年度は希望するすべての選手が参加できるように心から祈っています。

<2走 高橋 玲奈>

私は、いつも自信がなく攻めたレースはできないし、リレーのようなチーム競技はプレッシャーに耐えきれないので苦手でした。また、今回のレースはコース選択が難しく、タフなものでした。それでも一緒に走ったのが、大学1年からずっと一緒だったくりももと芽依だったから、レース中ミスがあっても最後まで頑張ろうと思えました。2人にとっても感謝しています。ありがとう。

<3走 栗山 ももこ>

インカレリレーは先輩方から話を聞いており、夢に見ていた舞台でした。今回は同期3人でリレーを組むことが出来ました。特に2人とはこの2年間部活の活動方針や運営面など多くのことを共に考え、作り上げてきました。そんな2人とチームを組み、優勝できたことは一生の宝物です。

第2位 椋山女学園大学

<1走 須本 みずほ>

1走で大ミスをしないレースができて良かったです。

私は1年生の時にWARの1走で、4年の先輩方と3人で2位を獲りました。ですので、最後の春インカレリレーではWERの1走を走る目づ、椋山のチームで2位以上を獲るという目標を抱いていました。

結果は微差で1位の横浜市立大学に負けました。しかし、1年生の時から一緒に頑張ってきた同期の明田と、ずっと背中を追いかけてくれた(追い越されている)後輩の今井には感謝しかないです。

<2走 明田 彩里>

初めてのリレーWEで緊張はありましたが、レースを楽しむことも意識していました。個のレースとしてはミスをしていない確実なレースをすることがチームへの貢献になると思い、それを目標にして対策しました。しかし中盤でミスをしてしまい、焦りからその後再びミスをしてしまいました。

結果は1位と秒差で悔しい思いもありましたが、自分の不甲斐ないレースがありながらも準優勝という好成績を残せたのは須本と今井のおかげです。

<3走 今井 里奈>

個人としては悔しさの残るレースとなりましたが、先輩方と走れる最初で最後のリレーで準優勝という成績を残すことができ、本当に嬉しく誇りに思います。

この1年、私は様々なプレッシャーに押し潰され、そして不甲斐ない成績を残すことが多く、大いに苦しめられました。しかしあのレースのおかげで苦しい中でも、もがき、努力し続けたことは、決して無駄ではなかったと振り返って思います。

最後に、あの日のレースは、私の3年間のオリエン人生において、あまりにも特別なものとなりました。残り1年の現役生活の中であの日を超えるレースが出来るように頑張っていきたいです。

第3位 岩手大学

<1走 高橋 志穂>

学生最後のインカレは、2走、3走に感謝と申し訳なさでいっぱいものとなりました。3ポで40分以上のミスをし、実力不足を痛感すると共にチームの足を引っ張ったことに胸が苦しくなりました。そのような状況下でも2人は嫌な顔一つせず、そして素晴らしいタイムで帰ってきました。3位入賞は2人の実力だと思っています。チーム、そしてインカレに来られなかった部員も含め全員に感謝しております。

<2走 武石 瑞季>

表彰式で説明のあった「病院に運ばれた後輩ちゃん」です。その節は様々な方にご迷惑とご心配をおかけして申し訳ありませんでした。春インカレが無かった無念の2年を経て今年開催して頂いたこと、選手権の部と4年生の参加交渉をサポートしてくれた大学担当者様、そして何より私をリレーのメンバーとして迎え支えてくれた4年生の先輩方に感謝してもしきれません。ありがとうございました。来年更に上位を目指して精進していきます。

<3走 菊池 美結>

初めてインカレリレーを目の当たりにしてから気づけば3年が経ち、2回目のインカレリレーは学生最後のレースとなりました。一度も先輩とインカレリレーを走ることは出来ず、周りの大学は次々と欠場し、自分達も許可が下りないなどインカレに対する気持ちが不安定になる場面も多々ありましたが、同期や先輩後輩、他大の友人、そして一緒に走ってくれた2人の走りを見て、私も走り切るんだという思いで走ることが出来ました。本当にありがとうございました。

第4位 大阪大学

<1走 高野 澄佳>

リレーの一走ということで、他の選手につられずにレースしようと思いスタートしましたが、3棒で他の選手に気を取られ大きなミスをしてしまいました。その後はただ後の2人にこれ以上の負担をかけないように、順位、他の選手などを気にせずに走りきることにのみ集中し立て直せました。自分の走りはあまり良くありませんでしたが、2人のお陰で4位入賞でき、とても嬉しかったです。来年こそは自分も良い走りをできるようになりたいです。

<2走 高橋 茉莉奈>

阪大の過去最高の4位になったのはとても嬉しいです。私は前日のミドルで大きくミスをしてしまい、リレーは順位を気にせず焦らないことを目標にしていました。始めは緊張していたものの、1走の高野が戻ってきてくれたときには自然と落ち着き、レース中は細かなミスはありましたが、変に自分に期待せず集中できたと思います。一緒に走ってくれた2人には感謝しています。来年はさらに順位を更新します！

<3走 佐藤 頌子>

エリートとして走る重み、レースの難易度の高さ、普段とは違う集団競技のリレー。初めてのことばかりで前日まではとにかく不安に駆られていました。ですが当日の仲間や先輩の走りや声援が精神的に大きな支えとなり、記憶に残る最高のレースになりました。今回味わった昂りを、上を目指すエネルギーにして競技力を高めていきたいです。

第5位 日本女子大学

<1走 住谷 遥夏>

チームとしてはまずはリスタートせず、3走まで襷を繋ぐ事が出来て嬉しかったです。1年生ながらエリートを走りきった西川選手には感謝しかありません。

私個人としては大事な大会であればあるほど吹っ飛ぶのですが、今回は最初から最後まで冷静にできたのかなあとと思います。

<2走 西川 真由>

エリートを走ることに對して大きな不安がありましたが、とにかく時間内に走り切って次に繋げることを目標に練習をしていました。本番では、なんとか次にバトンを繋ぐことができてほっとしています。また、競技には落ち着いて楽しく臨めたと思います。これからもっと経験を積んで良い成績を残せるように頑張りたいです。

<3走 榎戸 麻衣>

「完走すること」を目標に3人で地図読みを行ってきたので、入賞争いに食い込むことができとても嬉しいです。個人としてはミドルの反省をリレーで生かしてミスの少ないレースをすることを目標としていましたが、とてもミスの多いレースとなってしまう、5位までしか順位を上げられなかったこと、とても申し訳なく思っています。

このレースはチームの士気を高めるものになったと思うので、来年は切磋琢磨しながらさらに上を目指していきたいです。

第6位 京都大学

<1走 羽岡 美紀>

レース前は不安でいっぱいでしたが、楽しんで走りきることができました。エリート特有の緊張感を一回生にして味わえたことは貴重な経験でした。走らせていただいたこと、また応援していただいたことに心から感謝しています。一流の選手らがレースにかかる思いの深さを実感し、より一層努力しようと思えました。

<2走 重岡 慧実>

新型コロナウイルスの影響で3回生にして初めての春インカレ開催となり、まず出場できたことが嬉しかったです。レースでは100点満点とは言えませんが自分の実力を出して走りぬくことができたと思います。今年度は女子部員がたくさん入ってくれたのでみんなで切磋琢磨していきたいと思います。応援ありがとうございました。

<3走 村上 彩乃>

レースから帰還して真っ先に感じたのは「楽しかった」でした。数年ぶりに京大女子でチームを出せたこと、無事に完走できたこと、入賞したこと、どれも嬉しい限りです。特に、後輩二人のチェンジオーバーの瞬間は感動して泣きそうでした。情けない4回生でしたが、最後にリレーを走らせていただき、ありがとうございました。応援してくださった皆様に深く感謝申し上げます。

3 競技結果と解説

3.1 ミドル・ディスタンス競技部門

コース設定者：築地 孝和

コースの設定にあたって

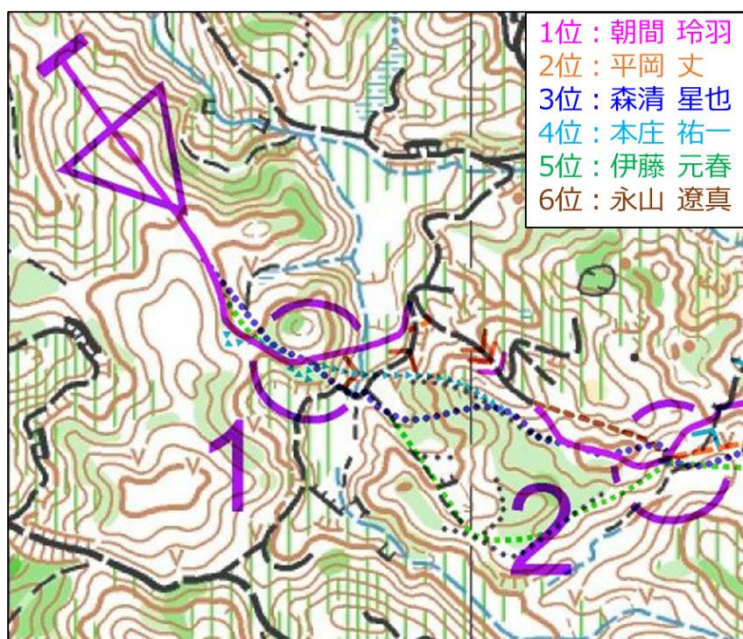
コース設定の原則2.3項を念頭に行った。青山高原の一番の特徴である尾根や沢などの線状特徴物を使った勝負レグを主軸に置くコースとなるようにした（勝負レグは、コース解説の中で紹介する）。また、細かいルートチョイスが生まれるようなレグを意識して設定した。それは、選手が選手自身の得手不得手を理解した上でのナビゲーションができるかを問うこと、過度に難しいレグを生まないことを目的としている（俗にいう“結果が荒れる”の抑制に繋がると考えた）。

苦労した点として、競技範囲の制約上途中で川を横切り50m超の登りを強いることを避けられなかったため、コース全体のアップ率を下げないといけなかった点が挙げられる。尾根や沢を辿らせる等のアップダウンを抑えるようなレグを多くすればその実現は容易であったが、単調ではなくメリハリをつけ、選手権者を決めるにふさわしい難度の高いレグを織り交ぜたコースの提供が必須と考え、その点を意識して設定をした。

男子選手権の部 コース解説

※ルート図の下絵は、ルートの判読性向上のため、色を75%に落としている。

△→1



スタートフラッグから尾根を南下し、東にあるピークの2つ目に向かって高さを維持して進み、鞍部からコンタリングでピークの南側に入り、アタックするのがベスト想定である。スタートフラッグからは森の見通しがよく、ダイナミックな地形が目の前に広がる。入賞者はおおむね同ルートを辿っており、3位の森清選手がトップタイムであった。森清選手は、鞍部が見えてくる辺りから、鞍部に向かって直線的に走るルート取りをしており、若干の距離短縮が好タイムにつながったと考えられる。

1→2

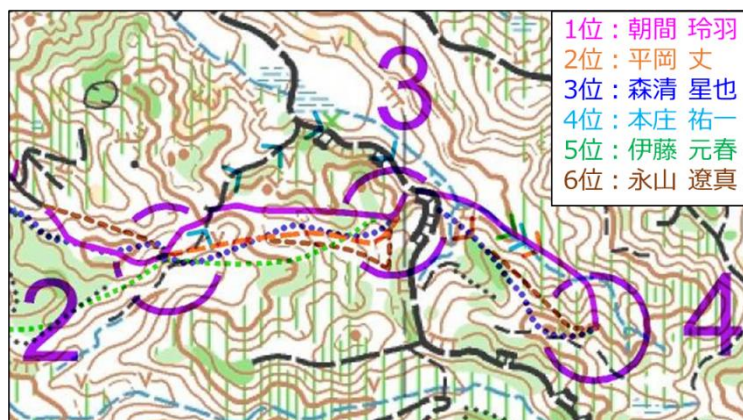
尾根などの線状特徴物を辿り、反対側の斜面にある特徴物に向かうレグである。道や尾根などの線状特徴物がレグ線方向に複数存在するため、どの線状特徴物を辿るべきかを判断することが重要である。

ベストの想定は、植生界のある尾根を辿りアタックするルートであった。しかし、このレグでトップタイムをたたき出した5位の伊藤選手は別のルートを選択している。1番コントロールの南東にある沢に入り、6番道を辿っていき、6番道と尾根がぶつかるところから尾根に乗り変えて、尾根を辿るルートである。このルートは距離こそ伸びるが、

- ・ルート上に悪路がなくアップ損がないこと
- ・緩やかな地形で走り続けられること
- ・線状特徴物を辿るだけでコントロールまで辿りつけること

以上3点から、好タイムにつながったと考える。

2→3



尾根や沢がバラバラの方向につながっており、方向維持とピークやこぶなどの確定点をナビゲーションに織り込めるかどうかを問うレグである。

ベスト想定はレグ線上に直進をし、3番コントロール南にある補助線コンタのピークを西に巻いてアタックするルートである。森清選手が2位相当のタイムでほぼ同ルートをチョイスしている。

4位の本庄選手は、道を使って大きく回り、コントロールのある沢の北側からアタックする、ナビゲーションが容易なルートを選択している。想定はしていたが、決して早いルートではない。ただ、難易度が高いことを察知し、リスク回避する意図でこのルートを選んだのであれば、冷静沈着な判断と広い視野（道回りのルートも見えているという意味）が素晴らしい。

3→4

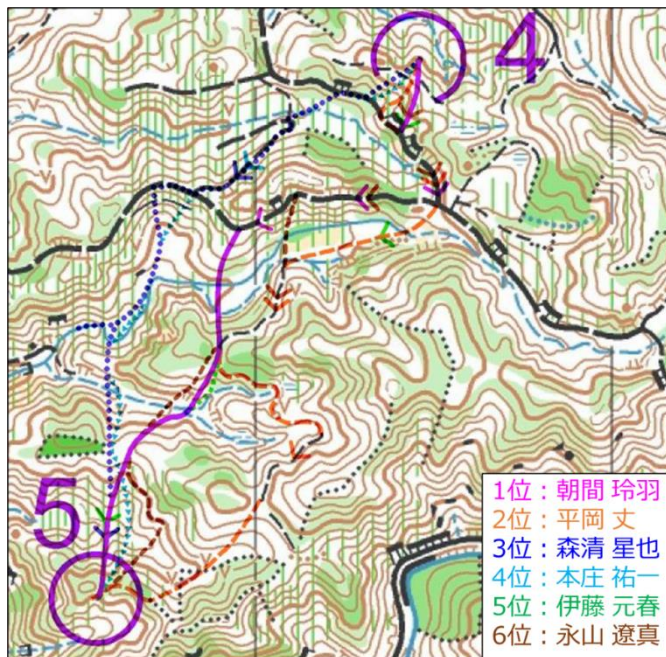
3番コントロールから北東にある3番道に出て、東に進み、道を曲がらず季節的水系に沿って南東に伸びる沢を詰めていき、水系が東に曲がる地点から4番コントロールのある尾根を登ってアタックするのが、想定するベストルートである。

森清選手と永山選手以外の入賞者は概ね上記のルートであった。一方、森清選手と永山選手は3番道からすぐに尾根に乗り、4番コントロールを上(南もしくは南東)からアタックするルートであった。後者は尾根上が若干藪に阻まれるのとアタックする際も手前に藪があり、避けようとするアップ損を避けられなくなるため、遅くなる予想であった。森清選手はここでトップタイムから+40秒（ミスタイムとしては+30秒）で、順位を落としているが、永山選手はトップタイムから+6秒（ミスタイムとして+1秒）と好タイムを出しているため、一概に悪いルートではなかったといえるだろう。

4→5

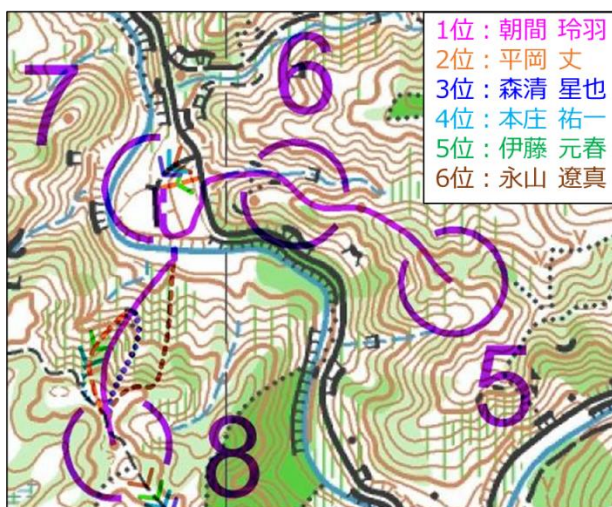
本レースの最長レグであり、前半戦の勝負レグでもある。脱出後に二手に分かれて、西にやや膨らむ森清選手・本庄選手のルート、レグ線上辺りを進む朝間選手・伊藤選手・永山選手・平岡選手のルート、そして、入賞者の中にはいなかった南周りの尾根辿りルートが大きく考えられる。南周りは距離が伸び、尾根辿りの難度もやや高いため、選択されなかったと考えられる。

入賞者の選択したルートの中でも細かいところで違いがある。トップタイムは伊藤選手であり、続いて平岡選手、永山選手となっていることから、ベストルートはおおよそレグ線上のルートと考えられる。足元がよい区間が長く、比較的緩やかなアップダウンである点が差の開いた要因であると思われる。平岡選手はアップダウンを避けるコンタリングのルートを選択しており、トップタイムではないが、好タイムを出している。



5→6

尾根上のどこにいるのかを把握し、スピードを落とさずナビゲーションできるかを問うレグである。速度を落とせばナビゲーション自体は容易であるため、難易度は低い。順位変動はないが、平岡選手がトップタイムを出している。



6→7

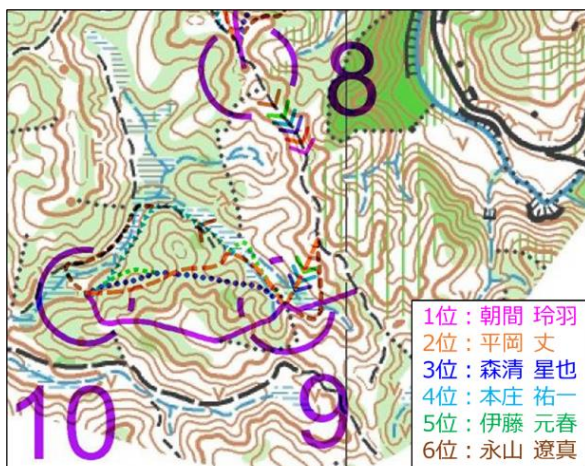
沢まで下りて道に出て、道を辿れば着くレグである。朝間選手がコントロールを飛ばしかけたのか、水系を渡る誘導箇所まで行ってから7番コントロールにアタックするミスをしており、ミスタイム+16秒を計上している。

7→8

想定ベストは8番コントロールの東の沢にある水系もしくはその周辺の緩やかな地形を登るルートであった。しかし、入賞者全員、レグ線上の斜面を直登するルートを選択している。トップタイムは2位の平岡選手で、ここでそれまで早かった伊藤選手と二俣選手の順位を抜いて累積タイム1位となった。

8→9

尾根を辿って南下していき、9番コントロールの北東にある補助線コンタのピークからコントロールのある尾根の先端に向かうのが想定のレストランルートである。入賞者の中で、朝間選手のみがオーバーランのルートとなり、ミスタイム+41秒を出して累積タイム3位から5位と順位を落としている。



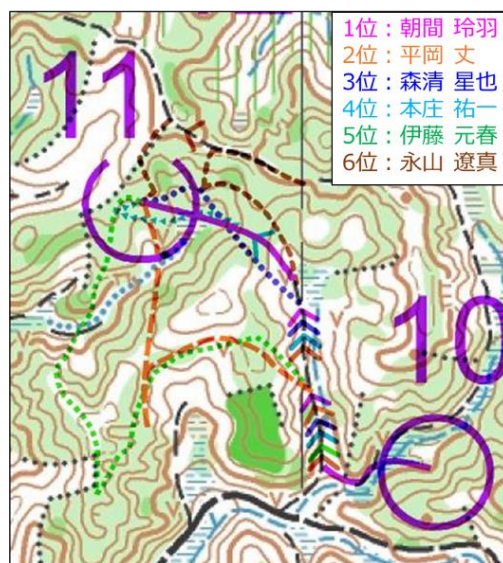
9→10

このレッグは大きく3つのルートに分かれることを想定して設定した。その3つのルートとは、尾根を辿ってアタックするルートとレッグ線より少し北にある鞍部を辿るルートと山塊を北に大きく回るルートの3つである。ベストルートは3つ目の山塊を北に大きく回るルートである。入賞者の中では2つ目のルートを選んだ森清選手が最速で、その次にベストルートを選択した本庄選手であった。ベストルートは湿地による影響が大きく、6番道を上手に使えるかどうかによって、差生まれる。不明瞭な特徴を利用するのは難しく、距離が短く登りを抑えられる2つ目のルートを選択した森清選手に軍配が上がったと考えられる。トップタイムの阿部 遼太郎選手がどのルートを選択したのかも気になるところである。

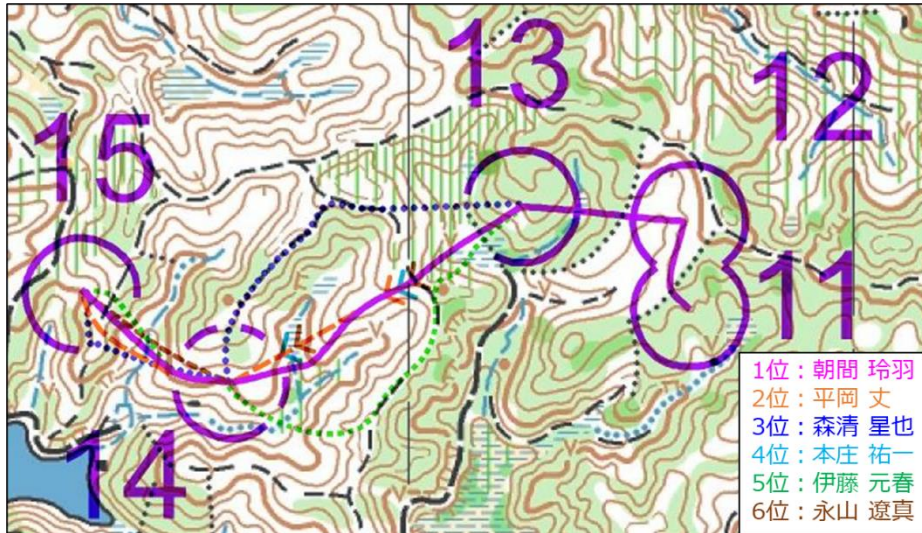
10→11

後半戦の勝負レッグである。距離こそ長くはないもののコントロールのある尾根に向かう前に尾根と沢を切る必要があり、コントロールまではっきりとした特徴のない地形を使ってアタックをする必要がある。そのため、どの地形を確定点として扱うか、という点を意識してナビゲーションをしないと、パラレルによって全く別の場所で目的の尾根だと錯覚することになり、大きなミスへとつながることになる。

想定ベストは朝間選手のルートであるが、非常に高いレベルの実行力が必要であり、素晴らしい。一方で、このレッグまで1位~3位であった平岡選手・伊藤選手・永山選手が大きくミスタイムを計上。平岡選手は1位を維持したものの朝間選手とのタイム差が僅か4秒となり、伊藤選手は5位に、永山選手は7位に、順位を落とした。



11→12



尾根に乗り、コンタリングでアタック。

12→13

直進で緩い尾根を切って沢を降り、その方向を維持しながら、尾根の傾斜変換まで一気に登り、そこから高さを維持してコントロールのある緩い沢までアタックするルート。

二俣選手、朝間選手と好タイムが続く。ここまで1位だった平岡選手は12秒のミスタイムを計上し、朝間選手に逆転を許した。

13→14

湿地のある沢を降りて、南西にある沢を登って6番道のある尾根に乗り、南西方向に伸びるA藪の尾根を辿り、先端もしくはその手前で西に進み、テラスに乗ってそのままコントロールのある沢にアタックするのが想定ベスト。

森清選手は尾根上の6番道を北に回って尾根を下ってアタックするルートを選択。想定ベストよりも距離が伸び、登距離に差がないため、25秒ほどのミスタイムを計上することとなった。

伊藤選手は尾根上の6番道を南下するルート。こちらは距離だけでなく、登距離も伸びるため、+55秒のミスタイムを計上。これによる順位の変動はなかったが、森清選手・本庄選手との差が開くことになった。

14→15

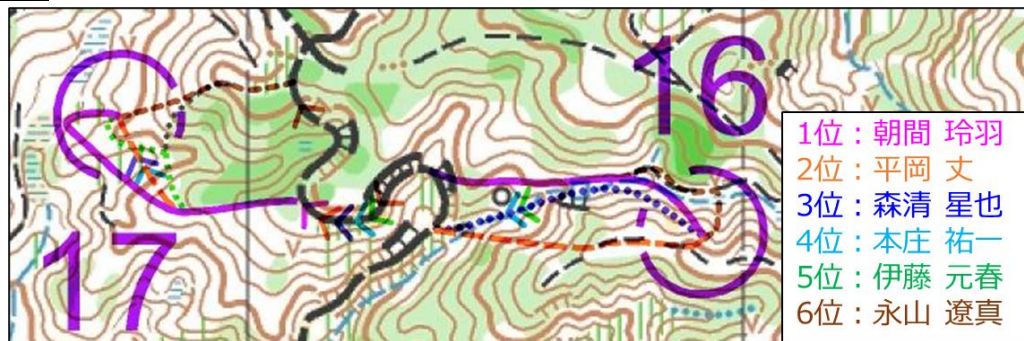
このレッグは、コンタリングで高さを維持しつつ、沢を切ることができること、そして、コントロール円の南東の沢から登りすぎずにコントロールのある沢にアタックできることがポイントである。

トップタイムは永山選手であり、終盤でも走破するフィジカルの強さが窺える。

15→16

不明瞭な道の分岐を適切に判別さえできれば難しくないレッグである。ただ、平岡選手はここで20秒のミスタイムを計上しており、それまで8秒差であった男子選手権者の朝間選手との差がつくことになった。

16→17



2021年11月時点で作成されていた地図では、想定ベストは沢を下り、4番道に乗り、土崖の間辺りから尾根に上ってコンタリングしていくルートであった。造成道(4番道が北に延伸)ができたことにより、造成道を使ったルートが易しく速いと考えられる。

入賞者全員、造成道を使って、尾根を降りるルートを選択している。永山選手のみ17番コントロールのある尾根まで造成道を利用しており、特にほかの入賞者との差もないため、悪くないルートといえるだろう。距離はやや伸びるが、先に尾根を降りてコンタリングするのと比較すると、走りやすい区間を伸ばしたルートのほうがミスなくスピードが出せるから差が生まれなかったと考える。

17→18

ほぼレグ線上にある4番道の曲がりや5番道の分岐に向かって直進をし、道の分岐から沢を見て、その西隣の尾根を辿るルートがベスト想定である。道の分岐にどう向かうかがポイントになる。道の分岐の南の斜面が特徴的でなく、緩い尾根を認識して登ることができるか、もしくは、エイミングオフをして道に乗ったときに、分岐のある方向へ向かうことができるようにナビゲーションできているかが重要である。

本庄選手が道の分岐よりもさらに西のほうから斜面を下るミスをし、森清選手が3位に浮上した。

18→19

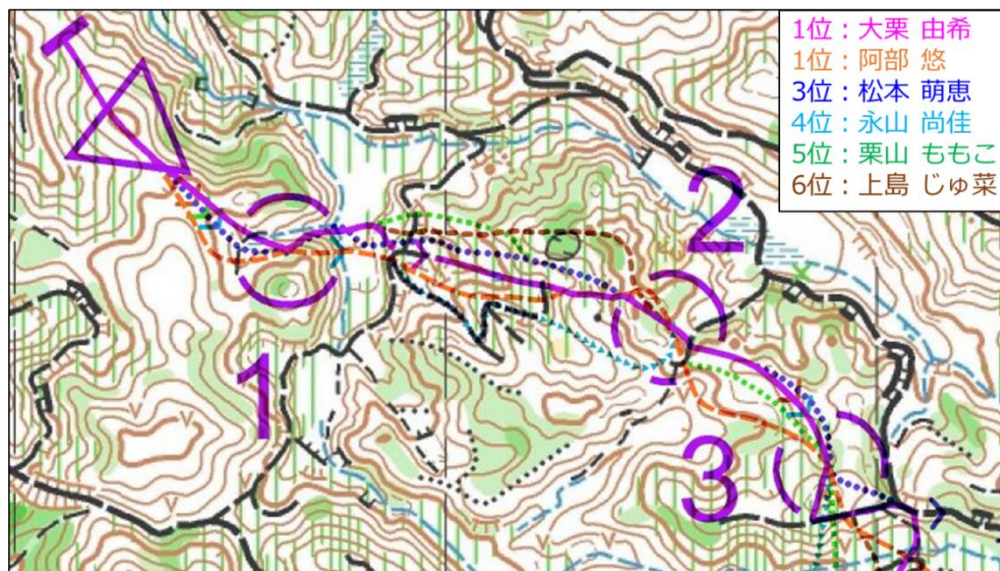
コンタリングをして道に出て、道を辿りアタックする。

19→◎

走り抜けるのみ。北海道大学1年目の丸山選手が単独トップタイムをマーク。続いて筑波大学の名雪選手と永山選手が同率2位。すばらしいタイムである。

△→1

スタートフラッグから尾根を南下し、一つ目の鞍部からコントロールのあるピークに向かって直進していくのが想定ベストルートである。入賞者は概ねこのルートであったが、入賞者の中でも永山選手がトップタイムであった。



1→2

尾根や道などの線状特徴物を辿り、反対側の斜面にある特徴物に向かうレグである。道や尾根などの線状特徴物がレグ線方向に複数存在するため、どの線状特徴物を辿るべきかを判断することが重要である。アタックはピークをチェックポイントにすればよく、難易度はそれほど高くない。

想定ベストは、永山選手のルートの4番道を外れるところまでが同じで、そこからレグ線上に直線的に進むルートである。ほかのルートはBハッチやCハッチによって不整地が走りにくいこと、(コントロールのある尾根を西から辿るルートは)C藪に阻まれて減速せざるを得ないことから、想定ベストよりは遅くなると考える。

トップタイムは静岡大学の中神選手で、ここから7番コントロールまで1位を維持している。

2→3

直進をして、ほぼレグ線上に進み、沢にぶつかったところでそのまま南東方向に沢をつめてアタックするのがベスト想定である。

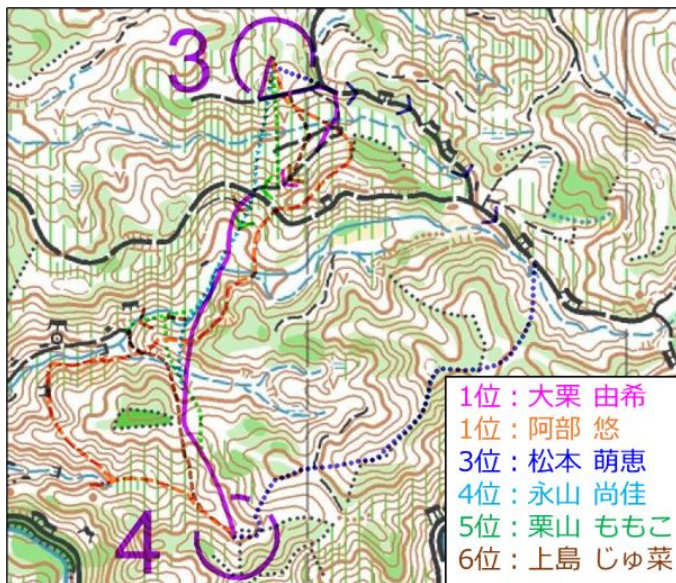
トップタイムの阿部選手は初めの道を切るタイミングで2番コントロール円南東にある穴の高さまで下り、B藪のある沢に入り、その沢をつめるルートを選択している。アップ損を感じさせないタイムであり、8位から3位まで順位を上げた。

3→4

本レースの最長レッグであり、前半戦の勝負レッグでもある。男子選手権の4→5レッグと同様ではあるが、男子選手権よりも開始点が西側であり、尾根辿りのルート距離がさらに伸びるため、東周りのルートが選ばれない想定であった。

想定ベストは、概ね大栗選手のルートである。3番コントロールからは南東の道の分岐を目指して進む（松本選手のルート）ことができていれば良かった。

阿部選手はここで相当大きなミスをしており、3位から17位まで順位を落とす結果となった。松本選手は右に大きく回る尾根辿りのルートを選択しており、ナビゲーションのミスを思われる箇所はなかったが、距離が伸びることによるものと考えられるミスタイムが計上されている。



4→5

尾根上のどこにいるのかを把握し、スピードを落とさずナビゲーションできるかを問うレッグである。速度を落とせばナビゲーション自体は容易であるため、難易度は低い。

樋口選手がトップタイムを出しており、思い切りの良さと走力があることを窺えるラップである。

5→6

男子選手権と同じレッグ(6→7)。大栗選手、樋口選手と好タイムが続く。

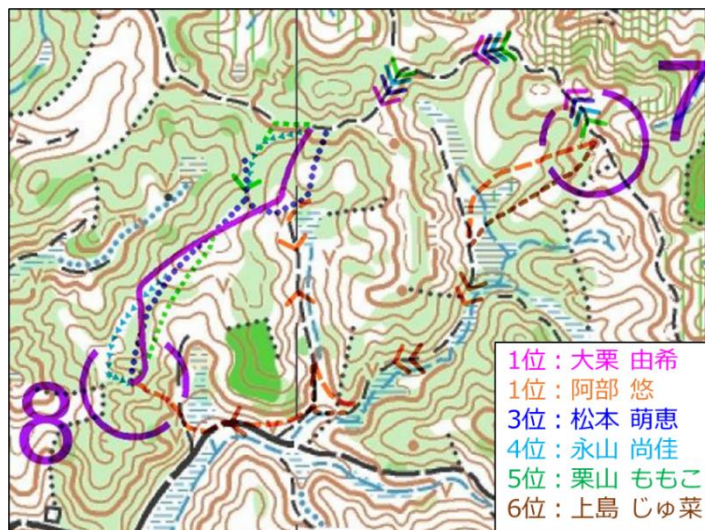
6→7

男子選手権と同じレッグ(7→8)。阿部選手が2位と40秒も差をつける力走を見せる。

7→8

後半戦の勝負レッグである。道を北に巻いて尾根を辿っていくルートが想定ベストである。アタックの難易度が高く、コントロール位置の隣の鋭い沢を使えるかがポイントとなる。また、小径から尾根に入る際も注意が必要だ。尾根の東にも似たような尾根あり、斜度も方向も類似しているため、平行が起りやすい。

このレッグのトップタイムは永山選手、続いて3秒差の栗山選手はいずれも上記のルートを選択している。アタックだけ異なり、永山選手はコントロールのある沢の一つ隣の鋭い沢を巻くようにして上からアタックしており、栗山選手は直前の緩い鞍部から高さを維持して、



おそらく先ほど登場した鋭い沢をチェックポイントとして隣の尾根の先端にアタックしているようなルートに見える。

上島選手と阿部選手は堅実なルート選択をしており、南周りのルートプランを実行している。アタック直前の登りで減速するため、想定ベストルートよりかは遅くなる。しかし、ナビゲーションは比較的容易であるため、リスクを減らすという意味では良い選択である。なお、阿部選手・上島選手ともに沢を間違える痛恨のミスをしており、阿部選手は+131秒、上島選手は+35秒のミスタイムを計上している。

このレッグの難易度は513と非常に高い。ここで樋口選手、中神選手、長瀬選手が大きくミスをして、入賞戦線から外れた。

8→9

尾根を登り、北西に伸びる尾根を降りてアタック。

9→10

レッグ線上をほぼまっすぐ行くルート、道を辿って北に巻いていくルート、10番コントロールの南にある池の際の道を使って尾根を巻き、沢底からアタックするルートの3通りが考えられる。想定ベストは2番目の北に巻くルートである。

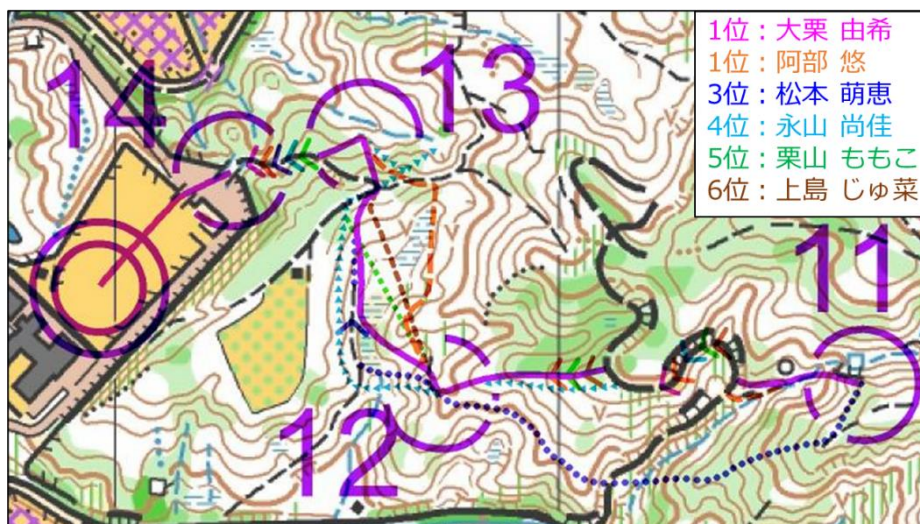
阿部選手は北周りのルートを選択し、トップタイム。ここで、入賞圏内に入る。

10→11

西の道に出て北上、オープンの手前で西に伸びる尾根に進む。すぐに北西に伸びる尾根のほうに進み、6番道に乗って、コントロールのある尾根まで進むのが想定ベストルート。このレッグで重要なのはルートではなく、正しくコントロールのある尾根に乗れるか、である。

阿部選手はこのレッグでもトップタイム。一方で、栗山選手が4番道の尾根を辿るミスをしており、そこで+143秒のミスタイムを計上。順位を一つ落として5位となる。

11→12



男子選手権と同様、後半戦最後の難易度の高いレッグを、と想定して設定していたレッグであるが、直前期に造成道が現れた結果、ルート次第で難易度の優しいレッグとなってしまった。元の地図では、想定ベストは沢を下り、4番道に乗り、土崖の間回りから尾根に上ってコンタリング（松本選手のルートに途中から合流）していくルートであった。造成道ができたことにより、松本選手以外の選択したルートがベストと思われる。

松本選手は主尾根を戻って下るルートを選択したことによって、+68秒のミスタイムを出しており、優勝争いから遠のいてしまった。一方、永山選手が好タイムを出し、2位に順位

を上げた。

12→13

レグ線方向に脱出、すぐに目の前の尾根を垂直に切るもしくは尾根の先端を回って、広い沢に入り、北上。13番コントロールの南の道の分岐に向かって斜面を登り、道の分岐から尾根を下っていく。男子選手権の17→18のレグと同様に道の分岐にどう向かうかがポイントになる。

永山選手が広い沢を西に大きく膨らむルートを選択し、ミスタイムを計上。阿部選手と松本選手に差し替えされる。阿部選手はトップタイムを出し、2位へと浮上。阿部選手は分岐のやや東の地点まで沢を詰めて道に上がり、道の分岐には行かず、道に乗ったところから直接13番コントロールに向かうルートであった。7→8のミス以降、ほぼノーミスで順位を上げていき、ここで2位に浮上。栗山選手は逆に道の分岐から西の斜面を登り、分岐に合流、そこからアタックと的確なルート取りを実行。ラップタイム2位の好タイムを出している。

13→14

男子選手権と同じレグ(18→19)。福田選手、吉田選手と好タイムが続く。

14→◎

走り抜けるのみ。ここで阿部選手が大栗選手に追いつき、同率1位となった。松本選手はトップタイムを出すも、2秒差遅れでフィニッシュ。

総括

男子選手権は極端に難しいレッグとなったものもなく適切に難易度調整ができていたと考える。優勝時間もおおよそ予想通りの結果となった。一方、女子選手権は7→8で難易度513と極端に難しいレッグが生まれ、そこで順位が大きく変動した。そして、優勝時間は12分以上も外す結果となった。

前者はリスクを回避するナビゲーション、もしくはそもそもリスクを察知する力がコース設定者の思うそれよりもレベルが高くなかった選手が多かったことによるものと思われる。勝負レッグは勝負をしに行くレッグであり、決して攻めたルート取りをするレッグではない。時には守りに徹し、結果的に周りを出し抜くというような視点も一つの考え方として持ってほしいと思う。

優勝時間が大きく外れた要因について、コース決定が開催直前期となり、十分なタイム測定ができていなかったことによるものとする。一人のデータに頼り、ミスをせず“インカレ補正”のかかった学生であれば、35分くらいになるだろうと、どんぶり勘定をしてしまった。実力のある複数人に試走をしてもらい、データを集めて、それに基づいた予想優勝時間を設けることが重要だったと反省する。

おわりに

青山高原は、学生時代にセクションレースやインカレ前の対策練習会など走る機会が多く、私にとって親しみのあるトレインであった。現役生のほとんどが初めて、もしくは2回目の出走だったと思うが、青山高原の面白さを体感してもらえただろうか。複雑に入り込んだ尾根・沢が連なり、植生も多様で見通しがよい場所が多く、関西の代表といっても過言ではない良トレインである。そのような場所でコース設定をすることができ、非常に光栄である。少しでも青山高原の魅力を伝えられるようなコースとなっていたら幸いである。

コースの設定にあたって

青山高原（南エリア）の特徴も生かしつつ、尾根辿りを要する急峻な地形と、直進を要するなだらかな地形の両方をバランスよく使用し、様々な地形に対応できる能力を問えるように意識した。

また選手権リレーにふさわしいコースにすべく、各レグに対してある程度以上のナビゲーション技術を問うのは前提のもと、以下の点に注意しコースを設定した。

- ・他の競技者に惑わされず、自分の力でオリエンテーリングを行う力を問うために、各パターン振りのレグが複雑に交錯するような区間を設定した。

（WER：2→3→4等、MER：3→4→5→6→7等）

・ミドルレグに偏りすぎないように、ルートチョイスの力を問うようなロングレグを設定した。またロングレグの始点や終点を各パターン振りの中でわずかに変化させることで、各パターンで見えるルートも異なるように設定した。

（WER：4→5等、MER：8→9等）

・パターン振りはWER・MERともにABC×PQRの9パターンであるが、パターンの入れ替えをWER・MERとも3回行わせ（下表）、追走が起こりにくくするようにした。また、ビジュアル後のパターン振りをなくし、各パターン同一として、パターン差による順位・タイム差が生まれないようにした。下表に各ポストとパターンの対応表を示す。また男女同一ポストを赤字で示す。

パターン	ABC	共通	PQR	共通	ABC	共通	ABC	共通	PQR	共通
WER	1	2	3～ 5			6	7	8	9	10 以降
MER	1	2	3～ 6	7・ 8	9	10・ 11	12	13	14	15 以降

コース解説

以下、レグごとのコース解説に移るが、凡例を以下に示す。

ポストの色は、1位（WER：梶山、MER：東京）のチームの走順パターンに合わせている。また2位（WER：横市、MER：京都）のルートは必要に応じて記載している。

順位	走順	色	WER走者（パターン）	MER走者（パターン）
1位	1走	紫	松本 芽依（CP）	本庄 祐一（CP）
	2走	青	高野 玲奈（BQ）	伊藤 元春（AR）
	3走	赤	栗山 ももこ（AR）	朝間 玲羽（BQ）
2位	1走	桃	須本 みずほ（BP）	伊藤 良介（CR）
	2走	緑	明田 彩里（CQ）	二俣 真（AP）
	3走	灰	今井 里奈（AR）	平岡 丈（BQ）

【WER/MER : $\Delta \rightarrow 1 \rightarrow 2$ 】

$\Delta \rightarrow 1$

それぞれ位置が近いもののベストルートが異なるように配置し、他パターンの走者の動きに惑わされずにベストルートを選択できるかを問うた。また、登りがきついレグのため、特にレースに飲まれる、ミス挽回する必要があるなどの理由でオーバーペースになってしまうと、登りがきついため想像以上にレースに体力を消費し、後半の消耗やミスの遠因となることが考えられる。レース全体を想定し、序盤から冷静に自分のレースを組み立ててほしい。

$1 \rightarrow 2$

全パターン共通としたが、1コントロールの有利不利をつくることで、集団をばらけさせながら狭いエリアでの過度な渋滞を避ける意図がある。また、次レグ以降でパターンを振りなおすためにも共通ポストとした。

WER : $\Delta \rightarrow 1 \rightarrow 2$



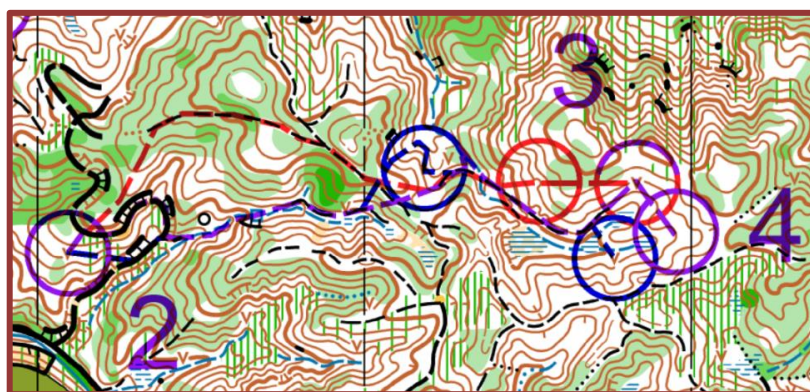
MER : $\Delta \rightarrow 1 \rightarrow 2$



【WER : $2 \rightarrow 3 \rightarrow 4$ 】

$2 \rightarrow 3$ は実行の課題を問うた。ルートとしては大きく、中央の沢を詰めるルートとレグ線北の尾根を巻くルートが見えるが、どのパターンであっても中央が速いと考え。しかし、脱出は北の尾根側に向かう方が見えやすく実行しやすいため、脱出時に、中央か北かを決めてから実行に移りたい。実行は中央のルートは沢を登り返す部分に注意したく、簡単な線上特徴物上での現在地把握についてWERでは十分課題になると考えた。レースでは166番コントロール（パターンQ：青の3コントロール）南の計曲線同士の鞍部を超えた後、166番付近の大きな水系付きの沢を北に下ってしまうミスも散見された。なおこのレグは勝負レグとして位置付けていた4→5以上に大きなミスをした選手も数多く散見された。

WER : $2 \rightarrow 3 \rightarrow 4$



$3 \rightarrow 4$ については、大きな沢の中の見通しの効くエリアを直進で自信を持って進んでもらいたく設定した。また、158番コントロールはパターンP：紫の3コントロール目であると同時に、パターンR：赤の4コントロール目でもある。他走者の動きに惑わされないように十分注意したい。

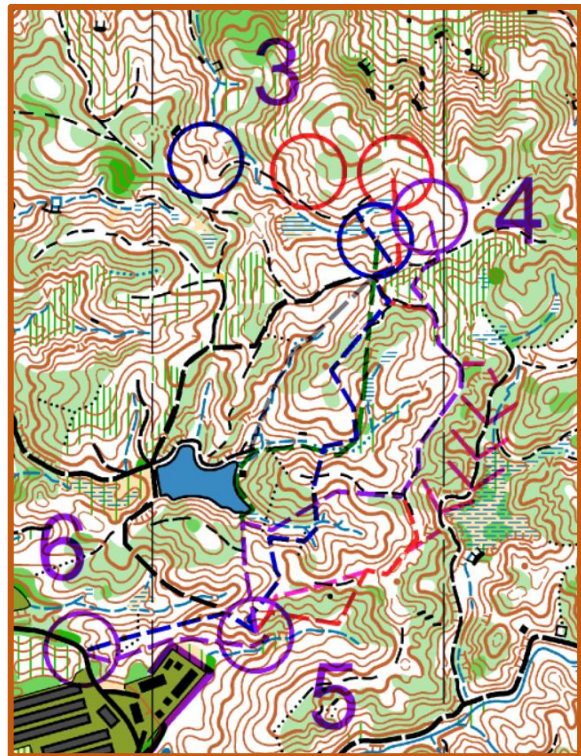
【WER : 4→5→6】

4→5はWERの一番の勝負レッグとして設定した。始点をわずかに変えているが、どのレッグも尾根辿り（紫→赤→桃）が一番速くなるように設定した。尾根からアタックする際は、3回主尾根を外させる位置になるようコントロールを設置した。一方で尾根辿りには精緻で連続したナビゲーションが必要となるため、負荷とリスクを抑える為、代替ルートとしてレッグ西側のルート（1位、2位のチームの選手に選択者がいなかったため黒破線で示す）などを検討していた。

実際の選手が選択したルートは多様であったが、選手には難しいと感じるレッグを感じ取り、リスクを鑑み自分の中のベストルートを選んでもらいたい。

5→6については、自信を持って進んで尾根を下ってもらいたい。

WER : 4→5→6

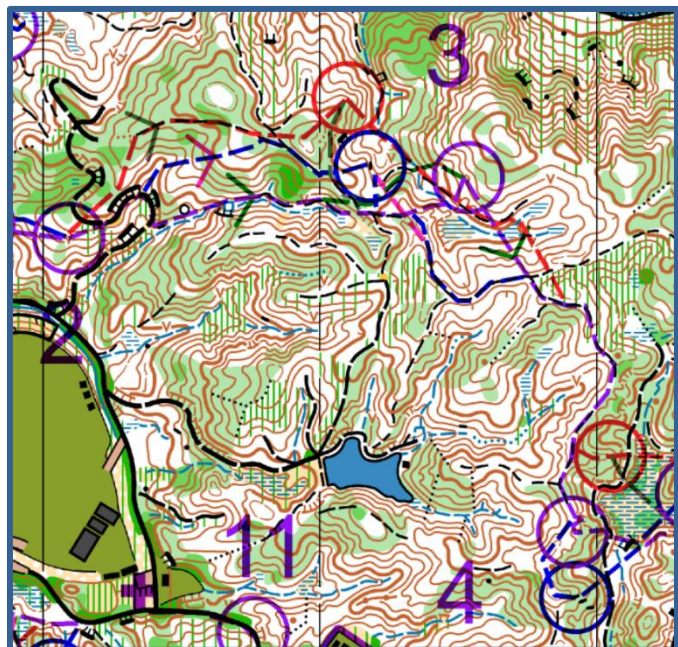


【MER : 2→3→4】

2→3では、WERでは実行の課題としたのに対し、MERではルートチョイスの課題とした。パターンQ：赤のコントロールは尾根辿りが速く、それ以外はより中央のルートが速いように設定したが、見事に3パターンともルートが分かれていることが分かる。

3→4は青山高原らしい尾根通りの実行力を問うレッグとした。ラップから、上位選手はみな問題なくこなしていたことが窺える。

MER : 2→3→4



【MER：4→5→6→7→8】

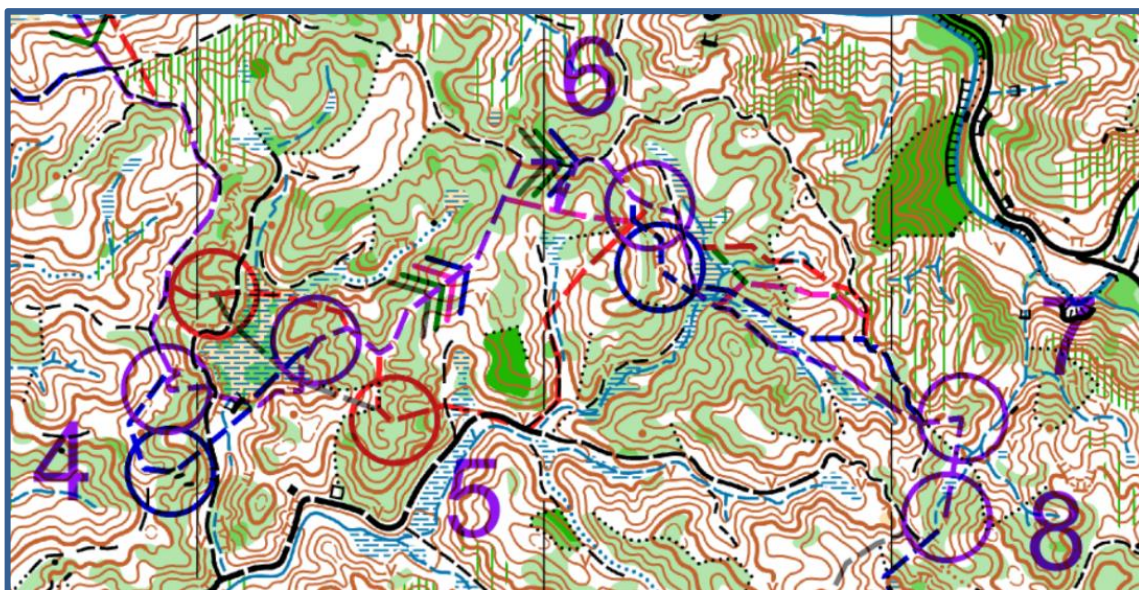
このエリアでは、ミドルレグで、見通しの効きにくい中で方向を細かく替えさせ、スピードを落とさずに実行しきれんかを問うた。また、5コントロールはパターンP（紫）とR（青）、6コントロールはパターンP（紫）とQ（赤）を共通とし、選手の離合集散をさせることで、お互いの選手を意識しつつリレーらしい駆け引きが起きることを狙った。

4→5では、旧図で池となっていた部分を上手くいなしてほしい。

5→6では、全レグとも尾根廻りの後、鞍部からポストに向かう桃ルートに近いイメージが最速と考えている。一方、ポスト位置・レース展開次第で赤ルートも考えられる。

6→7では、ポスト位置の尾根が尾根上の小径の曲がりから伸びているので、走りにくい湿地を避け早めに尾根に乗るとナビゲーション負荷を低減できる。

MER：4→5→6→7→8



【MER：8→9→10→11】

8→9を、MER最大の勝負レグとして設定した。始点を統一し、終点をパターンごとに少しずつ振り分けることで、多様なルートチョイスが生まれるように工夫した。

大きく、北の道回りルート（紫ルート）、中央の鞍部を通過するルート（青ルート）、南ルート（緑ルート）の3ルートが存在する。パターンA（紫）はこの3ルートで、パターンB（赤）は中央と南回りで、パターンC（青）は北回りと中央で悩ませるイメージでコースセットを行った。またどのパターンも中央の鞍部を通過するルートがベストルートになるように設定を行ったが、試走時はパターンAやCでは北回りと中央がほぼ同タイムであった。

各ルートの距離・登距離は下表の通りである。

パターン	北回り（登距離）	中央（登距離）	南回り（登距離）
A（紫）	828m（35m）	755m（25m）	1015m（40m）
B（赤）	－	724m（35m）	906m（45m）
C（青）	736m（40m）	682m（20m）	－

また、各パターンの最速タイムは以下の通りであった。

パターンA（紫）・・・岩淵：新潟4（5:10）

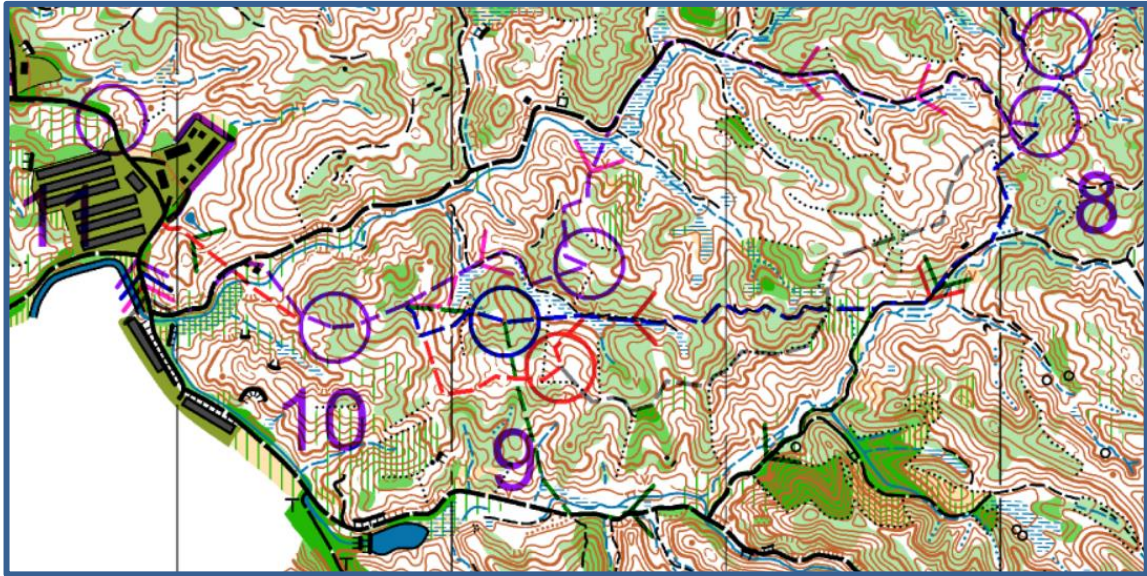
パターンB（赤）・・・朝間：東京4（5:13）

パターンC（青）・・・本庄：東京3（4:50）

9→10は、ポスト東側の計曲線の鞍部からコンタリングのようにアタックするルートがベストだと想定していたが、6選手はいずれもポスト北東のピークを通るルートを選択していた。

10→11は、道を使って細い尾根を南西から巻くルート（紫）と、中央の細い尾根を切るルート（赤）が存在する。タイムとしてはどちらもほとんど変化はないと考えてコース設定を行ったが、lapcenterからは道回りの方が速かったことが窺える。

MER : 8→9→10→11

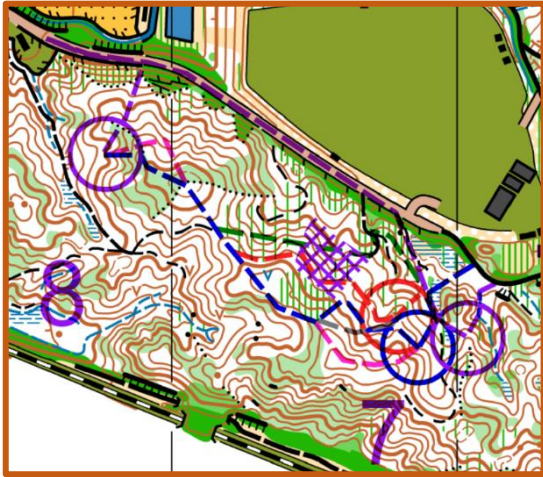


【WER : 7→8 / MER : 12→13】

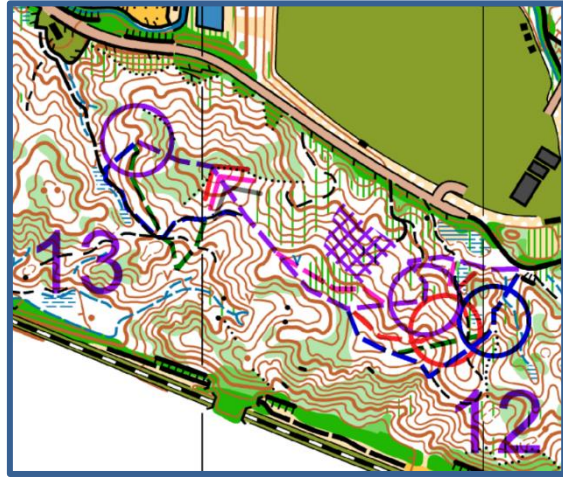
WER : 7→8、MER : 12→13は、南西の山塊での勝負レグとして設定した。南西の山塊は緩い地形が広がっており、コンパスや地形イメージを頼りに自信を持って進めるエリアが広がっている。その中で当該レグは、見通しの効く緩斜面を横切るように長く進ませ、自信を持って進めているか否かでタイム差が出るように設定した。しかし、大会直前に伐採が入ってしまい、だいたい下図において立入禁止区域で示したエリアの走行可能度がCハッチ同等レベルに低下していた。結果として、Cハッチを避けるために尾根線に出ることが望ましいレグとなった。アタックはピークから下るのが最適で、ピーク上から冷静にコンパスを振って下って欲しい。北の舗装道の道回りは、道から再び森に入る部分が難しく、またアタックも単純とはいえない。

上位チームのルートは男女で傾向が分かれる形となった。女子は男子に比べて登りを避ける傾向が見られた。またアタックでは、男子はピークに登るのを避け南の道を使ってアタックする傾向も見られた。男子と女子でルートを共有する機会は少ないかもしれないが、機会がある際にはルートを共有し検討することで新たな発見を得られることだろう。

WER : 7→8



MER : 12→13



【WER : 8→9→10→11 / MER : 13→14→15→16】

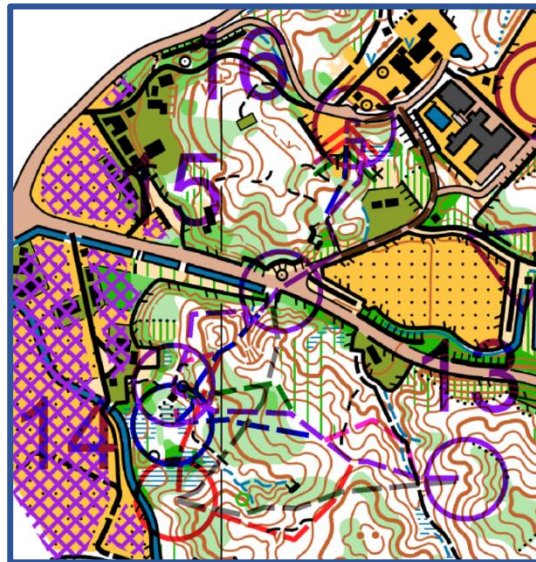
WER : 8→9→10、MER : 13→14→15は、南西の山塊の傾斜が緩い特徴を生かしたミドルレッグを用意した。このようなミドルディスタンスの特徴を持つレッグは、自信を持って最短距離を走ると速い。一方、他チームとのタイム差や並走者のルート等の状況を鑑みて、走りやすい植生や線上特徴物を選ぶこともよい選択肢となる。なおWERでは7→8以上に大きなミスをする選手も多かった。

WER : 10→11、MER : 15→16はビジュアル前のレッグだが、森から出て市街地に入る箇所で、スプリントのような明確なルートチョイスを持つレッグを用意した。切り開きから山に入りオープンな抜ける中央のルートが、舗装道を使用する東回りルートに勝ると考えている。

WER : 8→9→10→11



MER : 13→14→15→16



【WER：12→13→14→15 / MER：17→18→19→20】

ビジュアル後の回しは全パターン、男女とも同一パターンとした。しかしビジュアル後であつても油断するとタイム差に繋がるようなショートレッグを用意した。

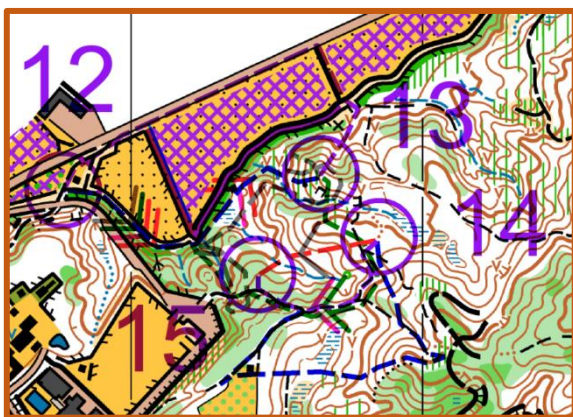
WER：12→13、MER：17→18は、距離が長い（484m）が難易度の低い北の道回りと、距離が短い（314m）がやや難易度の高い南回りの柵の角から森に入るルート、大きく2種類のルートチョイスを伴うレッグとした。柵や道などが密集し読みにくいエリアの為、立入禁止の境界線や立入禁止区域を使用して判読性を高める工夫を行った。

WERは、ここまで1位だった梶山が柵の角から南東方向に登ってしまい、ここで3分半のミスを上し1位+0:16の2位となった。一方MERは、タイム差に余裕を持って1位を保っていた東京が全員北の道回りを選択していたのに対し、追う立場であつた2位の京都が全員南回りを選択していた。レース展開によってどのくらいリスクを取らなければならないかによって、ルートが綺麗に分かれていることは興味深い。

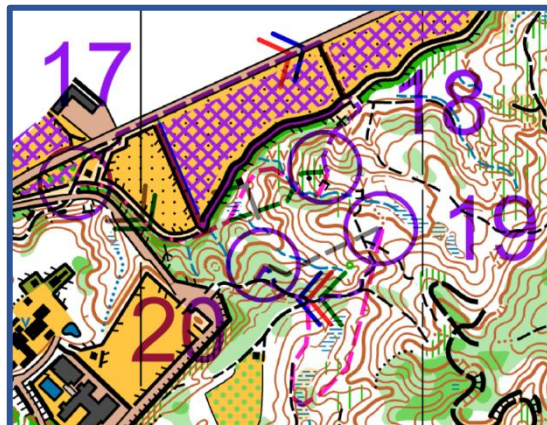
WER：14→15、MER：19→20は、同一パターンである終盤の中で、最後の逆転のチャンスとして用意した。南の道回りの他に直進の選択肢が見え、一秒を削りだす必要がある場面では直進を選択してほしい。道回りを選択する際は、小径がポスト位置より一段低いことを意識していないと思わぬミスにつながる可能性がある。

WER3走の2人はどちらも直進を選び、1位と2位の差は+0:09から+0:02となったものの、順位は変わらずそのままフィニッシュを迎えた。

WER：12→13→14→15



MER：17→18→19→20



総括

選手権リレーにふさわしいようなコースにすべく、4.1で述べたことを意識しつつ、ロングディスタンス競技に典型的な大きなルートチョイスの課題や、ミドルディスタンス競技に典型的な地形やコンパスを頼りに実行力を問う課題、スプリントのようなルートチョイスの課題等、オリエンテーリングの総合力を測るコースを心掛けた。また様々な地形に対しての課題も盛り込むことを意識した。全体としては、決して簡単ではないが理不尽なレッグや難しすぎるレッグはない、実力を持った選手が実力通りの結果を出せるコースを提供することが出来たと感じている。

当日の結果を振り返ると、男女ともタイム差が大きく、特にWERではウムスタート直前まで入賞チームが決まらないなど、非常に荒れたレース展開となった。詳細は後述する。優勝設定時間はWER：40分、MER：45分と設定していたが、WERの個人最速タイムは43:37（阿部悠：実践4）、MERの個人最速タイムは49:17（平岡丈：京都3）と、男女ともやや厳しい設定となった。ウイニングに合わせてトレーニングメニューを決め、当日のシミュレーションを行ってきた選手の皆様にはお詫びを申し上げたい。

続いて、WER、MERをより細かく振り返る。

WERでは、1位の横浜市立大学と2位の椋山女学園大学のタイム差が+0:05と僅差であり、優勝争いは熾烈となった。一方で、1位から6位の京都大学までのタイム差は+1:02:51と、入賞ラインは38年ぶりに1時間を超え、ウムスタート直前まで入賞校が決まらない展開となった。お茶の水女子大学・国際基督教大学混成や、十文字学園女子大学・早稲田大学・聖心女子大学混成チームも優勝・入賞相当のタイムの好走となった。また、7位の東京理科大学も2走終了時点で1位の好走を見せ、会場を大いに盛り上げた。一方、19チーム中8チームが競技時間内に完走できておらず、厳しいレースとなった。個人タイムとしては唯一45分を切った実践女子大学の阿部悠選手（43:37）が圧倒的なタイムであった。一方で大きなミスタイムを計上してしまう選手も多く、各大学が3人の女子選手を揃えることの難しさを感じた。

MERでは、前回大会の選手権校である東京大学が1位となり、3連覇を達成した。男子の1位から6位の新潟大学までのタイム差は+32:12となり、3人制となった2004年度大会以降初めて入賞ラインはトップ+30分を超え、男女ともに記録的なタイム差となった。一方、男子は完走できなかったチームは3チームに留まった。個人タイムは、京都大学の平岡丈選手（49:17）のみが50分を切り、東京との差を詰める好走を見せた。

おわりに

今大会は3年ぶりのリレー競技となったが、まずは開催出来たことを本当に喜ばしく思っている。開催が可能となったのは、インカレ出場に並々ならぬ情熱を注いで大学や周囲の人を説得し続けてくれた出場大学や選手の皆様、インカレを何としても開催し次世代につなげるという強い意志を持った実行委員会、そして何より地元の暖かな協力があったことを忘れてはならない。インカレリレーという舞台が毎年当たり前のように提供されている訳ではなく、インカレは数多くの熱意や厚意で成立していることを改めて思い知らされたように感じる。

そして、本大会開催の裏で、岩手大学・金沢大学・慶応義塾大学・相模女子大学・東京工業大学・東京農工大学・東北大学・宮城学院女子大学・立教大学が大会直前まで大学側と出場許可を求めて折衝を行ったが参加許可が下りなかったこと、その他大会の参加を断念せざるを得なかったこと、過去2年間にわたりインカレリレーが中止となり、その間に卒業をしていった代がいることを忘れてはならない。来年も、再来年も、どうかインカレが出来る舞台が整うことを願ってやまない。そしてその願いが、舞台を作る人・舞台に立つ人双方に共有され続けることを期待してやまない。

末筆にはなりますが、インカレに足を運んでくださった選手やOB/OGの皆様、実行委員会の皆様、伊賀上津の地元の皆様、また、最後まで参加の道を模索し続けてくれた選手の皆様や、ライブ配信等で遠くから応援してくださった皆様、その他大会を形作ってくれた全ての皆様に改めて感謝を申し上げます。またコース設定は本当に楽しくやりがいがあるものでした。出走してくれた全ての方にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

4 大会運営報告

4.1 大会企画の経緯

▼開催地・日程の決定

2020年度に青山高原でインカレミドル・リレーを開催する予定だったが、中止となった。その後テレインクローズは解除せず、そのまま本年度のインカレミドル・リレーを青山高原で開催することになった。

▼実行委員会の発足

実行委員長を務める藤本（京都16）は、2020年度インカレミドル・リレーの中止直後（2021年2月）に当時の実行委員長より打診を受け、拝命した。

主要役職の勧誘は2021年4月から開始し、6月上旬までに運営責任者が増澤（筑波16）、競技責任者が田中（京都11）、渉外責任者が森河（京都16）に内定した。また、コース設定者は2020年度大会と同一人物【ミドル：築地（神戸13）、リレー：加藤（東京14）】が引き続き担当することになった。

本大会では運営者が幅広い世代となり、インカレ運営経験のほとんどない、もしくは全くないOBOG2年目の世代が多く責任者クラスの役職を務めた。人的リソースに限られている関西・東海地区でのインカレ開催時は、今後も（本人が責任者クラスにならずとも）年齢層が上のOBOGにも一定数運営に入ってもらい、これまでの運営経験を踏まえたアドバイスを貰えるようにしておくのが望ましい。また、交通費はかかってしまうが、ある程度関東在住者の力を借りるのも一案である。

イベント・アドバイザーについては、2020年度大会から引き続き木俣順氏（名古屋91）に依頼した。本大会でも多くのアドバイスをいただき、大会の成功に向けてご尽力いただいた。

▼開催日前倒しの経緯

2年連続でインカレミドル・リレーが中止になっていることを受け、実行委員会では今回こそは何としてもインカレミドル・リレーを開催すべきだという意見で一致した。その中で9月に「開催日を例年の3月から2月に前倒しした上で、元の3月の日程を予備日とする」という案が出た。2月開催を目標に運営準備を進めたうえで、社会情勢により2月開催が不可能になった場合は3月開催にシフトする、という方針により開催の可能性を上げられるのではないかと、という意図での案である。

渉外担当より開催地にこの方針を伝えたところ承諾をいただけた。その後実行委員会では会場が使用できない日を除いたうえで、予備日（3月11日～13日）との日程の間隔等も勘案して、開催日は2月4日～6日が望ましいという意見でまとまった。その後、日本学連に開催日前倒しについて提案し、日本学連幹事会内での議論を経て、日本学連として開催日の前倒しが決定された。

今回の開催地は大会の開催に多大な理解を示していただいたため、実行委員会からの申し出に柔軟に対応してくださった。今後の大会の開催地でも今回のような対応が可能であるとは限らないが、開催の可能性を上げるため案として持っておくのは良いと思われる。日程の決定にあたっては、今回の日程の是非について（学業との兼ね合いなど）学生からフィードバックをもらっておくのが良いだろう。

▼開催可否判断基準等の経緯

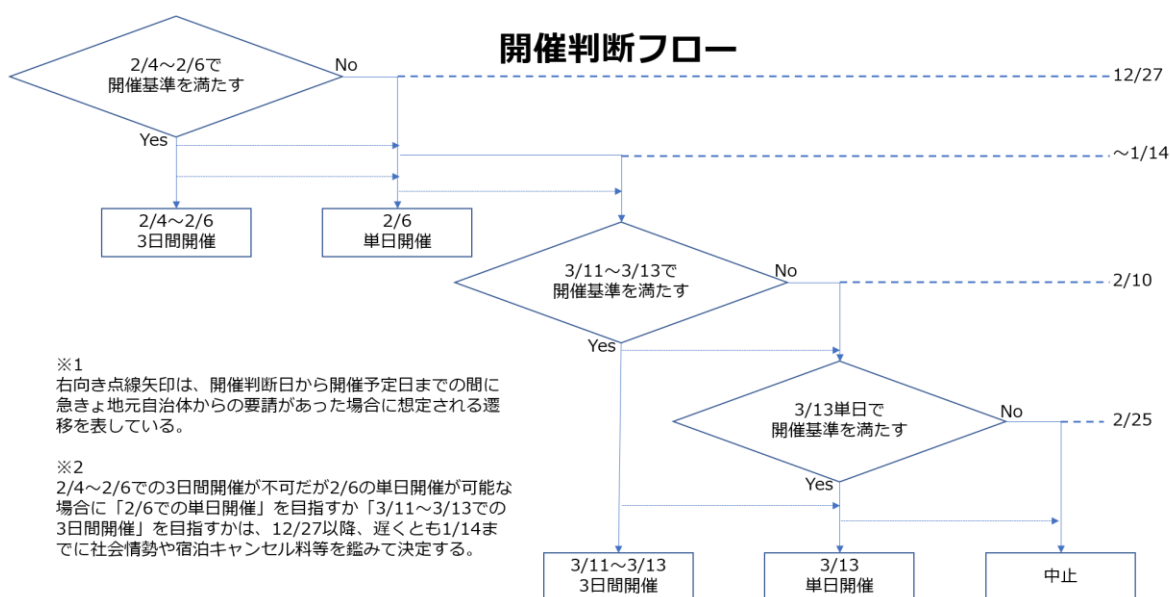
2020年度大会と同様、開催可否判断基準を策定しようとした。2020年度大会では、地元からの中止要請はなかったが、事前に策定していた参加可能人数による開催中止基準にかか

り、中止となってしまった。開催日前倒しについての議論と同様、今回こそは何としてもインカレミドル・リレーを開催するべきだという考えで、実行委員会としては「参加可能人数による開催可否判断基準を設けず、地元からの中止・延期要請の有無によってのみ判断する」という意見で一致した。その後実行委員会から日本学連に提案し、日本学連総会での承認によって、参加可能人数による開催可否判断基準を設けないことが決定された。

一方で、実行委員会としての開催可否判断基準は設けた。「三重県または伊賀市による宿泊自粛要請」「三重県または伊賀市による延期・中止要請」「予定している会場の使用取消」があった場合は縮小開催・延期・中止を行うと決定した。そのような状況で大会を強行開催することは今後のテレイン利用に深刻な影響をもたらすと考えたためである。

また、単日開催時の開催種目について日本学連に議論するよう依頼した。2020年度大会の議論では「ミドルおよびミドルの個人タイムを合計した団体戦」を行う、と決定していたが、2021年度大会については「リレー」を行う、と決定していた。

開催判断期日とフローについては、宿泊輸送の都合により実行委員会側で決定し、日本学連幹事会に確認してもらった。以下の図のとおりである。



以上について議論している際は、インカレの継続性のために当時においてベストと思われる判断を出せるように心がけていたが、100%の正解ではなかったと考えている（そもそも100%の正解はないだろう）。今後も過年度の決定事項に囚われることなく議論していくべきである。

4.2 活動実績（運営）

▼活動の概要

本項では、大会運営の概要を報告する。なお、競技に関わる事項の詳細については 4.3 項に記載のため割愛する。

	月	活動内容	詳細/備考
2021	4-6	活動開始	主要役職及び EA を選定し、準備を開始した
	6	実行委員会発足	日本学連理事会の承認を経て、正式に実行委員会を発足
		渉外①	6月24日 山川氏が電話で神村学園分校長、地区長へ挨拶し、以下の内容を決定 ・会場：神村学園 ・大会開催日：3月11～13日
	8	渉外②	8月12日 実行委員長、渉外責任者で現地を訪問 ・伊賀市役所 ・上津地区市民センター
		契約交渉①	8月18日 業務計画書、業務委託契約書を山川氏に送付、締結
	9	試走①	9月5日 ・前年度ミドル選手権コースの試走 ・使用エリアの検討
		開催日前倒しの提案	9月7日 日本学連に議論を依頼し、その後理事会承認
		宿泊方針の決定依頼	9月18日 参加学生の宿泊場所をすべて1人部屋で確保することについて日本学連に議論を依頼
	10	要項1、2発行	開催6か月前に開催日前倒しの判断をしたため、理事会承認の上、要項1の発行時期を遅らせた
		開催判断基準の提案	10月5日 開催判断基準および単日開催での競技形態について学連総会での議論を依頼
		契約交渉②	10月6日 前倒し日程の業務計画書、業務委託契約書を山川氏に送付、締結
	11	試走②	11月3日 ・前年度のリレー選手権、一般コースの試走 ・ミドル選手権、一般コースの試走 ・コース設定の方針決定
		試走③	11月20日、21日 ・リレー選手権&一般コース試走 ・造成道の確認
		要項2.1発行	-
		チーフ級役員の決定	この時期までにほとんどのチーフ級役員の選定を完了
		エントリー開始	12月1日(～12月27日)
	12	試走④	12月5日 ・ミドル選手権コースの確定

2022			・造成道の経過観察
		試走⑤	12月18、19日 ・リレー選手権コースの確定 ・会場レイアウトの策定
		要項 2.2 発行	-
		当日役員の決定	この時期までにほとんどの当日役員の勧誘を完了
	1	要項 3 発行	-
		直前準備①	1月22-23日 現地にて主に以下の事項を実施した ・配布物の用意 ・看板等の大型資材の用意 ・要項 3.1 掲載情報の確認 ・各パートマニュアルの確認 ・当日スケジュールの検討 ・会場レイアウトの確認 ・各パート残課題の整理
		開会式	1月29日 Youtube の Live 配信機能で開会式を実施、ミドル選手権のスタート順を発表
		要項 3.1 発行	-
		直前準備②	1月29-30日 現地にて主に以下の事項を実施した ・大型資材を大垣の山川氏宅から搬入 ・地図の品質確認と封入 ・コントロールの設営と位置確認 ・GPS 動作確認 ・当日スケジュールの検討 ・各パート残課題の整理
		冊子版要項 3.1 の入稿	1月30日 選手権待機所配布用の要項 3.1 冊子版を業者に入稿
	2	大会当日	-

<業務委託契約>

本大会では、地図作成・マネジメント業者の YMOE 社と業務委託契約を締結した。これは書面にて「業務委託の基本的なルール」「運営の根幹に関わる業務の納期」「自責による業務遅延に対する罰則」「YMOE 社所有物品の賃料」等を明記することが目的である。

また、書面でのやり取り、記録を残すことで、トラブルに対して口頭でのやり取りの曖昧な記憶ではなく、両者が合意しサインした契約書や補足文書をベースに議論することができるという点でも評価できる。

▼渉外

本大会の初期渉外は昨年度に引き続き、日本学連副会長 YMOE 山川氏に実施いただき重要関係者から内諾を得た。その後は実行委員会主導で会場、選手権待機所等の利用申請、地元関係者への周知・説明等を行った。

▼資材調達

本項では、大会期間中に使用した資材について簡単に報告する。

<借用備品>

大会期間中に業者等から借りた備品は主に以下の通りである。

品名	借用元	備考
仮設トイレ	太陽建機	津南店
テント	市民センター	
コーン	青山公民館、YMOE	一部購入
EMIT資材	YMOE, EMIT協会	YMOE所有を基本とし、不足分をYMOE経由でEMIT協会から借用
オンラインコントロール	的場氏	
小物	YMOE	

<購入備品>

YMOEが所有していない備品について、ホームセンターやamazon, モノタロウにて購入した。

<管理方法>

各パートチーフにスプレッドシートを公開し、必要な備品を記入してもらった。その後誰を調達担当にするか、備品パート側で確定させ、会場に備品が搬入されるまで調達状況を管理した。

▼反省点と提言

各パートのみで使用する備品の調達は各パートチーフに担当してもらい、パートチーフのイメージするものが購入することができた。(すべて備品パートで担当するとパートチーフとの認識の相違やイメージするモノをすり合わせるコミュニケーションコストがかかるため。)

Eカードの必要個数についてはシートに記入してあった数字を信用し発注したが、2週間準備で数が足りないことが発覚した。エントリー変更も多くあり、エントリー担当や計セン担当と情報を綿密にすり合わせる必要があった。

大会当日も備品の購入や返却資材の整理等の業務が発生するので、備品パートのうち1人は当日パートの業務にわりあてず、それらの業務の工数を事前に確保してもらえるとよい。

4.3 活動実績（競技）

▼競技地図の作成

以下に本大会の地図作成のスケジュールを示す。本大会においては、地図作成業務はヤマカワオーエンタープライズ（以下、YMOE）に発注し、現地調査・作図は西村氏（NishiPro）に、地図調製、地図印刷、一部シーリングは山川氏に実施してもらった。業務の発注や進捗確認などは、メールベースで三責、イベントアドバイザー、コースプランナーに適宜共有しつつ行った。また、使用地図の大部分に関しては、前年度の段階でほぼ完成していたため、本大会では未調査範囲と修正調査が主な作業内容となった。以下に競技地図の作成行程を示す。

日時	内容	備考
7/10	地図調査の打診開始	
8/6	業務委託契約締結	
9/10	開催日程変更に伴う調査スケジュールの変更打診	
9/21	使用エリア確定	
10/6	開催日程前倒しによる業務委託契約更新	
11/26	モデルイベントエリア完成	
12/20	全エリア完成	
12/26	地図修正	
～1/22	柵解放箇所の指定	
～1/27	地図調製	
1/27	競技用地図品質確認	・印刷地図の現物を用いて実施 ・EAと副競責で実施
～1/29	競技用地図印刷	
～2/4	競技用地図封入	

<反省点>

インカレミドル・リレーにおいては、同一トレイン・同一会場においてミドルとリレーの2競技分のコースが組まれる。そこで、重複コントロールや近接コントロールの管理をスムーズにするためにも、できるだけ早い段階から競技責任者（副競技責任者）、ミドルプランナー、リレープランナーの間で全コントロール図を共有しておいた方がよかった。

また、地図ファイルについては、業者はOCADの最新バージョンで作業を行うため、OCAD9などの古いバージョンを使用している場合、地図ファイルが開けないことがあった。また、下絵地図が調査によって更新されていく際にも、コースと下絵を合わせる作業が非常に煩雑になるので、少なくとも、競技責任者とプランナー2人は最新バージョンもしくはそれに準ずるOCADを利用したほうが良かった。また、最新のOCADはサブスクリプションになっており費用がかさむため、会計とも要相談である。

▼コースの設定

以下に本大会のコース設定のスケジュールを示す。試走会ごとに実施する内容を事前に決めておき、運営責任者の作成したガントチャートにおける締め切りを念頭に置きつつ、両プランナーにコース設定をお願いした。

<反省点>

試走会の反省としては、今年度新規加入した役員の大部分を参加させられなかった点がある。11月以降は新型コロナウイルスの影響は少なかったものの、他のイベントや運営との兼ね合い、2月開催により全行程が前倒しになったこともあり開催日程が限定され、大部分の責任者・パートチーフが参加不可能な日程で試走会を実施せざるを得なかった。これらの役職の仕事については、現地の情報が必要不可欠であるため、大会直近の準備に負担を強い結果となってしまった。

日時	イベント	内容
9/21	第1回試走会	・前年度のミドル選手権コースの試走 ならびに使用エリアの検討
11/3	第2回試走会	・前年度のリレー選手権&一般コース の試走 ・ミドル一般コースの試走 ・ミドル選手権女子コース試走ならび にコース設定の方針決定
11/20, 21	第3回試走会	・リレー選手権&一般コース試走 造成道の伸長が判明、作業終了予定の 12月末まで経過観察する方針とした。
12/5	第4回試走会 モデルイベント試走	・ミドル選手権コース確定&優勝設定 時間確定
12/19	第5回試走会	・リレー選手権コース確定&優勝設定 時間確定
12/26	現地確認	・造成道の経過観察 さらに新たな伐採範囲の判明により大 会当日の範囲明示方法を検討した。
~1/22	コース・コントロール位置最終調整 柵解放箇所の指定	・全コース最終確定

▼テクニカルミーティング

ミドル競技部門のテクニカルミーティングについては、例年は競技前日の開会式で開催されていたが、開会式をオンライン形式に決定したことにより、モデルイベント終了後、引き続きモデルイベント会場で実施する方針としていた。しかし、新型コロナウイルスオミクロン株の急速な感染拡大の影響を受け、モデルイベント参加者が例年に比べて非常に少なくなることが予測されたため、代替案を検討した。

- ・運営宿にてオンラインで配信する
- ・Googleフォームによるアンケート形式とする

以上の2案が候補となったが、運営宿の電波状況の不確実性や、オンラインでの質問のやりとりの困難さを考慮して、質問受付時間に制限を設けたGoogleフォームによるアンケート形式を採用した。

▼安全対策

・川の横断

ミドル選手権クラスにおいて、トレイン北部から南部へ移動する際に幅4 m程度の川を渡る必要があり、季節や天候によっては膝上程度の水量になる可能性も考えられた。川を渡る際に靴や衣服に吸収された水量によっては、季節柄低体温症になる恐れもあったため、選手に安全に川を横断してもらう方法を検討した。案としては、金属製の板を敷いて橋にする、ブロックを並べて飛び石状にするなどが挙げられ、運搬や設置、使用後の廃棄コストや横断時の安全面の観点から、テープ誘導でルートを限定しつつ、飛び石で対処する方針に決定した。結果として、大会当日周辺は川の水量も少なく、飛び石を設置するまでには至らなかったものの、選手の安全面に配慮したコース・現地設定であったと考えられる。

・車両の通行

トレインが里山である関係上、会場周辺を通行する一般車両が試走時から確認された。交通量は多くないもののスピードを出す車両が見受けられることや、誘導中の急カーブでの接触の危険性も考えられたため、選手の通行する道幅の広い道路や交差点、会場である神村学園の入口部分に交通整備員として役員に立ってもらい、大会の事情を説明しつつ、停車や迂回を運転手をお願いした。役員の配置については、渉外責任者のアドバイスを受けて、必要最小限の人数で配置できるよう最適化した。

▼地図関係

・地図調整

ここでいう地図調整とは、下絵地図へのコース等の入力作業全般を指しており、具体的な作業内容としては

- ・コース記号入力
- ・一部コース記号の編集（コントロール円・レグ線切除、コード場所変更等）
- ・コース以外の情報の追加（トレイン名題字、緊急連絡先、枠等々）

等が挙げられる。

今大会では、これらの作業は一括して YMOE に依頼した。

・地図印刷

インカレでは、主催者である日本学連と YMOE の間に「委託管理契約」が結ばれているようであり、地図印刷に関しては例年 YMOE に印刷を依頼している。今回も同様に YMOE に印刷を依頼したが、地図納品が予定納期より遅れることや、現物の色味が一部 ISOM2017 に準拠していない部分があるといった問題が発生した。対策として、前者は実行委員会側からなるべく早く地図、コースを完成させ依頼すること、および後者に対しては、本格印刷開始前には現物確認を行うことで防ぐことができると考える。

特に地図の色味については印刷前にオデッセイ上で電子データのやり取りを行っていたが、色味の違和感に気づくことができなかったため、紙の地図を事前確認してから印刷にかけることが重要である。

・地図封入

今大会では、YMOE 側で封入するものと、実行委員会側で封入する地図を区分けした。

ミドル一般・併設＞ YMOE

ミドル選手権、リレー選手権、リレー一般・併設＞ 実行委員会

選手権に関しては品質を担保するため、およびリレーに関しては裏紙を封入する必要があるため、実行委員会側での封入とした。一部を業者に委託するだけでも、準備の手間がかなり減り、現地確認やその他業務に時間を当てることができたと考えており、今後も業者に委託できる部分に関しては委託を推奨する。

▼競技成立に向けて

・伐採対応

当初、テレイン内での伐採作業については大会開催1か月前に渉外を通じて停止してもらう予定であったものの、繁忙期かつ作業の遅れから大会当日以外は伐採作業を行うことが12/26の現地確認中に判明した。また、伐採作業の明確な範囲については渉外を通じても情報入手が困難であったことから、大会1週間前とモデルイベント当日にテレイン内を調査し、伐採該当範囲を白地図に示す方針とした。それぞれの掲示のタイミングとしては、

- ・ミドルはスタート枠内（選手権、一般ともに2分前枠）
- ・リレーはリレー代表者ミーティング以降

とした。リレーの範囲掲示タイミングについては、選手権クラスにおけるルートチョイスへの影響と、当日掲示では、出走まで時間が少ない1走選手に不公平が生じる可能性を加味した。白地図の掲示については、公平性担保のために、前日に使用したエリアの白地図を公開した2021年度全日本選手権大会の事例を参考にした。また、大会当日直前にイベントアドバイザーの承認により伐採範囲を掲示することについては、インカレロング2021の事例も参考にしている。今回はあくまで緊急対応であったものの、当日使用する地図を予め知ってしまう競技性低下よりも、地図に記載の無い現地変化による公平性低下を天秤にかけ、より良い選択ができたと考えられる。また、後述の演出の項でも述べるが、使用地図公開により公平性が担保されるならば、今後演出の幅が広がることも期待される。

・演出

ミドル・リレー競技部門については2018年度以降インカレが開催されていないため、GPSやテレイン内中継を用いた実況・配信については競技部門初の試みとなった（GPS配信と現地実況は2018年度インカレミドル・リレーでも行われた）。ミドル・リレー競技部門では、両競技が同一テレイン、地図で開催される性質上、公平性の担保のため、演出内容に差をつける必要があった。具体的な実施内容は以下のとおり。

＜ミドル競技部門＞・テレイン内中継

- ・実況配信

＜リレー競技部門＞・GPSトラッキング

- ・テレイン内中継
- ・巨大スクリーンによる上記内容の映像投影
- ・実況配信

ミドル競技部門においてGPSトラッキングを実施しなかった理由としては、翌日のリレー競技部門でも使用する地図やテレイン情報を必要以上に与えないためである。しかし、より公平性を重視するならばミドル競技において選手権クラスと一般クラスで使用範囲が異なった場合、使用した全範囲を含めた白地図を公開したほうがよいかもしれない。これにより、ミドルのGPSトラッキングも可能となりうる。もっとも、事前に地図が公開されることによる競技性の低下と演出のどちらに比重を置くかも議論の余地がある。両日ともGPSトラッキングを実施し、かつ競技性も落とさないためには、

- ・同一会場のテレインにおいてミドル・リレーで全く異なる範囲を使用する
- ・ミドルとリレーでテレインを変える

の2つが手段として考えられる。ただし、前者は実施可能なテレインが限られ、後者は宿泊輸送等も加味すると運営の負担が非常に重くなることが考えられる。実況の進化とともに、運営形態についても今一度議論の必要があるだろう。

また、実況内容については、インカレ実施規則第28条8項沿って、演出によってやむを得ず競技中の選手に伝わる可能性のある情報の線引きを実行委員会で行い、イベントアドバイザーの承認を得た。詳細な内容を以下に記載する。

コースに関する情報：コースの大まかな流れや地図上の使用範囲、各レグのルートの良い悪い、全選手のルートチョイス

タイムに関する情報：全選手のタイム、想定される区間タイム

上記のように定義する。

ミドル競技において、

- (1)競技開始前の競技者に対して、コース及びタイムに関する情報を与えてはならない。
- (2)競技中の競技者に対して、既に通過済の区間についてのコース及びタイムに関する情報・順位が伝わることもある。
- (3)競技中の競技者に対して、まだ通過していない区間についてのコース及びタイムに関する情報を与えてはならない。

リレー競技において、

- (1)競技開始前及び競技中の競技者に対して、コースに関する情報を与えてはならない。
- (2)競技開始前及び競技中の競技者に対して、タイムに関する情報が伝わることもある。

演出パートと実況担当者には、上記の方針に従って、実況内容を精査するようにお願いした。

▼当日の競技に関する対応・提言

・ウイニングラン

リレー選手権の部 WERクラスにおいて、優勝校である横浜市立大学と2位の椙山女学園大学のタイム差が5秒であった。一方その僅差の状況において横浜市立大学に対して、運営としてウイニングランの許可を出したことに對し、調査依頼が椙山女学園大学オフィシャルより提出された。

運営者としては、十分な時間差があると判断したため、ウイニングランを許可したが参加者にとっては疑義が残る結果となってしまったことは否定できない。

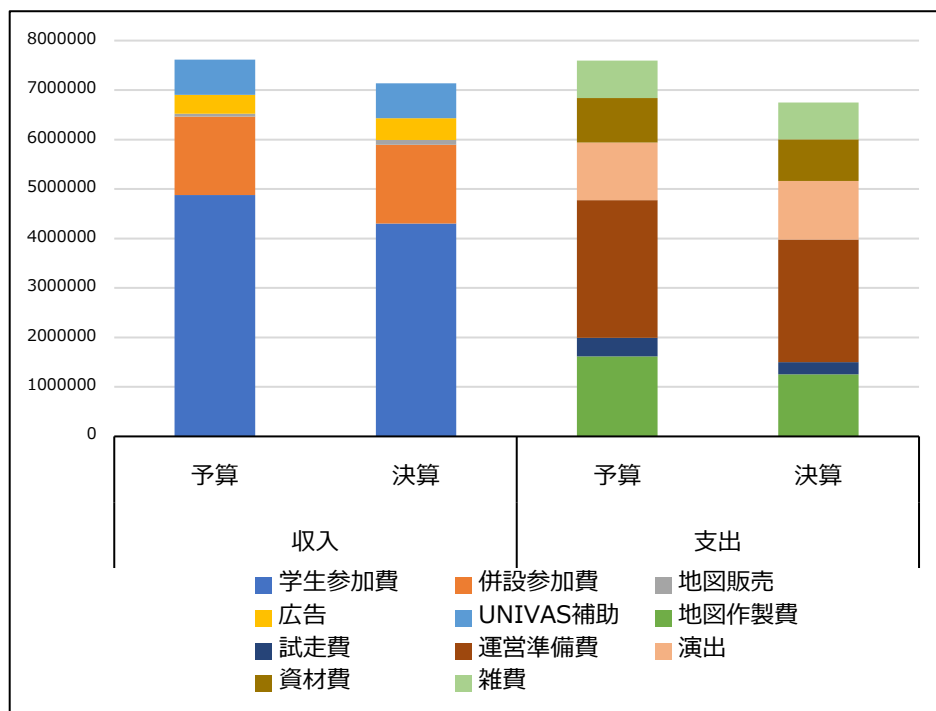
よって、今後このような事態を再発しないためには以下2点について注意することが重要と考える。1点目は事前にウイニングランを許可するための基準を決めることである。今大会では、ウイニングラン申請を受けてからの対応となったため、対応が後手後手に回ってしまったことが否めない。また、今大会のレイアウトでは、ラストコントロールからフィニッシュまでの間に柵があり、運営者がフィニッシュに向かってくるランナーの姿を途中で目視できないレイアウトであった。視認性の悪いレイアウトの場合に優勝校が競っている場合は、どの程度ランナー同士の距離があればウイニングランを許可する、という基準を事前に設けておくことが望ましい。2点目は、運営者（特に競技責任者）はGPS等による中継を確認し、状況を把握しておくことである。近年インカレリレーでは実況中継に力を入れており、有力校にはGPSトラッキングを行うケースが多い。よってその情報を逐次仕入れておくことでウイニングランの許可判断も容易になると考える。

4.4 会計

本項では、本大会における会計状況について簡潔に報告する。

▼決算概要

2022年3月末での決算では、約35万円の黒字が見込まれている。内訳は添付グラフを参照されたい。なお、宿泊輸送費は日本旅行の設定額をそのまま徴収、返金しているため本グラフから除いている。



▼予算案の策定

本大会の予算策定において、例年と異なる部分は下記であった。

① 昨年度インカレミドルリレーと同テレインでの実施

昨年中止となったインカレと同じテレインでの実施であったため、例年よりも地図調査費用の削減が見込まれた。昨年の会計では約180万円を計上していたが、今年是一部追加調査による約50万円で抑えられていた。

② 補助金の活用

インカレスプリント・ロングと同様、本大会の演出（配信）関係費用については、スポーツ庁が実施する「ポストコロナに向け た全国規模のスポーツイベント等の開催支援事業」に対し、日本学連を通して UNIVASから補助金申請を行った。当該申請は承認され、配信関係費用の50%の補助金を受けることとなった。

上記を踏まえ、昨年の赤字分を本大会で補填できるような会計になることを理想とし、予算を策定した。

▼収入詳細

予算策定の段階では、学生は550人ほどの参加を見込んでいた。これはインカレロングスプリントの実績をもとに算出をした。実際の申し込み時点でもほぼ予算通りの申し込み人数であった。

一方で、年始からの新型コロナウイルス感染拡大による大学の規制強化に伴い、実際の参加者は150人ほど減って約400人となった。仮に当初の申し込み通り学生が参加可能であれば、去年のインカレの赤字をほぼ補填することが出来ていた。

一般併設大会参加者については、2018年度インカレミドルリレー（望郷の森）の参加者数を参考に、その7割程度の参加者を見込んで設定した。こちらもほぼ予算通りの参加者数であった。

▼支出詳細

策定した予算をもとに試走や運営費の管理を行った。実際の支出をある程度把握し、予算と乖離が生まれないように努めた。「▼予算案の策定」でも触れたが、地図作製費が予算策定時よりも減少したこと、試走費の見積もりに少し余裕を持っていたことから、予算よりも圧縮される形となった。結果として参加者減による収入の低下を補い、黒字運営にすることが出来た。

近年のインカレでは配信の実施により、演出に以前よりも費用がかかるようになってきている。本大会もスポーツ庁からの補助を受けることで費用負担を減らすことが出来たが、補助がなかった場合、大会会計は赤字であった。今後継続的にインカレの配信を続けていくためには、補助金に頼らないような仕組みづくりを検討していく必要があると考える。

▼総括

昨年度のインカレの赤字を補填するほどではなかったが、黒字運営とすることが出来た。新型コロナウイルスという不確定要素がある中では及第点であったと考える。

5

新型コロナウイルス感染症対策について

5.1 基本方針

開催判断フローについては初期から日本学連とも議論し、「自治体（三重県および伊賀市）からの中止要請が行われているかどうか」を開催基準とした。自治体からの要請事項は基本的にすべて対応する方針で対策を検討。主に三重県の「イベント開催基準」に従った対策をとった。

5.2 事前準備

▼ガイドラインの作成

渉外資料提出先及び参加者への周知を目的として、「日本学生オリエンテーリング選手権大会ミドル・ディスタンス、リレー競技部門開催における新型コロナウイルス感染防止対策ガイドライン」を作成した。インカレミドルリレー2020、インカレロング2021のガイドラインを踏襲し、自治体の要請や社会情勢に即するよう一部修正を加えたものとした。

大会準備の期間中に濃厚接触者の期間の短縮など求められる対応に変化があったため、適宜ガイドラインを修正した。

▼運営スタッフの感染予防策

大会2週間前から大会1週間後までの体調記録を義務付けた。マスク着用等基本的な感染防止対策を徹底し、ガイドラインに則った行動に努めた。

▼参加者対応

大会参加者およびチームオフィシャルに対し、大会2週間前から大会1週間後までの体調記録を義務付けた。また、自治体から発行された指針に則り、大会当日までに「2回目のワクチン接種から14日以上経過」もしくは、大会参加前の「PCR検査または抗原抗体検査結果が陰性であること」を必須とした。

▼大会期間中の感染者への対応検討

大会期間中に新型コロナウイルス感染が疑われる者が参加者及び運営スタッフの中から出た場合の対応について検討した。また、必要時に連携がとれるよう、保健所へ事前に大会開催について連絡を入れておいた。

▼UNIVASとの連携

消毒用アルコール等の感染防止対策資材をUNIVASから提供いただいた。

5.3 大会期間中の対応

マスクの着用、こまめな手指のアルコール消毒など、基本的な感染予防対策を呼びかけるとともに、参加者の宿泊は全員1人部屋とするなど、可能な限り密な環境を作らない対策を取った。

新型コロナウイルス感染が疑われる者が出た場合に対応できるよう、コロナ対策担当が本部待機しておいた。幸い、大会期間中に感染が疑われる体調不良者の連絡はなかった。

5.4 大会後の対応

万一、大会後2週間以内に参加者または運営スタッフから感染者が発生した場合は、大会連絡先へ連絡をすることとした。感染についての連絡があった場合は、必要に応じ保健所、宿泊施設等へ相談する予定としていた。

5.5 将来への提言

今後も新型コロナウイルス感染症をとりまく状況は変化していくため、インカレごとにガイドラインの見直しを図り、状況に合った感染対策をしていく必要があると思われる。

6 ライブ配信報告

6.1 経緯

本大会にてライブ配信を実施した主目的は、コロナ禍という状況下で現地に来ることが難しい大学クラブOBOGおよび学生に対して、リアルタイムで観戦出来る場を提供することであった。併せて、カメラ映像やGPS中継を用いた実況・解説といった配信ならではの演出で会場を盛り上げるために、大型ディスプレイによる会場配信も実施した。

なお「ライブ配信」は、YouTubeを通しての「ネット配信」、及び会場ディスプレイ/スピーカーを通しての「会場配信」の両方を含む言葉として用いる。

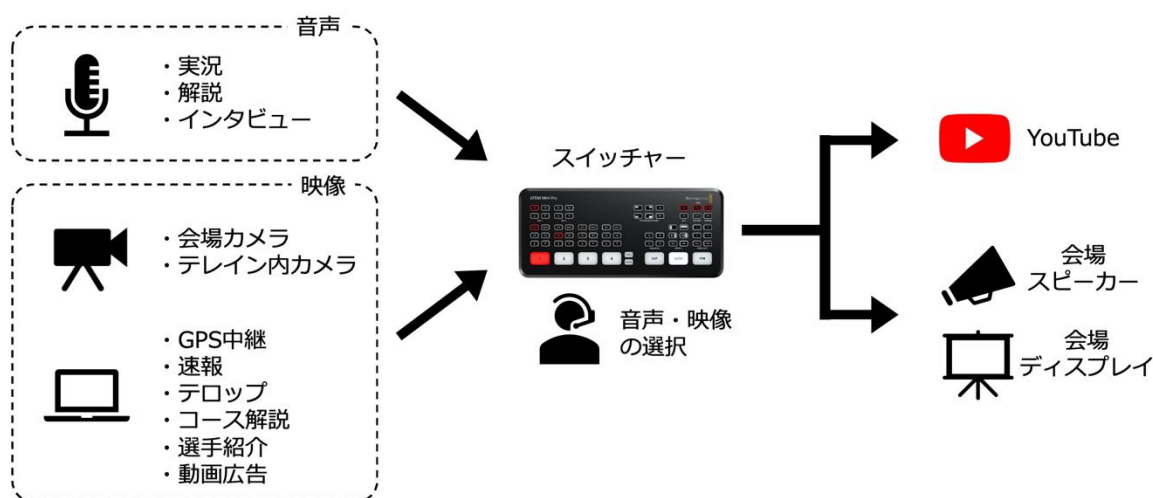
6.2 概要

ライブ配信の概要を図-1に示す。カメラやGPSトラッキングの映像と実況等の音声から、より効果的演出となるよう選択・組合せを行い、YouTubeおよび会場ディスプレイ/スピーカーを通して配信した。基本的にネット配信と会場配信の音声・映像は同様のものとした。なお、ライブ配信のアーカイブは下記URLから視聴出来る。

ミドル : <https://youtu.be/jKUJdMix-Sc>

リレー : <https://youtu.be/SLQXYm9oWMY>

図-1 ライブ配信の概要



6.3 事前準備

ライブ配信は演出パート所掌とし、準備・運用を行なった。表-1に演出およびライブ配信に関する事前準備の実績スケジュールを示す。表-1に示すように、大会半年前から演出・配信内容の方針を検討し始め、大会2ヶ月前～本番までの期間で詳細内容を作成するスケジュールとなった。本大会は坂野山遊地図企画にライブ配信事業の監督業務を外注し、全体管理・機材調達・当日運用は全面的に坂野氏に一任していたが、各コンテンツの内容については坂野氏を含め、実行委員会内で準備を行なった。ただし、GPSサイトの準備運用は林氏に外注している。

表-1 演出・配信の事前準備スケジュール(実績)

月	6	7	8	9	10	11	12	1	2
人員		演出初期人員 坂野				北川	実況 当日人員 UNIVAS 小柴		
予算		暫定予算				補助金確定	収入確定		
資材							資材大枠 確定 ↓ 発注		
内容			演出方針 検討	演出内容 検討			演出内容確定 ↓ 実況解説準備 ↓ GPSサイト準備 ↓ 配信素材準備 ↓ 配信タイムライン作成 ↓ 演出レイアウト 確定		大会本番
イベント					全日本ミドル・ロング 秋インカレ		2週間前準備 ↓ 1週間前準備		

▼UNIVAS/CTVの協力について

ICSL2021と同様にUNIVAS経由でCTV(中京テレビ)様にご協力いただいた。本番2日間は5名のスタッフ(3名カメラ、2名配信拠点)に運営へ参加いただいた他、2週間前準備では現地でカメラや配信拠点のレイアウトを共に検討した。また、機材に関してもカメラ、スイッチャー、ケーブル等、多くの配信機材を提供いただいた。

なお、UNIVASとの連絡は主に谷野氏を通して行い、CTVとの連絡・調整は坂野・北川が行なった。

UNIVASサイト上においても運営委員会が実施したライブ配信と同様の配信が行われ、見逃し配信は下記URLから視聴できる。

ミドル : <https://www.univas.jp/article/214922/>

リレー : <https://www.univas.jp/article/215034/>



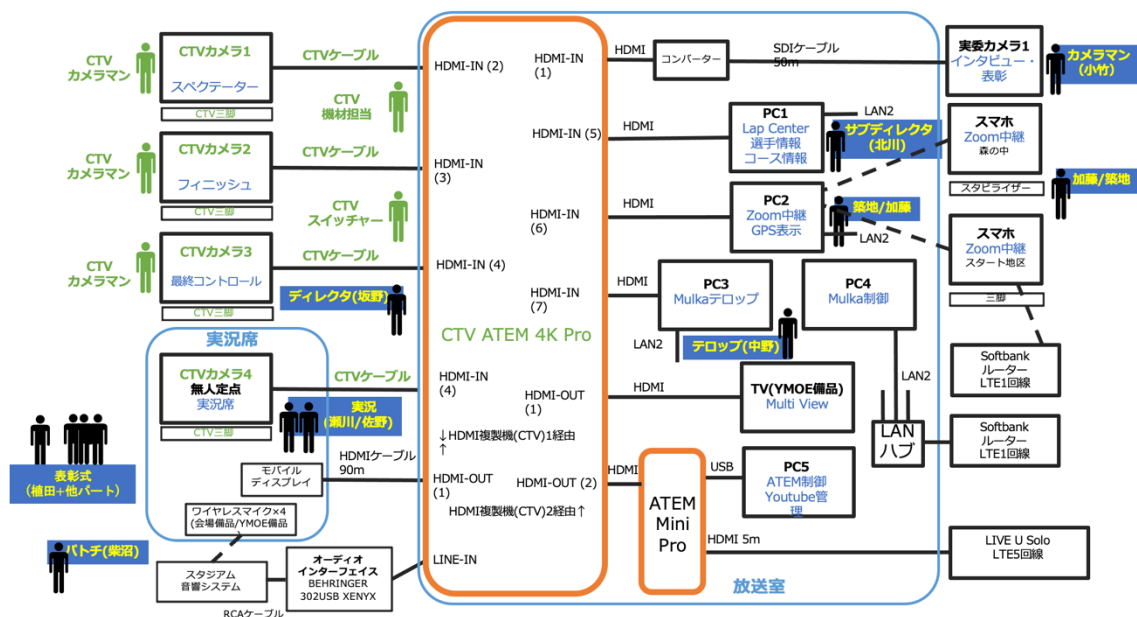
6.4

実施した演出・配信コンテンツを表-2に示す。本大会ではミドルとリレーで利用するテレインエリアが被っているため、1日目のミドルでは地図画像を用いるGPS中継とコース解説は実施することが出来なかった。ミドルで大型ディスプレイを使用しなかった理由としても、予算的負担に加え、前述の制限による映像コンテンツの乏しさが影響している。なお、リレーにおいても競技情報が待機所内の選手に伝わらないよう細心の注意を払って、コンテンツを準備・実施した。

表-2 演出・配信コンテンツ

コンテンツ	場所	ミドル	リレー
ライブ配信	YouTube	○	○
会場配信	大型ディスプレイ	×	○
ライブカメラ(会場)	配信	○	○
ライブカメラ(山中)	配信	○ スタート	○ レース後半
選手紹介	配信	○	○
GPS	Web/配信	×	○
中間速報	Web/配信	○	○
実況	会場/配信	○	○
コース解説	会場/配信	×	○
インタビュー	会場/配信	○	○
表彰	会場/配信	○	○
観戦ガイド(紙)	会場	○	○
速報ボード	会場	○	○

図-2 配信機材・人員レイアウト



6.5 会計

配信費用は約120万円となった。このうち1/2はスポーツ庁の「ポストコロナに向けた全国規模のスポーツイベント等の開催支援事業」による補助金が充てられるため、実行委員会の実質負担額は約60万円であった。

6.6 将来への提言

本大会でのライブ配信は、3年ぶりのミドルリレー競技、特に初のリレー競技本格配信ということで個人競技には無い演出配信の大変さ、見どころの再定義などの発展があった。このような経験の中で得た学び・反省点を将来への提言として以下に記す。

▼当日運用

- ・配信チーフ(坂野氏)が現地事前準備直前に新型コロナウイルスに感染し、レイアウト構築や機材想定に遅れが生じた。また当日は、UNIVASチーフの家庭内濃厚接触者判定によってスタッフの配置転換があるなど混乱が見られた。このような事態においても、人員に余裕を設ける、役職にバックアップ体制を取る、情報の共有を密に行うことなどで乗り切ることができた。このようなBCP対応は不可欠であると感じる。
- ・計算センターの電波環境が脆弱で、計測については十分でも、配信ではテロップが出せない等の不都合が多くあった。演出配信は運営者内での理解が浅いパートなので、他パートとの連携を密に取って理解を得なければならない。
- ・配信実施時は各持ち場とも常に緊張状態にあり、参加者・観客に寄り添った目線を忘れがちになる。会場スピーカー調整の不備もその現れであった。特に演出パートチーフはいずれかの持ち場に深入りせずに、全体の動きの把握と参加者視点からのチェックを頻繁に行うべきである。

▼機材

- ・ケーブル配線や機材の想定不足で会場音声のスピーカー接続手動オンオフを行うのは操作ミスや感電のリスクがあり、改善したい。
- ・会場設備の確認不足により想定より音響関係の機材能力が低く、配信に雑音が乗る、スピーカーやマイクの運用に制限が出た。現地設備はなるべく当日に近い運用方法での練習を行うべきである。

▼UNIVASとの連携

- ・UNIVASとの映像配信協力はこれまで以上に密接に連携を行った。機材の提供やスタッフの協業によってより良い映像環境となった。今後もこのような協業関係を続けていきたい。
- ・UNIVASの映像配信スタッフとはお互いの機材や人員が何をどこまで対応可能かの把握が難しく、高効率とはいえなかった。UNIVAS側のクルーは若干のメンバー交代もしながら基本的に同じ方々が毎年来ているので今後はさらに歩調を合わせていくことが可能。

▼組織

- ・演出パートの仕事が以前より膨大で多種多様となっており、今後は統括が難しくなる可能性が高い。演出パート所掌の運用として、GPS運用、大型ディスプレイ、配信、音響、スイッチング、実況、結果速報、表彰を一つのパートの中で行っていた。今後はパートの分割や統合(会場班、資材担当者等)によってパートの動きを取りやすくしないと、トラブルが起きた際に十分な対応が出来ない恐れがある。

7 イベント・アドバイザー報告

イベント・アドバイザー 木俣 順

7.1 はじめに

まず、コロナ禍のため残念ながら本大会に参加できなかった学生諸君に対し心を寄せるとともに、困難な状況の中、3年ぶりの春インカレ開催に尽力された全ての方々に敬意を表したい。

2020年度春インカレのイベント・アドバイザーに就任した際にはまさか本稿を2度執筆することになるとは想像もしていなかったが、以下に日本学生オリエンテーリング選手権実施規則(以下「実施規則」)第12条の規定により、実施規則第32条4.に定められているイベント・アドバイザーの任務の遂行結果について報告する。

7.2 業務報告

▼運営組織、人事、会計及び競技運営全般の確認

前年度実行委員会から三責クラスが総入れ替えとなった。この交代は日本学連・技術委員会等にとっては意外だったかも知れないが、準備してきた大会が開催できないということは運営者にとって相当のダメージであることを認識していただければ幸いである。

今年度の実行委員会については、リーダーシップのある実行委員長、緻密に準備を進める競技責任者、全体把握能力が高い運営責任者、そして急遽就任した副競技責任者のもと、自律的に判断・行動できる運営者から構成され、十二分な運営組織・人事であったと言える。

運営組織面で特筆すべき点はやはりコロナ対応である。感染拡大第6波への対応として三重県にまん延防止等重点措置が出される前日の2022年1月18日に実行委員長に対して“感染・濃厚接触者により運営者が大幅減員になった場合の運営体制（BCP：Business Continuity Plan、事業継続計画）”の検討について要請した。その結果、減員パート員の補充方針(①追加募集→②前走高校生の運営参加→③非競技系パート(演出等)の規模縮小によるスタート・フィニッシュ・計センへの人員シフト)やパートチーフ離脱に備えた全パートへのサブチーフ設置、非常に厳しい場合の本部要員のパート参加や併設参加者の運営参加招聘が決定された。また、パート全減を避けるため事前準備の配車や宿舍部屋割りを工夫するなど実行委員会内の感染防止にも留意されていた。そこまでしてもやはり変異株の感染力は凄まじく実行委員にも陽性者が発生したが自費検査等でリスクを切り分けて対応した。このような工夫のもと、春インカレの開催に漕ぎ着けた実行委員会の皆さんには改めて敬意を表したいし、大会終了までの期間は相当の緊張感であったと思う。

会計については、会計責任者により適切に管理されていたことを確認した。

競技運営全般は、事前準備については運営slackでのやりとりを通じて確認し、大会期間中は責任者・チーフからの報告により確認すると共に、全体朝礼等で指示・確認した。

▼要項等発行物確認

表に示す①～⑧の発行に際して事前に記載内容について確認し必要な修正を求めた。

実施規則第5条では要項1は6ヶ月前(2月上旬開催の場合、8月上旬)までに発行することになっているが、日本学連における前倒し開催の正式決定がまだであったため、①のように10月7日に要項2(実施規則上4ヶ月前(10月上旬)までに発行)と合わせての発行となったことについてイベント・アドバイザーとして承認した。その後、要項2については大会開催判断基準や参加申込方法が固まったことによる要項2.1(②)、地区学連枠やキャンセル負担金が固まったことによる要項2.2(③)の2回の改訂版の発行についてもコロナ禍の例外対応として承認した。要項3については競技上の都合による変更を反映した要項3.1(⑤)の発行を承認した。

要項3.1の発行に合わせ副競技責任者が作成したテクニカルミーティング資料についても内容を確認、事前公開（⑤）を承認し、質問事項に対して副競技責任者が作成した回答も確認、公開（⑥）について承認した。ミドル選手権スタートリストについては事前にイベント・アドバイザー立ち会いの下、抽選により作成していたが、コロナに伴う直前の選手交代に対応して2月4日に一部再抽選に立ち会い、修正されたスタートリストの公開（⑦）を承認した。また合わせてミドル競技の代表者ミーティング資料、質問回答についても内容を確認し公開（⑦）を承認した。同様にリレー競技代表者ミーティング資料についても内容を確認し公開（⑧）を承認した。

①要項1・要項2	2021年10月7日発行
②要項2.1	2021年11月23日発行
③要項2.2	2021年12月6日発行
④要項3	2022年1月21日発行
⑤要項3.1・テクニカルミーティング資料	2022年1月29日発行
⑥テクニカルミーティング質問回答	2022年2月3日発行
⑦ミドル選手権スタートリスト・代表者ミーティング資料・代表者ミーティング質問回答	2022年2月4日発行
⑧リレー競技代表者ミーティング資料	2022年2月5日発行

▼会場、トレインの適格性確認

前年度予定していたトレインと会場を利用することとなったため、適格性は基本的に前年度の試走等により現地確認済みであった。

トレインについて、走行可能度面で関西でも良質な部類に入り、比高や地形的にもインカレ開催に十分なトレインである。防疫上接近を避けるべき施設がトレイン内にあり、害獣対策の柵が山塊を包み若干使い勝手が良くない点もあったため、実行委員会からトレインを拡張したいという提案があり承認した。会場についてはトレイン上、他の選択肢はない。レイアウトは難しいものの電源や設備面では充実している良会場である。雨天の場合は問題が生じた可能性もある。

本確認は実施規則に定められてはいるものの、インカレ開催手続き上、実行委員会やイベント・アドバイザーが適格性を評価してトレインの変更を行うことは事実上困難であり、実質的な意味合いが薄い確認事項であると思う。

▼スケジュール全体の確認

スケジュール全体（宿泊、食事、輸送、日程、費用、トレーニングの機会）については、運営slack上における検討状況を確認するとともに競技責任者、運営責任者にスケジュール表やタイムテーブルの作成を求め確認した。

春インカレ固有の対応である宿泊については、コロナ禍における感染防止の観点から宿泊者全員をシングルルーム収容とするとともに感染防止の観点からの不泊を認めるという異例の対応について承認した。これまでの大規模宿泊施設中心の宿泊手配からビジネスホテル等の手配に形態が大幅に変更になったが、これに対して柔軟かつ適切に対応していただいた委託先には感謝を申し上げたい。この手配自体が参加者の宿泊申込スケジュールに影響を与えた影響は小さいと考えているが、キャンセル負担金対応などについてはスケジュールの懸念事項であった。なお、実行委員会からある大学から宿舎における80人規模のミーティングの可否の打診があり、遠慮して欲しいと回答したことを了承した。

宿泊形態の関係上、食事スケジュールについては管理が困難なこととなったがこれは致し方ないと考えている。

輸送についても感染予防の観点からバス輸送と乗用車等による来場のハイブリッドとした。

委託先が作成したバス輸送のスケジュールには大きな問題がなかったと認識している。また不泊者の乗用車による来場は遠方の者にとっては若干タイトなスケジュールとなった。

準備スケジュールについて開催日が例年より1ヶ月前倒しになったものの、コースや地図等は前年度の成果が活用可能であり余裕があると思っていたものの、試走が後ろ倒しになり地図精査やコース確定が遅れ、後半タイトなスケジュールになったのは否めない。

開催期間中のスケジュールについては2月開催となったため日没時刻が早いことがコントロールポイントとなった。開会式を1週間前にしたことは妥当と考える。またコロナ対応による遠方不泊者の来場可能時刻も留意点であったが、全体として妥当なスケジュールであった。

費用については学生にとっては高額であるため、もう少し早く提示できるスケジュールが望ましいが、コロナ対応で不確実な面も多く、このスケジュールになったのは致し方ないと考えている。

トレーニングの機会について、今回もトレーニングコースは設けずモデルイベントのみ開設した。要項1（2021年10月7日発行）の段階でクローズドトレインを公表しており、トレイン研究や類似トレインでのトレーニングの機会は十分であったと言えよう。モデルイベントは感染予防の観点から利用時間に制約を設けたため、タイトなスケジュールになった大学もあったかも知れないがこれも致し方ないと考えている。

▼スタート、フィニッシュのシステムとレイアウト確認

スタート・フィニッシュの確認は運営slack上における検討状況の確認と試走・事前準備時における現地で担当者との確認により実施した。特にミドル競技のプレスタートとリレー競技のスペクテーターズとフィニッシュの交錯については念入りに確認した。

ミドル競技のスタートは2箇所にし、選手権クラスについては隔離待機所を設けた。フィニッシュは会場に設けた。Mulkaクラウドのスタートリストデータが一部おかしく若干のトラブルがあったが有能なパート員によるマニュアル対応で競技上の問題は生じなかった。

一方、会場に設けたリレー競技のスタート・フィニッシュについて、強風がレーン表示のテープ誘導等にダメージを与えると共に、選手権クラスの地図置き場も危険な状態であった。ここは反省点である。

▼計時システムの信頼性と正確性判断

計時システムについてはビデオカメラ設置により信頼性向上を図っていることを確認した。一方、前述の通りスタートリストデータがおかしくなっていたところがあり正確性の確認が十分ではなかった。

▼地図規定照合

委託先から提出された地図データを確認し、規定上疑義のある点については競技責任者・副競技責任者を通じて確認を求めた。

▼地図の正確性、作図や印刷の妥当性確認

地図の正確性については試走ごとの報告により確認し、委託先から提出された地図データを確認し、必要な修正がなされているか確認した。

当初より伐採作業が実施されておりその進捗状況が地図の正確性に影響を与えるため、渉外により進捗計画を確認したが不明であったため、大会直前の状況次第とすることとした。結果として調査後に伐採が入ったため、地図には現地の状況を反映できず、別途周知としたため、この部分に関して地図の正確性は担保されていないことに留意が必要である。

作図や印刷の妥当性については印刷された競技地図全数を目視で確認した。2022年1月27

日（木）に委託先から郵送納入された地図を確認した結果、競技には影響ない箇所について混色処理がおかしい地図の混入を発見した。再印刷・再納入を委託先に要請することも考えられたが再確認・封入の工程や再びミスがあった場合のリカバリーの時間的余裕度合いを勘案し、ミドル競技の代表者ミーティング資料で「競技地図において、一部色合いがISOM2017に準拠していない箇所があります。」と周知することとし、混色処理がおかしいもので統一したものを競技用地図として用いることとした。

このような印刷ミスが発生した要因は、委託先（競技用地図印刷担当）と再委託先（調査・作図担当）との間で混色についての認識が一致していなかったことにあった。どちらの認識もそれぞれ立脚するところがありここでは正否を論ずるつもりはないが、再委託先（下請け）をコントロール（認識統一）することは委託先（元請け）の責務であることは指摘しておきたい。

タイトな工程も印刷ミスの遠因と考えられる。もともと競技用地図は大会2週間前準備の1月22日（土）に委託先が準備会場で印刷、実行委員会に引き渡し、翌23日（日）にイベント・アドバイザーがチェックする予定であった。しかし、委託先が準備会場に地図印刷用プリンターを持ってこなかったため2週間前準備中に印刷できず委託先が帰宅後印刷、郵送納品することとなった。このことはチェック・リカバリー工程の時間的余裕を圧迫しただけでなく、準備会場でサンプル印刷を複数の目でチェックしてから本印刷という品質確保工程をご破算とした。委託先としてはコロナ禍において日本全体のオリエンテーリングを支えるために限りあるリソースで奮闘し繁忙だったようであるが適切な生産・納品体制の確保も委託先の責務であることは指摘しておきたい。また、大きな目で見ればコース・地図の確定が遅かったことも工程を圧迫した要因の1つである。これについては試走の前倒しが必要であったが、冬の植生での試走・調査が必要なことを考えるとなかなか厳しい。従前より開催期日を1ヶ月早めたことが効いている部分でもあり、今後も前倒し開催する場合には十分な留意が必要である。

▼コースの適格性確認

コースの的確性については、机上のコース検討会と現地での試走で確認した。安全性を第一として、選手権として相応しい競技性と女子選手の競技力のバラツキ（特にリレー）のバランスをチェックの視点として確認した。ミドル・リレーとも前年度と同じコースセッターであったため、ベースのコースは前年度設定コースであったが、一般の部との関係やトレインの拡張で改良したいとのことで了解した。当初は試走タイムに“インカレ補正”を考慮した難しめのコースであった。試走を重ね難易度は易化の傾向にあったが、最終試走で女性試走者から選手権としては易しすぎるとの指摘があり、少し難化させて確定とした。

結果は、ミドル（優勝設定：35分）は男子優勝者が36分52秒でほぼ設定通りだったが、女子優勝者は47分44秒で13分弱オーバー、リレー（優勝設定：男子2時間15分、女子2時間）は男子優勝校が2時間39分35秒で25分弱オーバー、女子優勝校は2時間43分9秒で43分強オーバーと出場選手の競技レベルから見て難しいコースとなった。

このような優勝設定と乖離が生じた点では結果として適格性にやや疑義が残る。乖離が生じた原因は出場選手の競技レベルの見誤りと難しい課題の設定と想定される。競技レベルについてはコロナ禍で十分な競技機会がなかったことも影響した可能性もあったと思われる。課題については獣よけの柵で囲われている山塊が多く出入り口が限定され、易化すると道走りが増えたり単調なレグが連続したりしてしまうというトレイン特性の影響もあったと思われる。

▼コントロール位置説明の適格性確認

コントロール位置説明の適格性については、イベント・アドバイザー及び他の運営者で2人1組のパーティーを組成し、コントロール設置後、全コントロールを回って現地で確認した。

その結果、いくつかのコントロールで設置位置と位置説明が整合していなかったため、修正を指示し、適格性を確保した。

▼式典の適格性確認

式典の適格性の確認は運営slack上における検討状況の確認により実施した。

開会式は感染対策の一環として競技の1週間前にリモートで開催することとした。多元中継で実施したが実行委員長挨拶の音声流れなかったことが残念であった（後でやり直した）。

表彰式・閉会式から会場完全撤収までの時間がタイトであったため、山川杯の講話の時間が取れなかった。これは2月開催による日没・バス輸送の関係上のためであり仕方ないことであったが、春インカレ継続のために尽力していただいた山川氏には大変申し訳なく思っている。

▼報道関係者、観客等に対する処遇の確認

報道関係者、観客等に対する処遇の確認は運営slack上における関連のやりとりや要項3の確認により実施した。

▼その他確認事項

演出に関しては、三責と方針について議論し、感染防止を大前提としつつ、春インカレを経験したことがない学生に可能な限り“春インカレらしさ”を伝えることが出来るようにお願いした。結果として、ウイニングランも含めて演出面でも良きインカレになったと思っている。

7.3 おわりに

インカレの競技地図作成は長らくプロが担ってきたことは周知の通りであり、近年はプロチームが担うビジョンカーやネット配信などの演出面も高度で凄いものであり、高額参加費も相まって、参加している学生の皆さんからは春インカレは“プロ運営の大会”と見えているかもしれない。

しかし、プロは運営陣のほんの一部であり、ほとんどの運営者は学生卒業して間もない院生・社会人、しかもその大半はインカレ運営が初めてのOB・OGであることは学生の皆さんにあまり知られていないのではないかと。彼らOB・OGが無償で運営に携わってくれた原動力は、インカレへの恩返しと後輩達にインカレをつなぐという想いであったと思う。そして前述のように素晴らしい運営を行ってくれたことに改めて敬意を表したい。

これからOB・OGになられる皆さんにも次代にインカレをつないでいくためにも機会があれば是非インカレの運営に参画していただければと思う。

8 将来への提言

8.1 感染症に関するBCP策定について

本大会は感染症拡大状況下の開催ということで、

- ・ 所属組織からの行動制限に伴う運営者減員
- ・ 事前準備での集団感染による運営者大幅減員
- ・ 大会期間中の感染者発覚

などのリスクがあり、これらに対する対応方針を事前に策定した。具体的には、

- ・ 追加運営者の選定
- ・ 全パートのサブチーフの決定
- ・ 有症状発生の報告を受けた場合の対応フロー・マニュアルの策定

などを行った。実際に大会2日前に新型コロナウイルス感染が発覚したパートチーフが1名いたが、運営者の補充・チーフの交代・濃厚接触疑い者の検査をスムーズに行ったことで大きな問題とはならなかった。

今後も直前に発生しうる感染症関連リスクについて、具体的な方針を策定しておくことが望ましい。

8.2 宿泊原則の例外（感染症対策）について

例年インカレミドル・リレーでは大会期間中、実行委員会で指定した施設への宿泊を原則としている。しかし、2020年度大会では感染症対策として宿泊施設での接触を減らすため、実家や下宿等から日帰り可能な場合は宿泊しなくてもよい、としていた。本大会でもこの例外ルールを踏襲し、結果として、近隣の学校の参加者を中心に日帰り参加が多く出た。

この宿泊原則の例外により、宿泊輸送でのイレギュラーが発生したり、日帰りが不可能な学生との不公平感が出たりといった「副作用」があった。なお、本大会では別の感染症対策として、「実行委員会で指定する施設はすべてシングルで部屋を確保する」としていたため、宿泊原則に例外を設けたことの感染症対策としての効果もあり無かったと考えられる。

次年度以降のインカレミドル・リレーの宿泊においても多かれ少なかれ感染症対策を行うことになるだろうが、宿泊原則の例外については再考して良いように思われる。また、宿泊に限らずイレギュラーとして例外を設ける場合には、それによる「副作用」が無いかや、他の施策と整合性が取れているかを十分に検討するべきである。

8.3 実行委員会への問合せについて

実行委員会へ問合せをする際の宛先として「大会全般に関する問合せ」「エントリーに関する問合せ」の2つに分けて運用していたが、本来とは逆の問合せ先や、そもそも上記2つとは別のアドレスに問合せが来ることが少なからずあった。また、感染症によるイレギュラーが多い中で膨大なメールへの対応が必要となり、実行委員会側の不備も何件か出てしまった。

上記の問題への対応策として、たとえば問合せ方法をGoogleフォームに一本化することが挙げられる。問合せのジャンルをまず選ぶよう質問を設定することによってジャンルによって通知先を変更することが可能であるし、スプレッドシートによる問合せの台帳管理も容易にできる。

9

スタートリスト (選手権の部)

ミドル・ディスタンス競技部門 選手権の部のスタートリストは以下の通り。なお、黄色の欄はシード選手を示す。

ME (1/2) 参加人数60			
スタート時刻	氏名	学校・登録年数	e-card番号
12:30	大野 陽広	岩手大学4	255873
12:31	伊地知 淳	千葉大学4	513235
12:32	堂垂 悠人	北海道大学3	258995
12:33	藤澤 達也	東京大学3	251150
12:34	入江 龍成	早稲田大学3	510500
12:35	美濃部 駿	横浜市立大学1	512367
12:36	浴本 悠貴	神戸大学3	510599
12:37	小森 直人	芝浦工業大学3	251154
12:38	森 倭渡	北海道大学4	506499
12:39	小林 尚暉	東京大学4	255881
12:40	鈴木 遼賀	岩手大学3	251267
12:41	永山 遼真	筑波大学3	506122
12:42	末満 寛太	北海道大学3	258996
12:43	竹下 晴山	茨城大学4	506230
12:44	和田 佳丈	静岡大学4	505257
12:45	原 万尋	京都大学3	258989
12:46	折橋 旺	東京大学1	257856
12:47	森 恒大	筑波大学4	246275
12:48	箕浦 皓	京都大学4	258998
12:49	相馬 哲兵	東京大学3	251117
12:50	小俣 敦宏	名古屋工業大学4	507390
12:51	名雪 青葉	筑波大学4	258986
12:52	牧島 滉平	広島大学3	518372
12:53	鈴木 琢也	横浜国立大学4	512365
12:54	丸山 悠人	北海道大学1	258999
12:55	石田 倫啓	京都大学4	245712
12:56	伊藤 高真	東京大学4	250409
12:57	澤田 直志	早稲田大学3	510594
12:58	竹重 拓輝	大阪大学4	507507
12:59	伊藤 良介	京都大学4	507411
13:00	金子 隼人	東京大学2	513027
13:01	栗生 啓介	名古屋大学4	507355
13:02	宮岡 竜也	早稲田大学3	510502
13:03	羽田 拓真	横浜国立大学3	510454
13:04	市川 礼偉	横浜市立大学4	507409
13:05	清水 嘉人	北海道大学4	506392
13:06	小高 敦志	岩手大学4	245715
13:07	川崎 拓巴	東京理科大学3	518922
13:08	坂本 慧	新潟大学4	514064
13:09	森清 星也	早稲田大学2	510612
13:10	和佐田 祥太郎	京都大学4	510487
13:11	衣笠 匠斗	東京大学3	251010
13:12	村田 千真	筑波大学4	239963
13:13	朝間 玲羽	東京大学4	244600
13:14	岩淵 悠太	新潟大学4	514058
13:15	藤原 悠平	東京大学4	244653
13:16	藤井 一樹	名古屋工業大学4	507384
13:17	二俣 真	京都大学3	510495
13:18	高木 一人	北海道大学3	250417
MEエントリーリストは右上に続く			

ME (2/2) 左下の続き			
スタート時刻	氏名	学校・登録年数	e-card番号
13:19	菅波 崇志	筑波大学3	258991
13:20	立松 空	早稲田大学3	510497
13:21	本庄 祐一	東京大学3	251151
13:22	祖父江 有祐	筑波大学3	259029
13:23	森田 邦夫	静岡大学4	250022
13:24	大西 肇	北海道大学3	255876
13:25	平岡 丈	京都大学3	510640
13:26	根岸 健仁	一橋大学3	513035
13:27	平岩 伊武季	筑波大学3	512729
13:28	阿部 遼太郎	横浜市立大学4	507533
13:29	伊藤 元春	東京大学4	244606

WE 参加人数29			
スタート時刻	氏名	学校・登録年数	e-card番号
12:30	吉田 菜々子	東京理科大学2	510610
12:31	栗山 ももこ	横浜市立大学3	512370
12:32	高野 澄佳	大阪大学2	513275
12:33	明田 彩里	椋山女学園大学4	244528
12:34	猪股 紗如	千葉大学3	513233
12:35	榎戸 麻衣	日本女子大学3	510508
12:36	須本 みずほ	椋山女学園大学4	245058
12:37	佐藤 隆奈	筑波大学3	258994
12:38	五十嵐 羽奏	名古屋大学4	244542
12:39	樋口 佳那	筑波大学1	259009
12:40	大石 遥	新潟大学2	514063
12:41	明神 紀子	聖心女子大学4	244654
12:42	長瀬 麻里子	お茶の水女子大学3	251256
12:43	中神 智香	静岡大学4	505255
12:44	松本 萌恵	神戸大学3	510331
12:45	大栗 由希	茨城大学4	506123
12:46	福田 有紗	国際基督教大学2	513029
12:47	今井 里奈	椋山女学園大学3	510350
12:48	藤井 春菜	北海道大学3	258990
12:49	山崎 璃果	椋山女学園大学4	245057
12:50	永山 尚佳	神戸大学4	507477
12:51	上島 じゅ菜	お茶の水女子大学3	251255
12:52	佐藤 美那子	横浜国立大学4	507535
12:53	重岡 慧実	京都大学3	510486
12:54	田切 香帆	北海道大学1	240237
12:55	武石 瑞季	岩手大学3	250375
12:56	高野 玲奈	横浜市立大学3	510458
12:57	菊池 美結	岩手大学4	245717
12:58	阿部 悠	実践女子大学4	244709

10

参加者数一覧

10.1 ミドル・ディスタンス競技

コード	学校名	加盟員数	ME	WE	MA	MB	MF	WA	WB	WF	出場	欠場
101	岩手大学	42	3	2	0	0	0	1	0	0	6	36
103	北海道大学	41	7	2	2	0	3	0	0	0	14	27
141	岩手医科大学	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0
201	金沢大学	39	0	0	0	0	0	0	0	0	0	39
203	新潟大学	66	2	1	15	0	5	3	0	0	26	40
302	お茶の水女子大学	2	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0
303	慶應義塾大学	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28
305	千葉大学	31	1	1	5	0	7	3	0	0	17	14
306	中央大学	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
307	筑波大学	34	7	2	6	0	5	0	0	2	22	12
309	東京大学	49	11	0	8	0	7	0	0	0	26	23
310	東京農工大学	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	26
311	東京理科大学	26	1	1	1	0	3	1	0	3	10	16
313	法政大学	10	0	0	1	0	3	0	0	1	5	5
315	横浜国立大学	37	2	1	2	0	5	0	0	3	13	24
317	早稲田大学	37	5	0	2	0	3	0	0	1	11	26
319	実践女子大学	11	0	1	0	0	0	0	0	3	4	7
341	一橋大学	17	1	0	5	0	3	1	0	1	11	6
342	電気通信大学	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
362	聖心女子大学	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0
364	日本女子大学	21	0	1	0	0	0	1	0	1	3	18
368	芝浦工業大学	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
369	津田塾大学	4	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2
370	気象大学校	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
372	茨城大学	23	1	1	2	0	2	2	0	0	8	15
378	横浜市立大学	16	3	2	0	0	1	3	0	2	11	5
384	関東学院大学	8	0	0	2	0	0	1	0	0	3	5
388	国際基督教大学	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0
391	十文字女子大学	5	0	0	0	0	0	1	1	0	2	3
396	明治大学	3	0	0	0	0	2	0	0	1	3	0
401	静岡大学	33	2	1	9	2	7	0	0	0	21	12
402	名古屋大学	78	1	1	14	1	14	2	0	0	33	45
441	名古屋工業大学	6	2	0	3	0	0	0	0	0	5	1
444	椋山女学園大学	36	0	4	0	0	0	1	0	6	11	25
501	大阪大学	37	1	1	7	0	11	5	0	0	25	12
504	京都大学	81	7	1	13	2	16	2	0	7	48	33
506	神戸大学	31	1	2	3	4	4	2	1	1	18	13
507	立命館大学	14	0	0	2	0	4	1	1	2	10	4
541	京都女子大学	20	0	0	0	0	0	4	3	3	10	10
544	神戸市立工業高等専門学校	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0
545	奈良女子大学	36	0	0	0	0	0	2	2	2	6	30
601	広島大学	15	1	0	0	0	1	0	0	1	3	12
	合計	976	60	29	104	9	106	36	8	42	394	582

10.2 リレー競技

- ・MER/WER/MAR/WAR/XAR/BRはチーム数を記載しています。
- ・混成チームは申し込みの代表チームに加えて計算しています。

コード	学校名	加盟 員数	MER	WER	MAR	WAR	XAR	BR	出場 人数	欠場 人数
101	岩手大学	42	1	1	0	0	0	0	6	36
103	北海道大学	41	1	0	3	0	0	0	12	29
141	岩手医科大学	1	1	0	0	0	0	0	3	-2
201	金沢大学	39	0	0	0	0	0	0	0	39
203	新潟大学	66	1	1	5	0	1	0	24	42
302	お茶の水女子大学	2	0	1	0	0	0	0	3	-1
303	慶應義塾大学	28	0	0	0	0	0	0	0	28
305	千葉大学	31	1	1	2	0	1	0	15	16
306	中央大学	1	0	0	0	0	0	0	0	1
307	筑波大学	34	1	1	4	0	0	2	24	10
309	東京大学	49	1	0	8	0	0	0	27	22
310	東京農工大学	26	0	0	0	0	0	0	0	26
311	東京理科大学	26	1	1	0	0	0	0	6	20
313	法政大学	10	0	0	2	0	0	0	6	4
315	横浜国立大学	37	1	1	2	0	0	0	12	25
317	早稲田大学	37	1	0	2	0	0	0	9	28
319	実践女子大学	11	0	1	0	0	0	1	6	5
341	一橋大学	17	1	0	0	0	1	1	9	8
342	電気通信大学	6	0	0	0	0	0	0	0	6
362	聖心女子大学	1	0	0	0	0	0	0	0	1
364	日本女子大学	21	0	1	0	0	0	0	3	18
368	芝浦工業大学	1	0	0	0	0	0	0	0	1
369	津田塾大学	4	0	0	0	1	0	0	3	1
370	気象大学校	1	0	0	0	0	0	0	0	1
372	茨城大学	23	1	1	0	0	0	0	6	17
378	横浜国立大学	16	1	1	0	0	1	1	12	4
384	関東学院大学	8	0	0	0	0	0	0	0	8
388	国際基督教大学	1	0	0	0	0	0	0	0	1
391	十文字学園女子大学	5	0	1	0	0	0	0	3	2
396	明治大学	3	0	0	0	0	0	1	3	0
401	静岡大学	33	1	0	5	0	0	0	18	15
402	名古屋大学	78	1	1	6	0	0	2	30	48
441	名古屋工業大学	6	1	0	1	0	0	0	6	0
444	椙山女学園大学	36	0	1	0	2	0	0	9	27
501	大阪大学	37	1	1	1	1	0	2	18	19
504	京都大学	81	1	1	10	0	0	3	45	36
506	神戸大学	31	1	1	0	0	0	2	12	19
507	立命館大学	14	1	0	0	0	0	1	6	8
541	京都女子大学	20	0	1	0	1	0	2	12	8
544	神戸市立工業高等専門学校	1	0	0	0	0	0	0	0	1
545	奈良女子大学	36	0	1	0	1	0	1	9	27
601	広島大学	15	0	0	0	0	0	0	0	15
	合計	976	60	57	153	18	12	57	357	619

実行委員長	藤本 拓也 (京都16)	会場チーフ	塚越 真悠子 (大阪16)
競技責任者	田中 宏明 (京都11)	受付チーフ	松永 佳大 (京都15)
競技副責任者	実藤 俊太 (京都13)	スタートチーフ	塩平 真士 (北海道15)
運営責任者	増澤 すず (筑波16)	スタートサブチーフ	塚田 恵理 (跡見女子16)
渉外責任者	森河 俊成 (京都16)	フィニッシュチーフ	牧内 佑介 (京都13)
ミドルプランナー	築地 孝和 (神戸13)	演出チーフ	柴沼 健 (早稲田15)
リレープランナー	加藤 岬 (東京14)	救護チーフ	稲田 優幸 (茨城13)
併設大会実行委員長	堀 裕多 (大阪10)	計センチーフ	遠藤 匠真 (大阪15)
会計責任者	糸賀 翔大 (東京11)	計センサブチーフ	岩田 健太郎 (東京11)
広報責任者	小竹 佳穂 (筑波16)	誘導チーフ	渡辺 鷹志 (京都18)
人事責任者	出田 涼子 (大阪16)	Web担当	小池 棕介 (京都16)
エントリー責任者	藤本 雄大 (大阪16)	宿泊・交通担当	出原 優一 (東京15)
		資材担当	長良 颯太 (名古屋14)
		資材副担当	稲岡 雄介 (大阪15)
		モデルイベント担当	大野 絢平 (京都16)
		コロナ担当	岡本 ひなの (奈良女子15)

五百倉 大輔 (京都12)	三浦 一将 (名古屋16)	澤田 陸 (名古屋16)
稲吉 勇人 (名古屋13)	竹内 孝 (京都13)	中野 喬博 (東京14)
松本 拓也 (名古屋13)	青木 健悟 (名古屋15)	佐藤 和真 (神戸15)
植田 翔大 (東京14)	伴 広輝 (京都15)	山本 穂波 (椙山女学園14)
田中 陽祐 (京都15)	是永 大地 (名古屋14)	出口 智士 (名古屋16)
田中 優里 (奈良女子15)	鈴木 沙綾 (京都女子16)	横田 智也 (名古屋14)
沖中 陽幸 (京都16)	伊村 公志 (名古屋15)	藤井 菜実 (椙山女学園14)
長崎 早也香 (名古屋14)	近藤 あゆみ (奈良女子16)	神谷 孫斗 (金沢15)
松下 睦生 (京都11)	佐野 萌子 (京都女子15)	瀬川 出 (東京14)
北川 賢也 (横浜市立15)	伴 毅 (京都08)	鶴本 美樹 (大阪15)
大橋 美咲	篠原 幹博 (京都17)	徳地 研人 (京都17)
堀尾 健太郎 (名古屋14)	太田 裕士 (京都12)	小柴 滉平 (筑波12)

イベント・アドバイザー 木俣 順 (名古屋91)

日本学連ミドル・リレー担当理事 海老 成直 (中央04)

※ () 内は出身大学と入学年度です

地図作製／地図印刷／備品貸出 山川 克則 (ヤマカワオーエンタープライズ)

地図調査者 西村 徳真(NishiPRO)

配信事業協力 坂野 翔哉 (坂野山遊地図企画)

大会トレーナー 安藤 貴通

大会マスコットキャラ

あかびえ



あおびえ



疫病退散のご利益を持つ予言獣の姉妹
大会が無事に開催されるよう祈っている

2021年度日本学生オリエンテーリング選手権大会 ミドル・ディスタンス、リレー競技部門 報告書

発行日： 2022年5月6日（金）

発行者： 2021年度日本学生オリエンテーリング選手権大会
ミドル・ディスタンス、リレー競技部門 実行委員会

発行責任者： 藤本 拓也（実行委員長）

編集責任者： 小竹 佳穂（広報責任者）

Webサイト：<http://www.orienteering.com/~icmr2021/index.html>